

杉並区
子育て支援ニーズに関する
調査結果報告書

平成20年3月

杉 並 区

はじめに

杉並区では、平成17年に、子どもが育ち、子育てを支える新しい地域社会をつくるために、杉並のすべての人が今後目指していく方向と、その実現に向けて取り組んでいく道筋を明らかにすることを目的に、「杉並区子ども・子育て将来構想」を策定しました。また、その実現に向け、平成17年度から21年度の5年間に区が緊急に、優先的に取り組んでいく推進策を「子ども・子育て行動計画」として策定し、計画の実現に向けて、事業を進めてきました。

この間、我が国においても、平成17年には、出生数、出生率ともに過去最低となり、また初めて死亡数が出生数を上回る人口減社会が到来しました。また、「日本の将来推計人口」（平成18年12月の国立社会保障・人口問題研究所の中位推計）では、合計特殊出生率は、1.26、総人口は9000万人を下回り、その4割が65歳以上の高齢者、1年間に生まれる子どもの数は50万人を下回るといった厳しい見通しが示されています。

国も、こうした見通し等を受けて、すべての子ども、すべての家族を国民みなで支援する社会づくりを目指し、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略会議を設置し、平成19年12月に、就労と結婚・出産・子育ての二者択一構造の解決に向けて、「子どもと家庭を応援する日本」重点戦略を取りまとめたところです。

区における子ども・子育てを取り巻く環境も同様に変化が見られます。子育て環境の変化を捉え、よりの確な事業を推進していくために、子育て支援ニーズ調査を実施しました。

この報告書は、杉並区子ども・子育て将来構想に掲げる将来像である「すべての子どもと大人でつくる新しい杉並」の実現に向けて、今後の杉並区子ども・子育て行動計画の見直しに反映させていくことを第一に作成したものではありませんが、この報告書が子ども・子育てに関わりのある方のみにとどまらず、多くの皆様に活用していただければ幸いです。

最後に調査の実施にあたって、お忙しい中ご回答をいただきました多くの保護者の方々、ご協力をいただきました実施対象校となった小中学校の校長先生始め教職員の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

杉並区保健福祉部子育て支援課

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の概要.....	3
(1) 調査目的.....	3
(2) 調査の主な内容.....	3
(3) 調査対象及び調査方法.....	3
(4) 回収結果.....	3
2. 報告書における数値や用語の取扱い.....	4
II 調査結果	5
II-1 未就学児の保護者	7
1. 対象者の属性.....	9
(1) 回答者（調査対象未就学児からみた続柄）.....	9
(2) 調査対象の未就学児の年齢別構成.....	9
(3) 兄弟・姉妹の構成（調査対象未就学児を含めた子ども人数）.....	9
(4) 居住地域.....	10
2. 調査対象の未就学児と家族の状況.....	11
(1) 両親の状況.....	11
(2) 同居人の続柄（調査対象未就学児からみた関係）.....	18
(3) 家族の人数.....	18
(4) 主に世話（育児）をしている人の調査対象未就学児との続柄.....	19
(5) 主に世話（子育て）をしている人の就労状況.....	19
(6) 休業予定期間.....	20
(7) 主に子どもの世話をしている人の今後の就労意向.....	21
3. 住居状況と住まいに関する意識.....	22
(1) 住まいの形態.....	22
(2) 家賃.....	24
(3) 住まいの建設時期.....	24
(4) 住まいの広さ.....	25
(5) 現在の住まいに対する永住意識.....	25
(6) 転居したい理由.....	26
(7) 住宅施策に対するニーズ.....	27
4. 出産前後の状況について.....	28

(1) 産婦・新生児訪問の経験	28
(2) 産婦・新生児訪問について	29
(3) 生後半年位までの間で大変だったこと	30
(4) 生後半年位までで一番大変だった時期	30
(5) 出産後の母親をサポートするサービスで必要なもの	31
5. 保育サービス等の利用希望	32
(1) 保育サービス等の利用希望と希望する日数	32
(2) 保育サービス等の利用希望の内容について	35
(3) 現在主に利用しているサービス	37
(4) 幼稚園利用者の「預かり」ニーズについて	38
(5) 保育園利用者の「預かり」ニーズについて	39
(6) 病気で幼稚園、保育園等を休んだ経験の有無	40
(7) 子どもが病気で幼稚園、保育園等を休んだときの対処方法	41
(8) 子どもが病気で幼稚園等を休んだときの対応の困難さ	42
(9) 子どもが病気で幼稚園等を休んだときに利用した保育サービス	43
6. 「一時預かり」の利用について	44
(1) 「一時預かり」の利用希望	44
(2) 「一時預かり」を利用したい頻度	45
(3) 「一時預かり」の利用を希望する理由	46
(4) 一時的な保育サービスの利用経験の有無（過去半年間）	47
(5) これまでに利用した一時的な保育サービスの種類	48
7. 子育て支援サービスの周知度・利用意向	49
(1) 子育て支援サービス	49
(2) 子育て応援券の利用について	50
(3) 子育て応援券の満足度	52
(4) 子育て応援券を利用しない理由	53
(5) 子育て応援券で今後利用したいサービス	54
(6) ひととき保育の満足度	55
(7) 「ひととき保育」に対する不満の理由	56
(8) 児童館の利用頻度	57
(9) 児童館に対する要望	58
(10) すきなみ子育てサイトへの希望	59
(11) 学童クラブへの入会希望	60
8. 子育てについて	61
(1) 子育てに対する感想	61
(2) 子育てでよかったと感じていること	62
(3) 子育てで悩んでいること	63
(4) 子育ての相談相手	65

(5) 子育てに関する情報の入手方法.....	66
9. 地域での子育て支援について.....	67
(1) 親同士のつきあいや子育て仲間の有無.....	67
(2) 子育て仲間づくりへの参加希望.....	68
(3) 子育て仲間づくりへ参加したくない理由.....	69
(4) 安心して子育てするための必要な地域の取り組み.....	70
(5) 子育てボランティア等への参加希望.....	71
10. 子どもの外出環境について.....	72
(1) 子どもとの外出の際に困ること.....	72
(2) よく利用する公共施設.....	74
11. 子ども関連施策に対するニーズ.....	75
(1) 子どもに関する施策の重点度.....	75
II-2 小学生の保護者.....	77
1. 対象者の属性.....	79
(1) 回答者（調査対象児童からみた続柄）.....	79
(2) 調査対象の児童の学年別構成.....	79
(3) 兄弟・姉妹の構成（調査対象児童）.....	79
2. 調査対象の児童と家族の状況.....	81
(1) 両親の状況.....	81
(2) 同居人の続柄（調査対象児童からみた関係）.....	83
(3) 家族の人数.....	83
(4) 主に子どもの世話をしている人の続柄（対象児童からみた関係）.....	84
(5) 主に子どもの世話をしている人の就労状況.....	84
(6) 主に子どもの世話をしている人の今後の就労意思.....	85
3. 住居状況と住まいに関する意識.....	86
(1) 住まいの形態.....	86
(2) 家賃.....	87
(3) 住まいの建設時期.....	88
(4) 住まいの広さ.....	88
(5) 現在の住まいに対する永住意識.....	89
(6) 転居したい理由.....	90
(7) 住宅施策に関するニーズ.....	91
4. 一時保育（トワイライト事業）の利用ニーズ.....	92
(1) 一時保育（トワイライト事業）の希望.....	92
(2) 一時保育（トワイライト事業）利用の希望頻度.....	93

5. 調査対象児童の家庭や地域での様子.....	94
(1) 児童との会話.....	94
(2) 1日の会話の平均時間.....	95
(3) 一番会話をする相手.....	96
(4) 会話の内容.....	97
(5) 地域活動やグループ活動などへの参加状況.....	98
(6) 参加しているまたは参加させたい地域活動やグループ活動.....	99
(7) 地域活動やグループ活動に参加しない理由.....	100
(8) よく利用する公共施設.....	101
(9) 放課後の過ごし方.....	102
6. 子育てについて.....	111
(1) 子育てに関する感想.....	111
(2) 子育てでよかったこと.....	112
(3) 子育てで悩んでいること.....	113
(4) 子育ての相談相手.....	116
(5) 子育て情報の入手方法.....	117
7. 地域での子育て支援について.....	118
(1) 子育て仲間.....	118
(2) 子育て仲間づくりへの参加希望.....	119
(3) 子育て仲間づくりへ参加したくない理由.....	120
(4) 地域の取り組み.....	121
(5) 子育てボランティア等への参加希望.....	122
8. 子どもの外出環境について.....	123
(1) 子どもの遊び場.....	123
(2) 子どもとの外出の際に困ること.....	124
(3) 児童館へ望むこと.....	125
9. 学校教育や子ども関連施策に対するニーズ.....	126
(1) 学校教育へ望むこと.....	126
(2) 子どもに関する施策.....	127
(3) 子育て支援の環境づくりに対する施策.....	128
II-3 中・高校生の保護者.....	129
1. 対象者の属性.....	131
(1) 回答者（調査対象生徒からみた続柄）.....	131
(2) 調査対象生徒の学年別構成.....	131
(3) 兄弟・姉妹構成（調査対象生徒）.....	131
2. 調査対象の生徒と家族の状況.....	133

(1) 両親の状況.....	133
(2) 同居人の続柄（調査対象生徒からみた関係）.....	135
(3) 家族の人数.....	135
3. 住居状況と住まいに関する意識.....	136
(1) 住まいの形態.....	136
(2) 家賃.....	137
(3) 住まいの建設時期.....	138
(4) 住まいの広さ.....	138
(5) 現在の住まいに対する永住意識.....	139
(6) 転居したい理由.....	140
(7) 住宅施策に対するニーズ.....	141
4. 子育てについて.....	142
(1) 子育てに関する感想.....	142
(2) 子育てでよかったと思うこと.....	143
(3) 子育てに関する悩みの有無.....	144
(4) 子育てに関する相談相手の有無.....	147
(5) 子育て情報の入手方法.....	148
5. 子どもの育成・子育てに関する施策ニーズ.....	149
(1) 子どもに関わる社会問題で気になること.....	149
(2) 子どもが過ごす場所に対する希望.....	150
(3) 子どもに関する施策ニーズ.....	151
(4) 子育て支援の環境づくりに対する施策.....	152
Ⅲ 自由意見.....	153
(1) 就学前児童の保護者から寄せられた主な意見.....	155
(2) 小学生の保護者から寄せられた主な意見.....	158
(3) 中・高校生の保護者から寄せられた主な意見・要望.....	159
Ⅳ 資料：アンケート票.....	161



I 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査目的

杉並区に居住する子どもを持つ保護者の子育て支援サービスに対するニーズや生活意識及び地域の子育て環境の実態等を把握し、次のことに関する基礎的数値を得ることを目的とするものです。

- ① 「杉並区子ども・子育て行動計画」の見直し
- ② 今後の子ども・青少年施策を効果的に進めるための資料

(2) 調査の主な内容

- ① 家族の状況及び住居の環境
- ② 子どもを取り巻く家族や地域の現状と子育ての実態
- ③ 子育て支援サービスの利用意向

(3) 調査対象及び調査方法

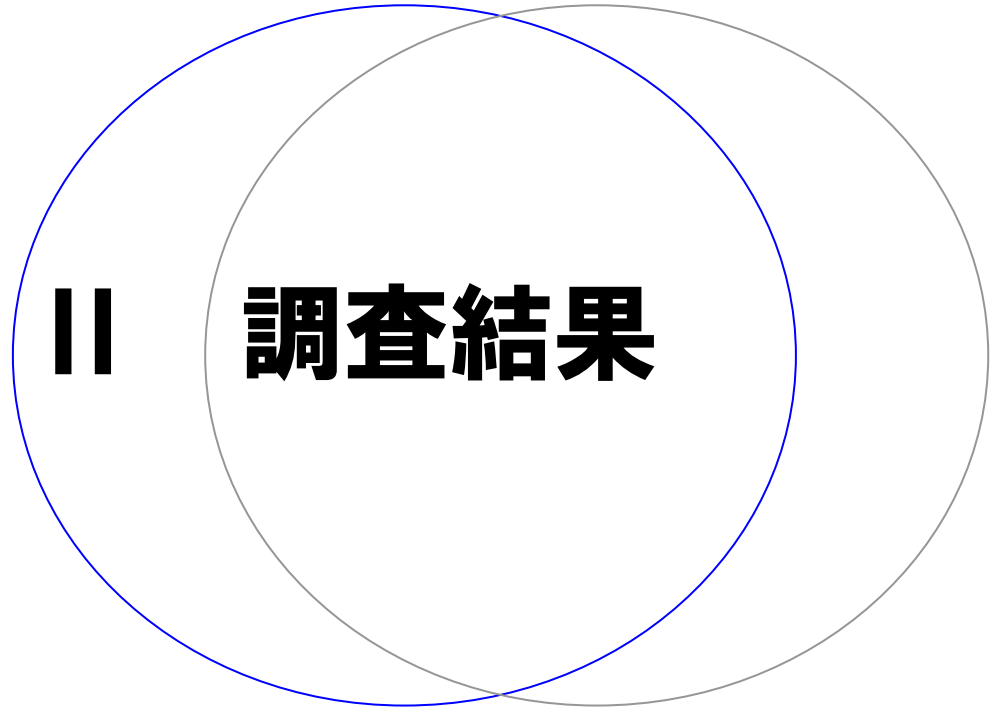
調査対象	未就学児(0歳～5歳)の保護者	区内公立小学校に通う児童(1年生～6年生)の保護者	区内に住む中学生・高校生(各1年生～3年生)の保護者
標本数	2,000人	822人	456人
抽出法 調査方法	住民基本台帳から該当児童を無作為抽出 郵送による配布・回収	任意の区内小学校5校27学級を抽出し、各学校を通じて配布回収	○任意の区内中学校3校8学級を抽出し、各学校を通じて配布回収 ○住民基本台帳から区内居住の高校生から無作為抽出し、郵送による配布・回収
調査時期	平成19年11月29日～12月28日		

(4) 回収結果

調査区分	配布数(票) A	有効回収数(票) B	有効回収率 B/A
①未就学児の保護者	2,000	1,032	51.6%
②小学1～6年生の保護者	822	584	71.0%
③中学1～3年生の保護者	256	155	60.5%
④高校1～3年生の保護者	200	96	48.0%

2. 報告書における数値や用語の取扱い

- ①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。このため、必ずしも合計値が100%に合致しない場合があります。
- ②基数となるべき実数（各設問の回答者数）は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③質問の終わりに（複数回答）とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、各回答の比率の合計値が100%を超える場合があります。
- ④図表として示したのものの中には「無回答者」を省略した部分があります。そのため、区分ごとの実数（nの値）の合計が全体の標本数と一致しないことがあります。
- ⑤小学生の保護者に対する調査のうち、問14は12項目（その他を含む）ごとに該当するか否かを問う設問で、本来、シングルアンサーとして処理を行うものですが、ここでは分布状況がわかりやすくなる便宜上、各項目を「選択肢」と見立て、マルチアンサーとして集計処理した結果を示しています。



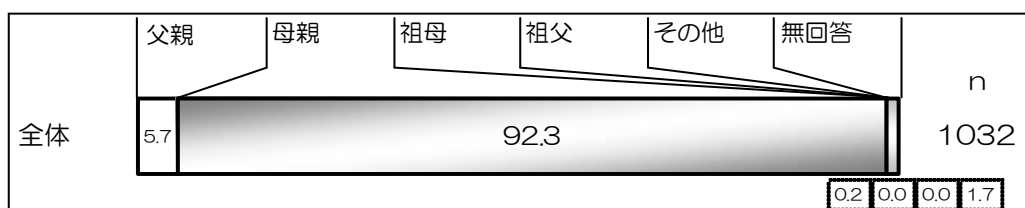
II 調査結果

II-1 未就学児の保護者

1. 対象者の属性

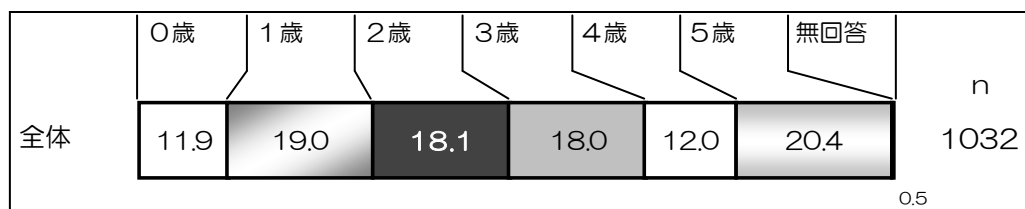
(1) 回答者（調査対象未就学児からみた続柄）

この調査に対する回答者を調査対象の就学前児童（以下「未就学児」という。）との続柄でみていくと、「母親」が92.3%、「父親」が5.7%、「祖母」が0.2%となっています。



(2) 調査対象の未就学児の年齢別構成

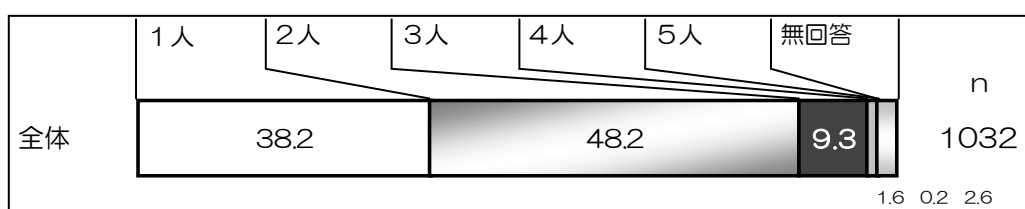
調査対象となっている0歳から5歳までの未就学児の年齢別構成をみると、「0歳児」が11.9%、「1歳児」が19.0%、「2歳児」が18.1%、「3歳児」が18.0%、「4歳児」が12.0%、「5歳児」が20.4%と、0歳児、4歳児が他に比べ少ないものの、ほぼ各年齢にわたって均等化された年齢分布となっています。



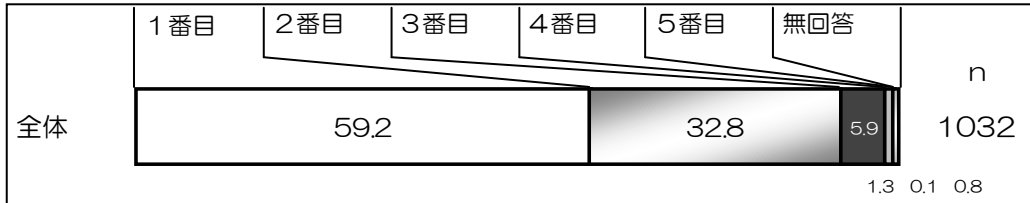
(3) 兄弟・姉妹の構成（調査対象未就学児を含めた子ども人数）

調査対象の未就学児を含めた兄弟・姉妹の人数では、「2人」が半数近くの48.2%までを占め、次いで「1人」が38.2%となっており、両者で全体の8割を超えます。

このほかでは、「3人」が9.3%、「4人」が1.6%、「5人」が0.2%という結果です。

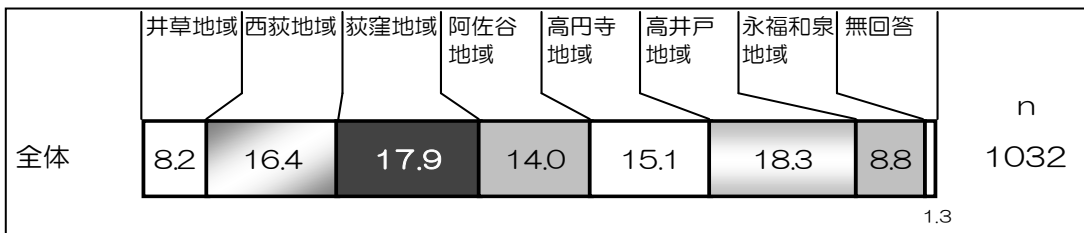


また、調査対象の未就学児について、兄弟・姉妹の中での順位をたずねた結果では、「一番目（第一子）」と回答した割合が全体の 59.2%と 6 割ほどに上ります。



(4) 居住地域

回答者の居住地域別構成をみると、「高井戸地域」が 18.3%、「荻窪地域」が 17.9%、「西荻地域」が 16.4%、「高円寺地域」が 15.1%、「阿佐谷地域」が 14.0%、「永福和泉地域」が 8.8%、「井草地域」が 8.2%という結果であり、後者の 2 地域を除くとほぼ均等化された回答結果となっています。



【 地域区分表 】

①井草地域	②西荻地域	③荻窪地域	④阿佐谷地域	⑤高円寺地域	⑥高井戸地域	⑦永福和泉地域
井草	善福寺	清水	阿佐谷北	高円寺北	久我山	方南
上井草	桃井	本天沼	阿佐谷南	高円寺南	高井戸西	和泉
下井草	上荻	天沼	成田東	和田	高井戸東	永福
	今川	荻窪	成田西	堀ノ内	上高井戸	大宮
	西荻北	南荻窪	松ノ木	梅里	下高井戸	
	西荻南	宮前			浜田山	
	松庵					

2. 調査対象の未就学児と家族の状況

(1) 両親の状況

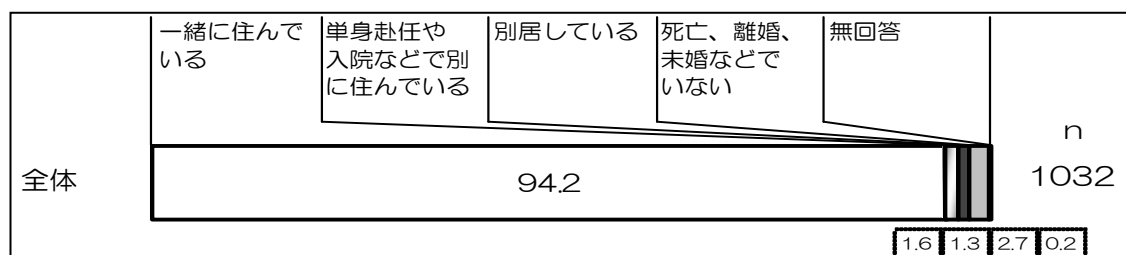
問3 宛名のお子さんのご両親の状況についておうかがいします。

■ (1) 父親の同居状況と就労状況

■ 父親の同居状況：

父親の同居状況では、「一緒に住んでいる」が94.2%で最も多く、以下、「死亡、離婚、未婚などでいない」が2.7%、「単身赴任や入院などで別に住んでいる」が1.6%、「別居している」が1.3%となっています。

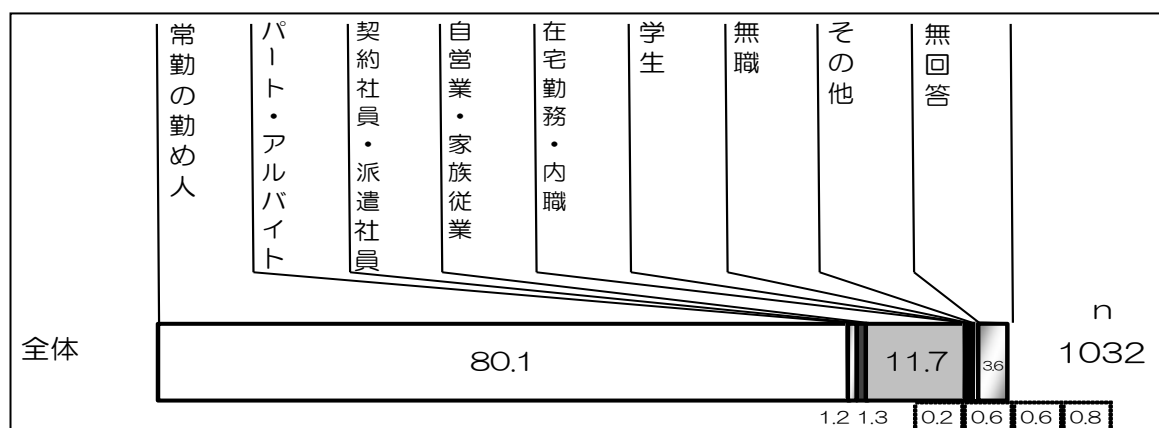
図表 1 父親の同居状況（全体）



■ 父親の就労状況：

父親の就労状況について、就業形態（職種）別でみると、「常勤の勤め人」（80.1%）、「自営業・家族従業」（11.7%）、「契約社員・派遣社員」（1.3%）、「パート・アルバイト」（1.2%）、「学生」（0.6%）、「在宅勤務・内職」（0.2%）の順となっているほか、「無職」が0.6%などという構成です。

図表 2 父親の就労状況（全体）



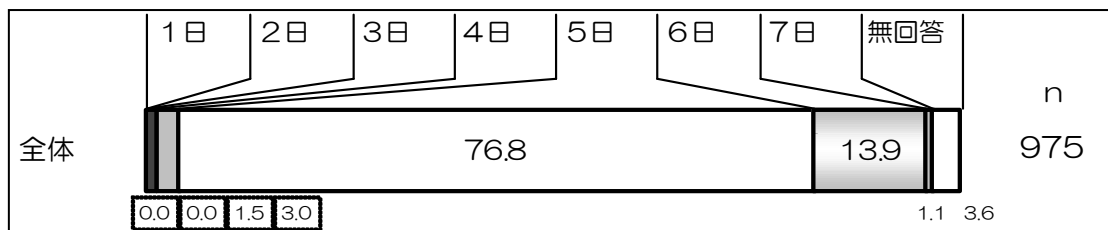
■父親の平日の就労日数・勤務時間：（「無職」、「学生」、「その他」を除く。）

「無職」、「学生」、「その他」と回答した人を除く父親の就労日数について、平日での1週間あたりの結果をみると、いずれの場合にも「週5日」が最も多くを占め、「常勤」では8割ほど（76.8%）に上るなど、週休2日制が広く普及していることを物語っています（図表3）。

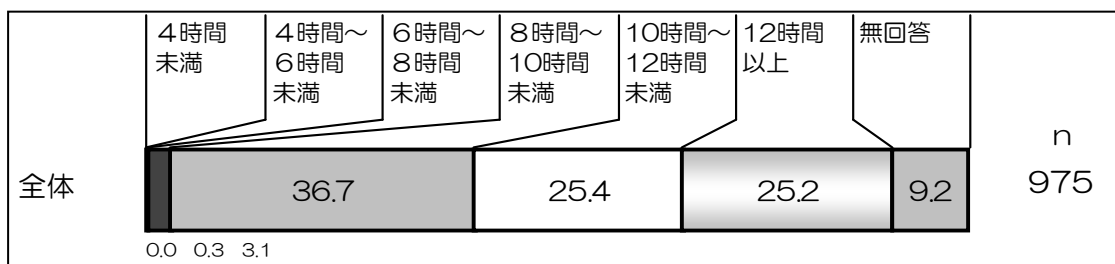
一方、平日での平均勤務時間をみると、「1日当たり8時間以上10時間未満」が36.7%と最も多い結果となっていますが、「10時間以上12時間未満」も25.4%と4人に1人に上るほか、「12時間以上」も25.2%と、いずれの職種を通じて勤務の長期時間化が常態となっている状況が示されます。（図表4）

帰宅時間をもても、「18時～20時台」が3割ほど（28.1%）を占めますが、「21時～23時台」が39.0%と最も多く、これに「0～2時台」の9.5%を加えると、21時台以降の帰宅となっている父親の割合が約半数に上ります。（図表5）

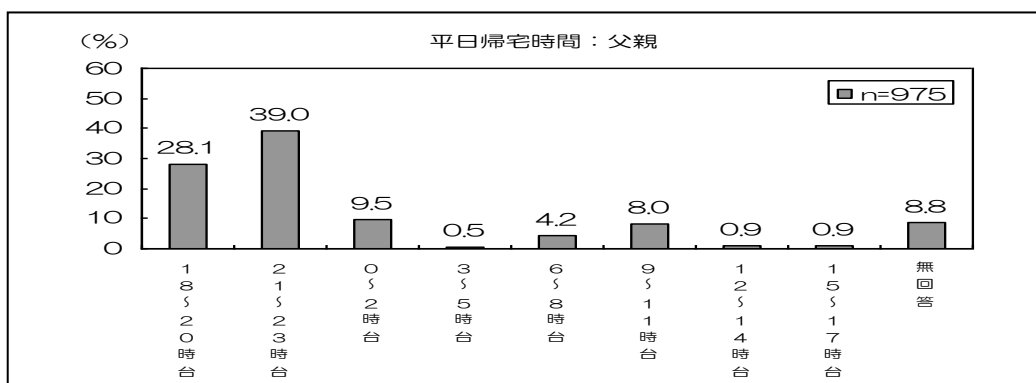
図表 3 父親の平日の週あたりの就労日数（全体）



図表 4 父親の平日での1日当たりの平均勤務時間（全体）



図表 5 父親の平日の帰宅時間（全体）



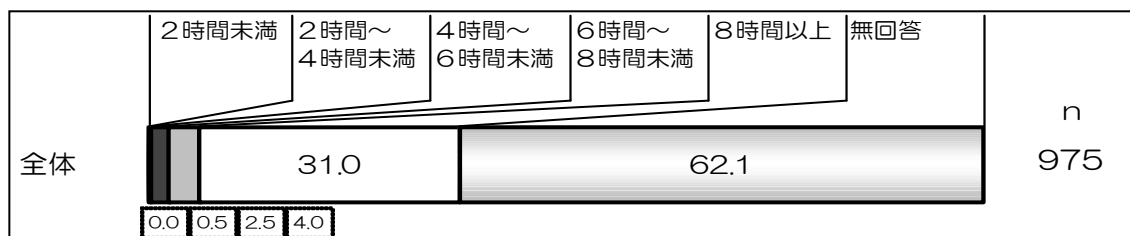
■土曜・日曜日の父親の勤務時間：（「無職」、「学生」、「その他」を除く）

「無職」、「学生」、「その他」と回答した人を除く父親の勤務時間について、1か月あたりの土曜・日曜日での勤務日数をみると、「月に4～5日」が最も多く15.7%、次いで「月に2～3日」が10.8%、「月に1日」が5.5%などとなっています。

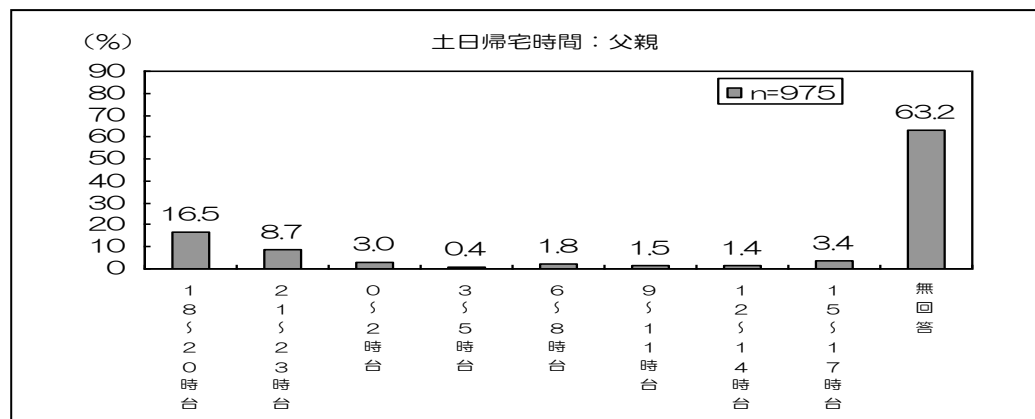
土曜・日曜日での1日あたりの勤務時間は、「8時間以上」が31.0%を占めます。

帰宅時間では、「18時～20時台」が全体の16.5%（土日の勤務に該当する人302人を基数とした場合には、その53.3%）に上り、21時台以降2時台までの割合が11.7%（上記302人を基数とした場合には、その37.7%）という結果です。

図表 6 父親の土曜・日曜日の平均勤務時間（全体）



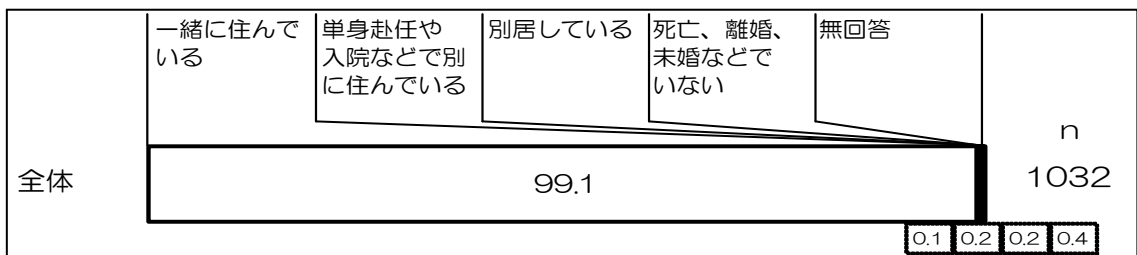
図表 7 父親の土曜・日曜日の帰宅時間（全体）



■ (2) 母親の同居状況と就労状況

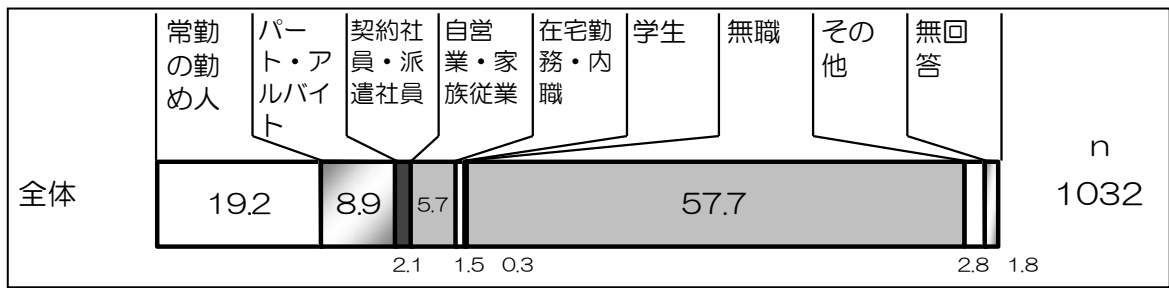
■ 母親の同居状況：
 母親の同居状況では、「一緒に住んでいる」が99.1%までを占め、以下、「死亡、離婚、未婚などでいない」と「別居している」が0.2%、「単身赴任や入院などで別に住んでいる」が0.1%となっています。

図表 8 母親の同居状況（全体）

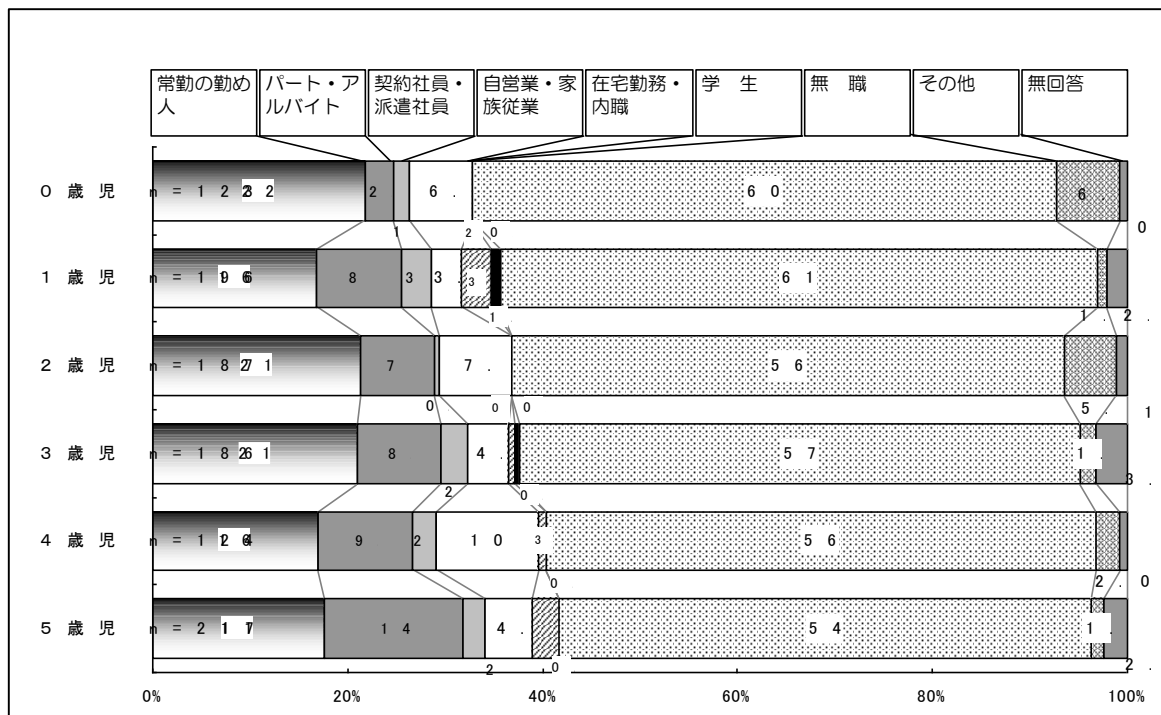


■ 母親の就労状況：
 母親の就労状況について、就業形態（職種）別でみると、「無職」（専業主婦）が6割近く（57.7%）までを占めます。その一方で、「常勤の勤め人」も19.2%と2割ほどに上るほか、「自営業・家族従業」が5.7%、「パート・アルバイト」が8.9%、「契約社員・派遣社員」が2.1%、「在宅勤務・内職」が1.5%、「学生」が0.3%の順となっています。
 調査対象の子どもの年齢との関係でみると、各年齢ともに「無職」（専業主婦）が最も多く、それぞれの6割前後に上る一方で、「常勤」も2割前後を占め、「0歳児」の保護者の場合でも22.0%に上ります。

図表 9 母親の就労状況（全体）



図表 10 母親の就労状況（年齢別）



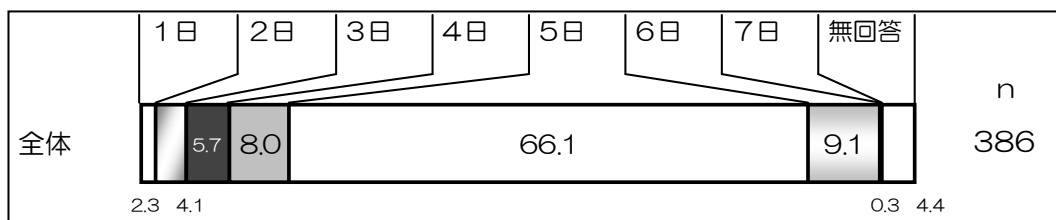
■母親の平日での就労日数・平均勤務時間：（「無職」、「学生」、「その他」を除く。）

「無職」（専業主婦）、「学生」、「その他」を除く母親の就労日数について、平日での1週間あたりの結果をみると、いずれも「週5日」が最も多く66.1%に上ります。

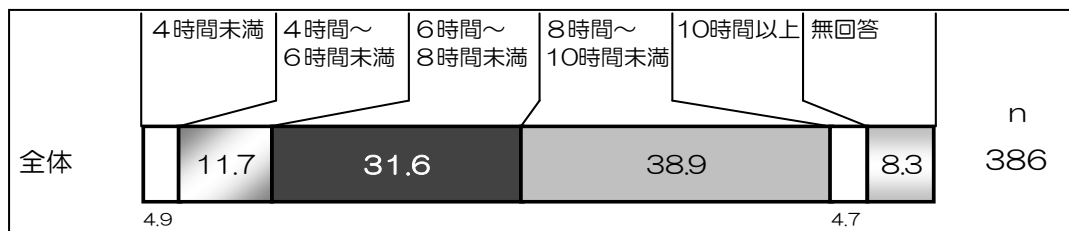
平日での平均勤務時間をみると、「1日当たり8時間以上10時間未満」が38.9%、「6時間以上8時間未満」が31.6%と、6時間から10時間未満の層が多い結果となっています。

平日の帰宅時間では、「18時～20時台」が半数ほど（50.5%）を占め、次いで「15時～17時台」が2割（22.0%）となっています。

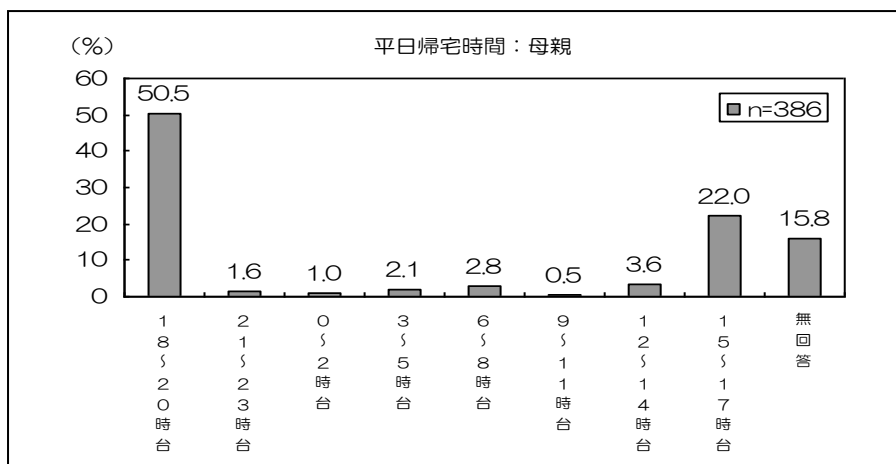
図表 11 母親の平日での週あたり平均就労日数（全体）



図表 12 母親の平日の平均勤務時間（全体）



図表 13 母親の平日の帰宅時間（全体）



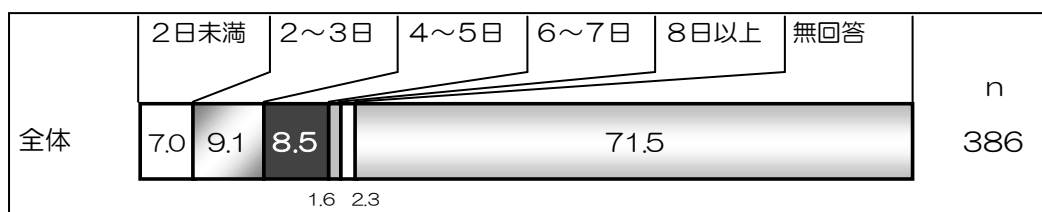
■母親の土曜・日曜日の就労状況：（「無職」、「学生」、「その他」を除く。）

「無職」（専業主婦）、「学生」、「その他」を除く母親の土曜・日曜日での平均就労日数（月当たり）をみると、「月に2～3日」または「月に4～5日」と回答した人が全体（土日勤務していない無回答を含む）のそれぞれ1割近く（9.1%と8.5%）に上ります（図表14）。

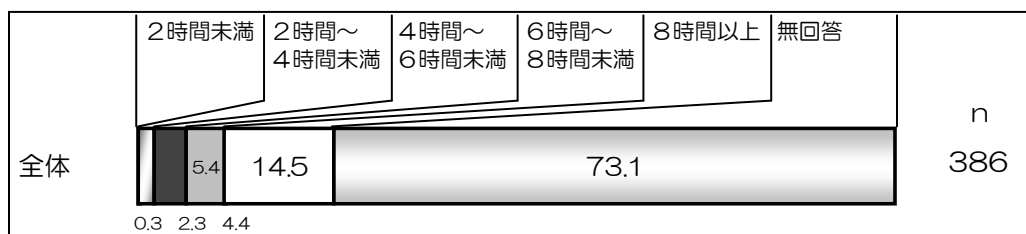
土曜・日曜日での平均勤務時間をみると、「1日当たり8時間以上」が最も多く全体（土日勤務していない無回答を含む）の14.5%に上ります（図表15）。

土曜・日曜日の帰宅時間では、「18時～20時台」が13.0%を占め、次いで「15時～17時台」が5.7%となっています（図表16）。

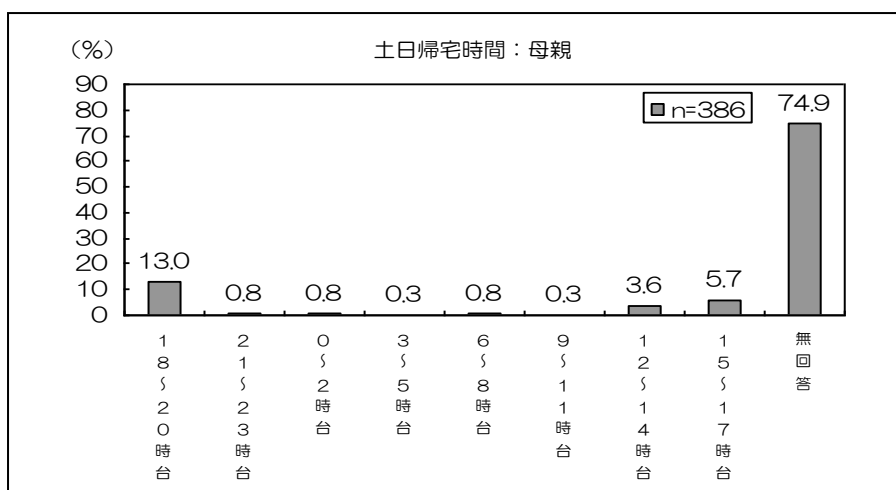
図表 14 母親の土・日曜日での月平均就労日数（全体）



図表 15 母親の土・日曜日での平均勤務時間（全体）



図表 16 母親の土・日曜日の帰宅時間（全体）

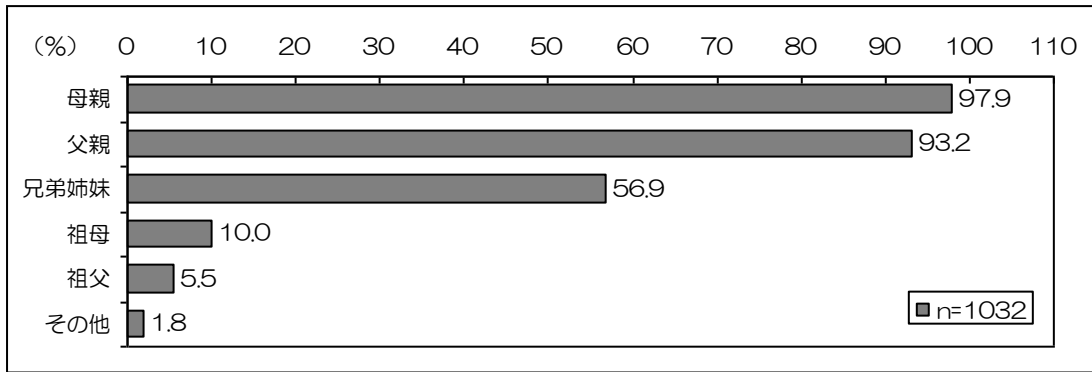


(2) 同居人の続柄（調査対象未就学児からみた関係）

問4 宛名のお子さんと同居されている方はどなたですか。なお、続柄は宛名のお子さん
からみた関係です。【複数回答】

調査対象の子どもと同居している人としては、「母親」や「父親」が9割を超えるほか、「兄弟姉妹」がいる世帯が6割近く（56.9%）に上ります。また、「祖母」との同居世帯が1割という結果です。

図表 17 調査対象の未就学児からみた同居人の続柄（複数回答／全体）

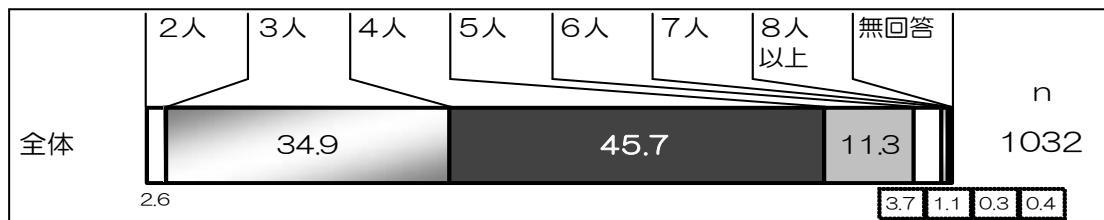


(3) 家族の人数

問5 宛名のお子さんと同居している家族全員（宛名のお子さんを含む）の人数は何
人ですか。

同居家族の人数では、調査対象の子どもを含めた「4人（世帯）」が半数近くの45.7%を
占め最も多く、次いで「3人（世帯）」が34.9%となっており、3～4人の世帯が8割ほどに
上ります。

図表 18 家族の人数（全体）

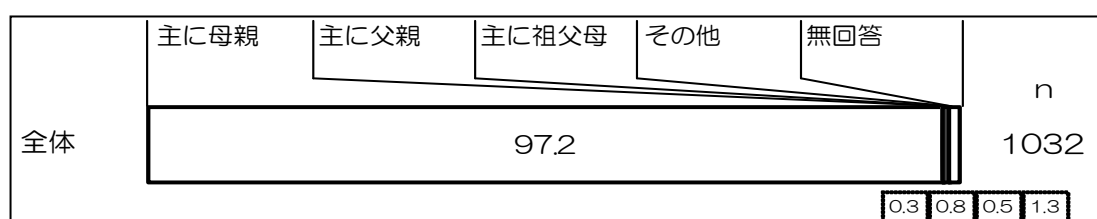


(4) 主に世話（育児）をしている人の調査対象未就学児との続柄

問6 宛名のお子さんの身の回りの世話をしている方はどなたですか。なお、続柄は宛名のお子さんからみた関係です。

調査対象の児童を主に世話している人としては、「母親」が97.2%を占め、依然として、育児の中心は母親という状況です。

図表 19 主に世話（育児）をしている人（全体）



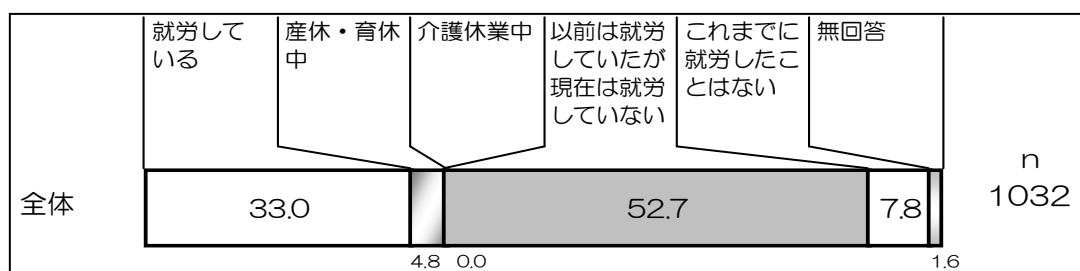
(5) 主に世話（子育て）をしている人の就労状況

問6付問1 問6で選んだ主にお子さんの世話をしている方の就労状況についておうかがいします。現在就労していますか。自営業、在宅勤務・内職等も「就労している」に含めてお答えください。

主に育児をしている人の就労状況を見ると、「以前は就労していたが現在は就労していない」人が半数を超え全体の52.7%を占め、妊娠・出産を機に退職した人の割合が圧倒的多数となっています。また「就労している」人は3割強（33.0%）、「産前産後休暇・育児休暇中」の人が4.8%という結果です。

一方、「これまでに就労したことはない」と回答した“就労未経験者”は全体の7.8%にとどまります。

図表 20 主に育児をしている人の就労状況（全体）

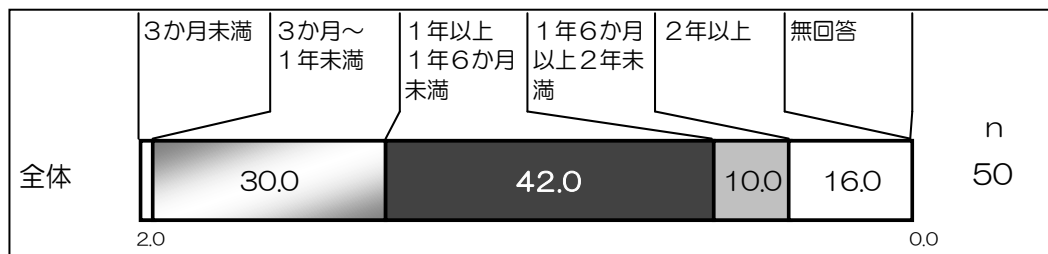


(6) 休業予定期間

問6付問2 問6付問1で「2. 産休・育休中」と回答した方におうかがいします。休業を予定している期間はどのくらいですか。

産前産後休暇、育児休暇の制度を利用している人（50人）にその利用予定期間をたずねた結果では、「1年以上1年6か月未満」が4割強（42.0%）で最も多く、次いで「3か月以上1年未満」が3割（30.0%）となっています。また、「2年以上」を予定している人も16.0%に及びます。

図表 21 産休・育休の予定期間（全体）



(7) 主に子どもの世話をしている人の今後の就労意向

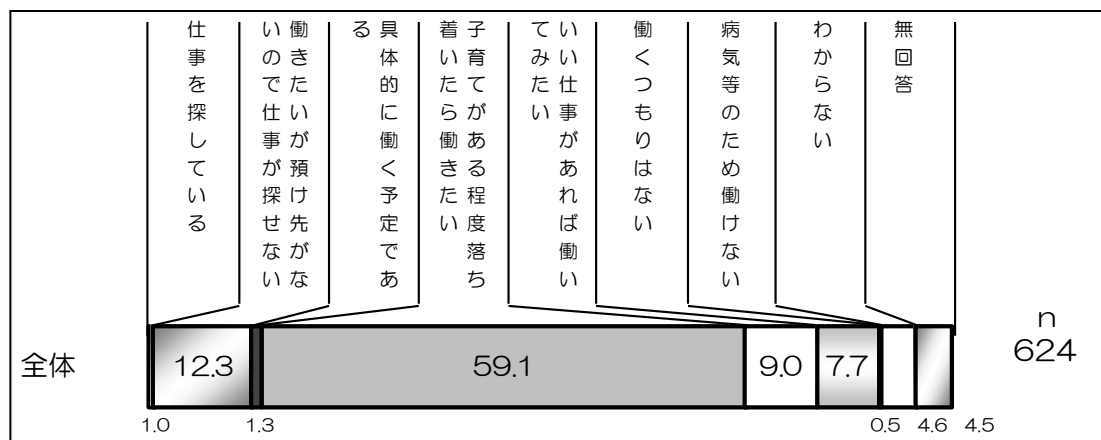
問6付問3 問6付問1で「4. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「5. これまでに就労したことがない」と回答した方におうかがいします。今後、就労の意思はありますか。

“就労未経験者”も含め、今後の就労意向をたずねた結果では、「働くつもりはない」と回答した人はわずか7.7%にとどまり、就労を希望している人が全体の8割近く（82.7%）に上ります。

就労希望者では、「子育てがある程度落ち着いたら働きたい」と希望する人が全体の約6割（59.1%）に上るほか、「いい仕事があれば働いてみたい」と就労の意向を持つ人も1割ほど（9.0%）を占めます。

その一方、「働きたいが預ける先がないので仕事を探せない」とする人も1割強（12.3%）を占めており、就労にあたって現に子どもの預け先に困っている人が存在する状況です。

図表 22 主に子どもの世話をしている人の今後の就労意向（全体）



3. 住居状況と住まいに関する意識

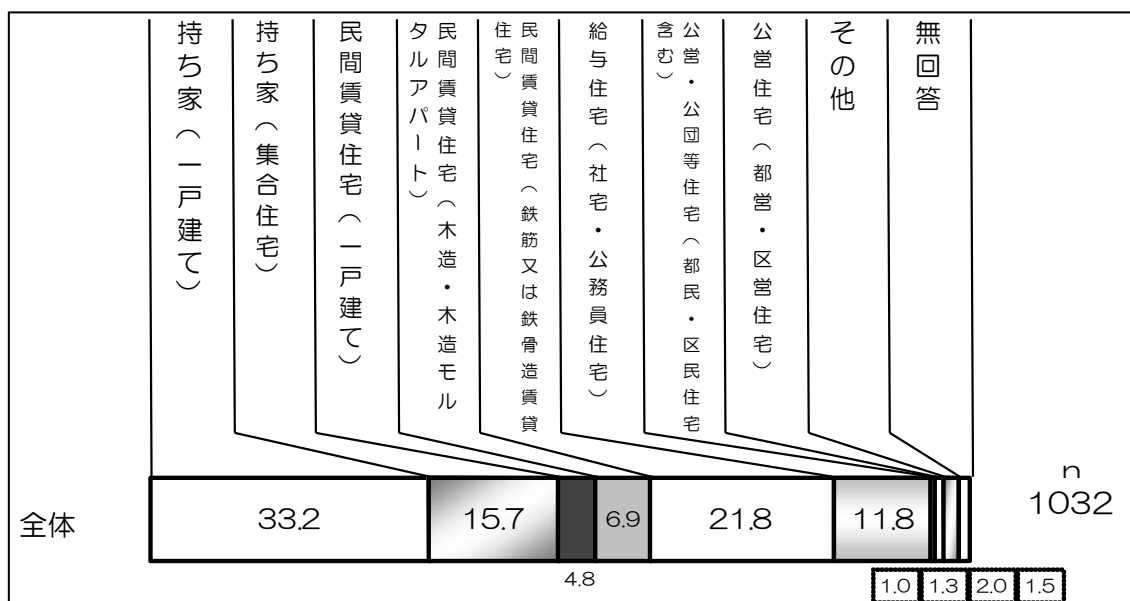
(1) 住まいの形態

問7 お住まいの形態についておうかがいします。

住居形態については、「持ち家（一戸建て）」が33.2%、「持ち家（集合住宅）」15.7%で“持ち家率”は48.9%となります。また、「民間賃貸住宅（鉄筋又は鉄骨造賃貸住宅）」21.8%、「民間賃貸住宅（木造・木造モルタルアパート）」6.9%、「民間賃貸住宅（一戸建て）」4.8%となっており、民間の賃貸住宅への入居者が全体の3割強（33.5%）となっています。

このほか、「給与住宅（社宅・公務員住宅）」11.8%、「公営・公団等住宅（都民・区民住宅を含む）」1.0%、「公営住宅（都営・区営住宅）」1.3%、「その他」2.0%となっています。

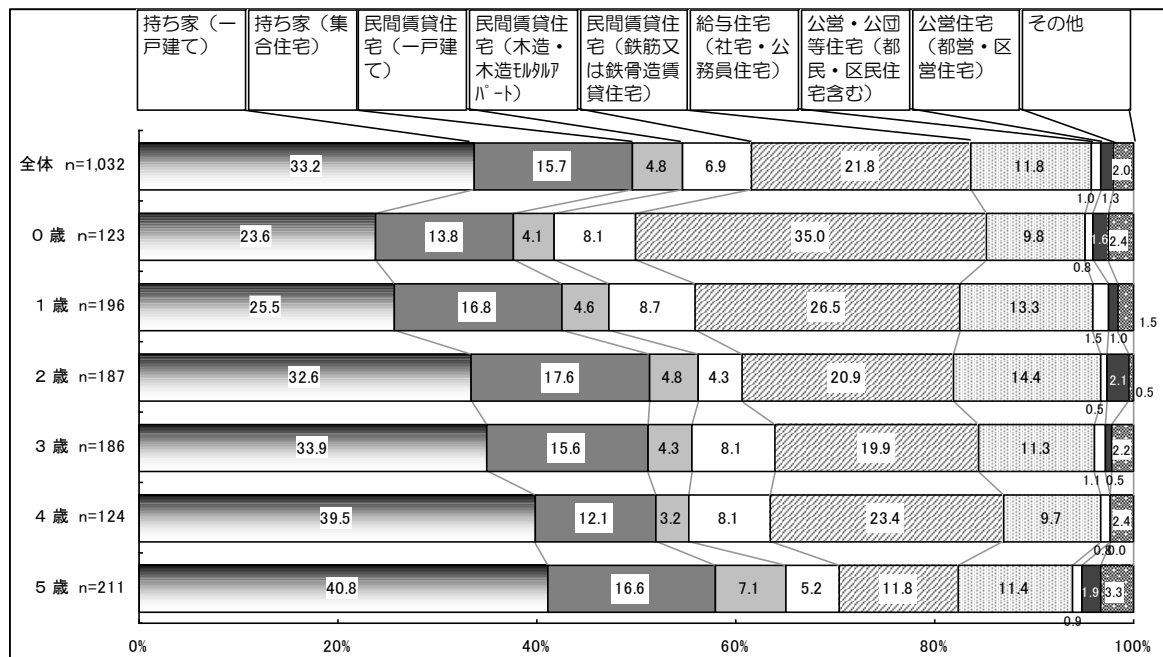
図表 23 住居形態（全体）



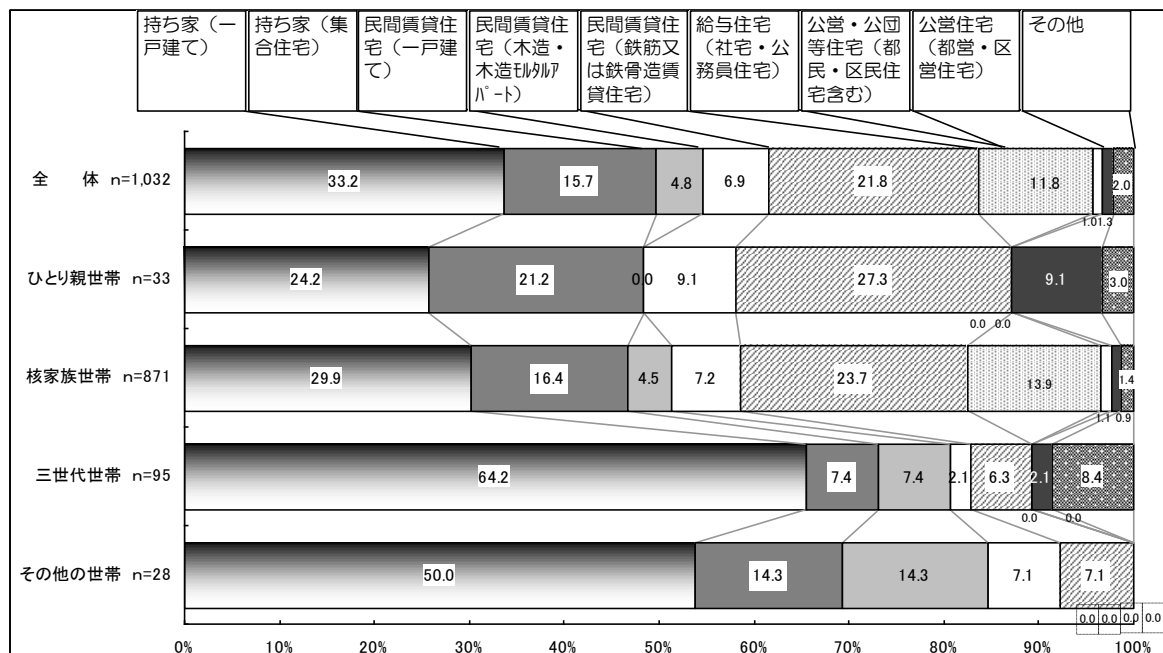
住居形態を調査対象の未就学児の年齢区分と世帯類型別でみると、いずれの場合も全体結果とほぼ同様の結果がみられますが、全体結果に比べ、未就学児の年齢が高いほど「持ち家（一戸建て）」の割合が高率となり、また、世帯人数が多くなるほど高率という傾向が見受けられます。

逆に、未就学児のうちでも低年齢児の世帯ほど、「民間賃貸住宅（鉄筋又は鉄骨造賃貸住宅）」に居住する割合が高く、また、世帯類型ではひとり親世帯においてこの割合が高い傾向となっています。

図表 24 未就学児の年齢別にみた居住状況



図表 25 世帯類型別にみた居住状況

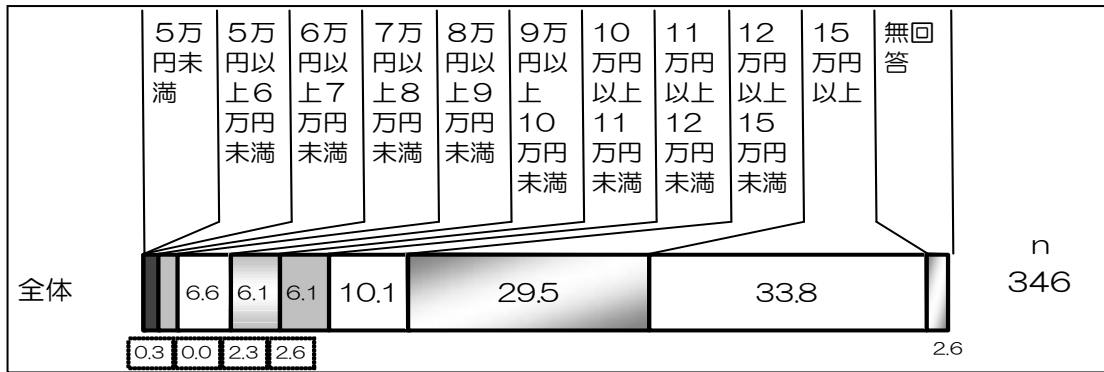


(2) 家賃

問7付問1	問7で3. ~ 5. 「民間賃貸住宅」と回答した方におうかがいします。 家賃はおいくらですか。(管理費を含む)
-------	--

民間賃貸住宅に居住している人に月あたりの家賃をたずねた結果では、「15万円以上」が33.8%、「12万円以上15万円未満」が29.5%と、家賃12万円以上が6割以上を占めます。

図表 26 1か月の家賃について (全体)

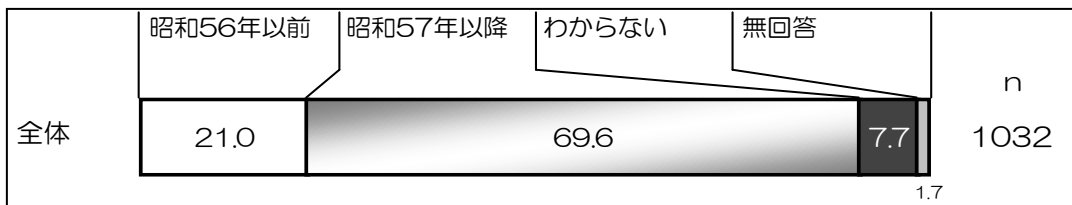


(3) 住まいの建設時期

問8	現在のお住まいの建設時期はいつですか。
----	---------------------

住居の建設時期については、「昭和57年以降」が69.6%、「昭和56年以前」が21.0%、「わからない」が7.7%となっています。

図表 27 住居の建設時期 (全体)

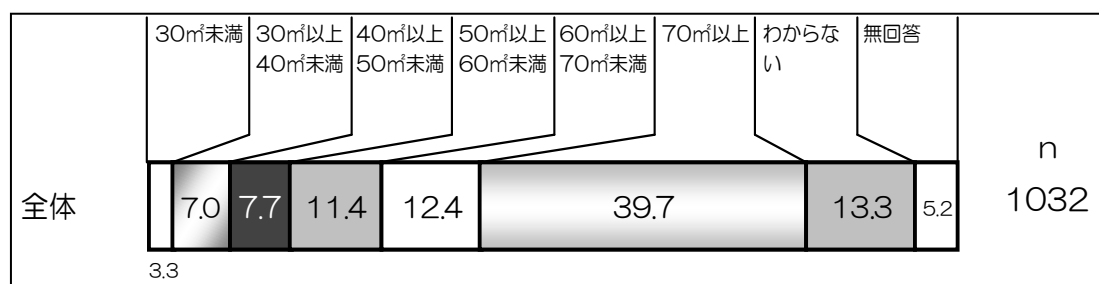


(4) 住まいの広さ

問9	お住まいの広さはどのくらいですか。戸建住宅にお住まいの方は延べ床面積で、マンション等にお住まいの方は占有面積でお答えください。
----	---

住居の広さについては、「70㎡以上」(39.7%)、「60㎡以上70㎡未満」(12.4%)、「50㎡以上60㎡未満」(11.4%)、「40㎡以上50㎡未満」(7.7%)、「30㎡以上40㎡未満」(7.0%)、「30㎡未満」(3.3%)の順となっています。また、「わからない」が13.3%という結果です。

図表 28 住居の広さ (全体)

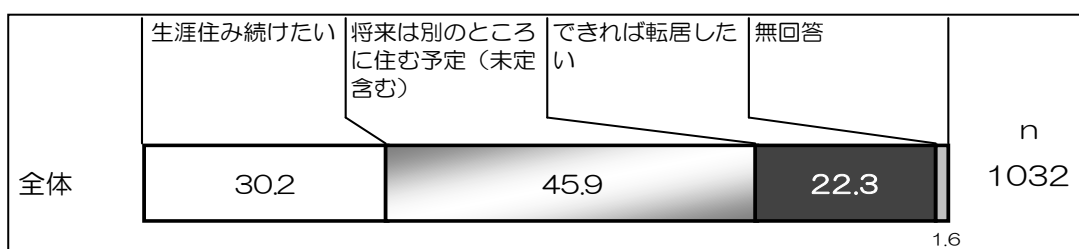


(5) 現在の住まいに対する永住意識

問10	現在のお住まいに対するお考えをお聞かせください。
-----	--------------------------

現在の住居に対する考えについては、「生涯住み続けたい」という“永住志向派”が約3割(30.2%)を占める一方、「将来は別のところに住む予定(未定を含む)」と具体性をもって転居を計画している人が45.9%と最も多い結果となっています。また、「できれば転居したい」が22.3%であり、両者を合わせると“転居派”が7割ほどに上ります。

図表 29 現在の住居に対する考え (全体)



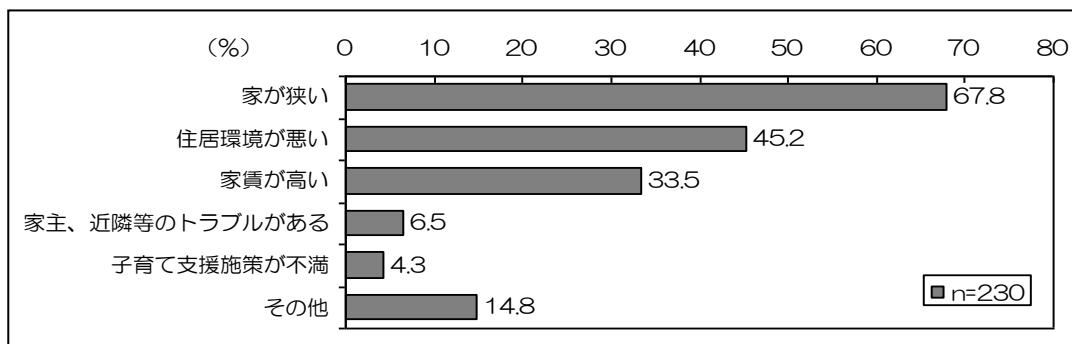
(6) 転居したい理由

問10付問 1	問10で「3. できれば転居したい」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。【複数回答】
---------	--

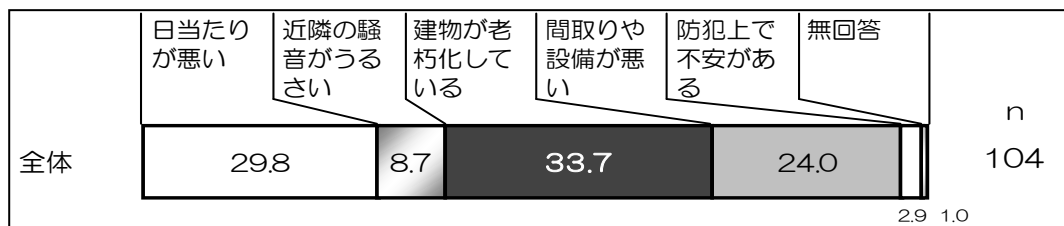
転居したい理由については、「家が狭い」ことを挙げる人が全体の67.8%に及ぶほか、「住居環境が悪い」が45.2%、「家賃が高い」が33.5%で続いており、住居費の負担感以上に、居住面積の狭さが大きな要因となっていることがうかがえます。

また、転居理由の第2位に挙げられている「住居環境が悪い」点について、具体的な内容をたずねた結果では、「建物が老朽化している」が33.7%、「日当たりが悪い」が29.8%、「間取りや設備が悪い」が24.0%などとなっています。

図表 30 転居したい理由（複数回答／全体）



図表 31 住居環境の悪さについて（全体）

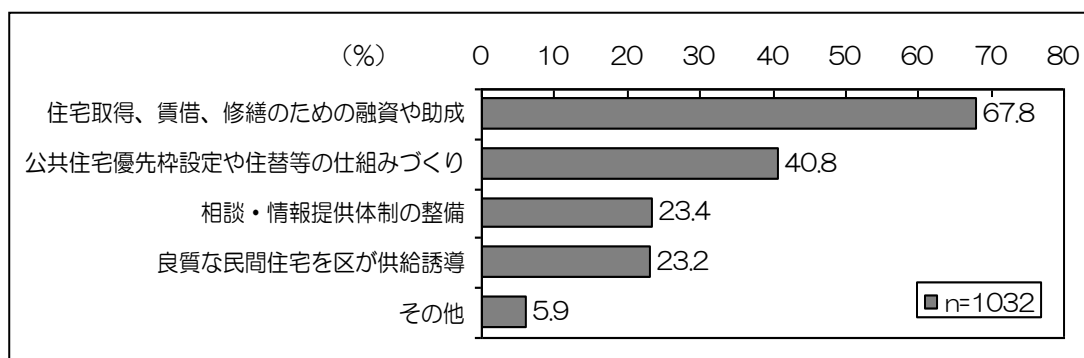


(7) 住宅施策に対するニーズ

問11	子育て中の世帯等が住みやすい環境を整えるためには、どのような住宅施策を進めていくべきだと思いますか。【複数回答】
-----	--

子育て世帯が住みやすい住宅施策推進については、「住宅取得、賃借、修繕のための融資や助成」に対して全体の67.8%の人がその充実を求めているほか、「公共住宅優先枠設定や住替等の仕組みづくり」が40.8%、「相談・情報提供体制の整備」が23.4%、「良質な民間住宅を区が供給誘導」が23.2%、「その他」が5.9%となっています。

図表 32 子育て世帯が住みやすい住宅施策推進について（複数回答／全体）



4. 出産前後の状況について

(1) 産婦・新生児訪問の経験

問13

宛名のお子さんが生まれた時に保健所・保健センターの産婦・新生児訪問を受けましたか。



調査対象の子どもの出産時に、保健所・保健センターの産婦・新生児訪問を「受けた」人は全体の半数を割る45.7%で、「受けなかった」人の方が54.2%とこれを8ポイントほど上回る結果です。

図表 33 産婦・新生児訪問の利用の有無（全体）

	受けた	受けない	無回答	n
全体	45.7	54.2		1032

0.1

(2) 産婦・新生児訪問について

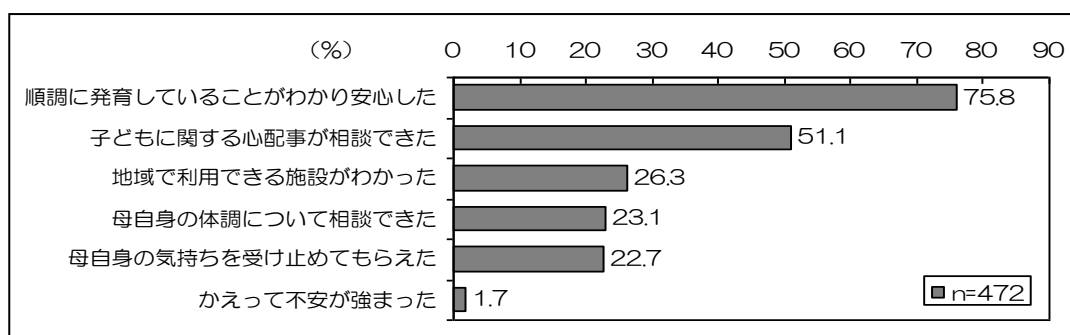
問13付問1

問13で「1. 受けた」と回答した方におうかがいします。感想はいかがでしたか。【複数回答】

産婦・新生児訪問を受けた人に対して感想をたずねた結果では、「子どもが順調に発育していることがわかり安心した」と評価している人が多数で、全体の75.8%に上ります。

また、「子どもに関する心配事が相談できた」点についても半数を超える51.1%の人が肯定的に評価しています。

図表 34 産婦・新生児訪問に対する感想（複数回答／全体）



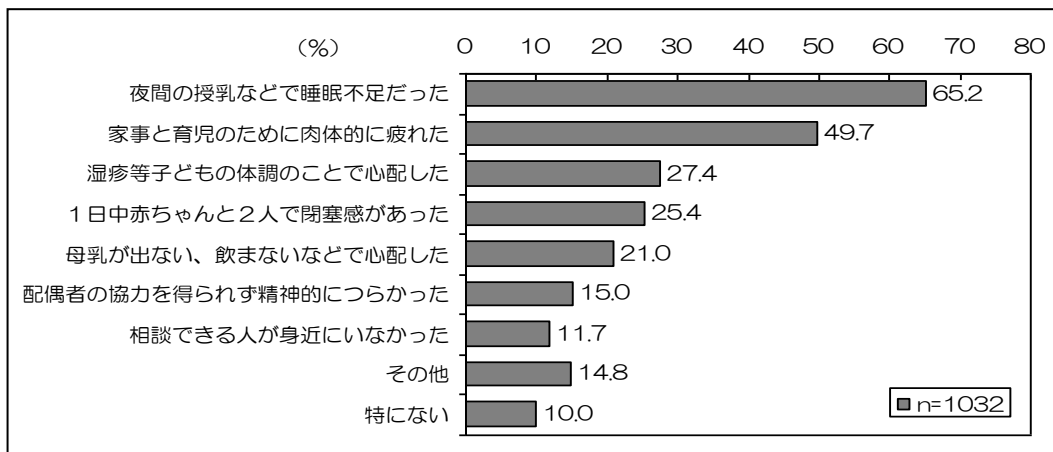
(3) 生後半年位までの間で大変だったこと

問14	宛名のお子さんが生後半年位までであなたが大変だったことは何ですか。 【複数回答】
-----	---

調査対象の子どもに関し、生後半年までの育児上、大変だったこととしては、「夜間の授乳などで睡眠不足だった」点を挙げる人が7割近く（65.2%）に上ります。

次いで、「家事と育児のために肉体的に疲れた」とする人も半数ほどの49.7%に上り、夜間の授乳などによる睡眠不足や家事・育児の両面での肉体的、精神的な負担がこの時期では特に大きいことが示されます。

図表 35 生後半年ほどまでの育児上の困難（複数回答／全体）

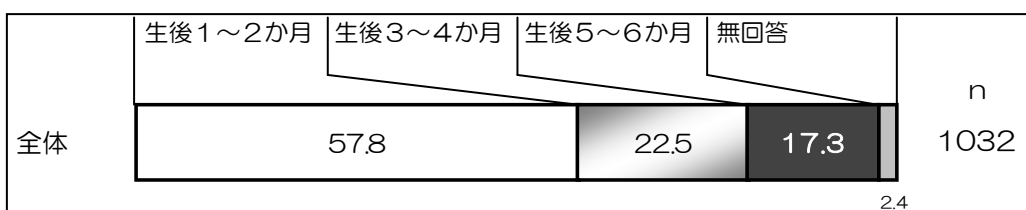


(4) 生後半年位までで一番大変だった時期

問15	生後半年くらいまでで、一番大変だった時期はいつですか。
-----	-----------------------------

生後半年ほどの育児で、最も大変だと感じている時期は、「生後1～2か月」という人が6割ほど（57.8%）を占めます。また、「生後3～4か月」が22.5%、「生後5～6か月」が17.3%という結果です。

図表 36 生後半年までの間で育児上最も大変な時期（全体）



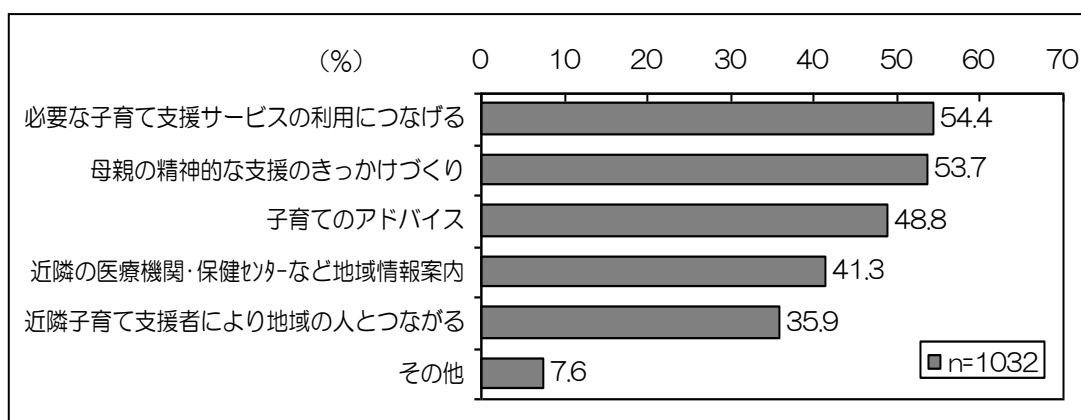
(5) 出産後の母親をサポートするサービスで必要なもの

問16	今後、区は生後4か月までにすべての家庭への訪問を実施していく予定ですが、出産後の母親をサポートするサービスとして、どのようなものが必要だと思いますか。【複数回答】
-----	---

今後、区が実施予定としている、生後4か月までにすべての家庭を訪問する事業の中で、特に必要と考えられている出産後の母親に対するサポートの内容に関しては、「産後支援ヘルパーなど必要な子育て支援サービスの利用につなげる」ことや「母親の精神的な負担感を受け止め、支援のきっかけづくりとする」ことを挙げる人がそれぞれ54.4%と53.7%で、半数を超えます。

次いで「子どもの発育や子どもの接し方など子育てのアドバイス」を求める人も半数近い48.8%、また「近隣の医療機関・保健センター・児童館などの地域情報の案内」が41.3%となっています。

図表 37 出産後の母親をサポートするサービスに対する希望（複数回答／全体）



5. 保育サービス等の利用希望

(1) 保育サービス等の利用希望と希望する日数

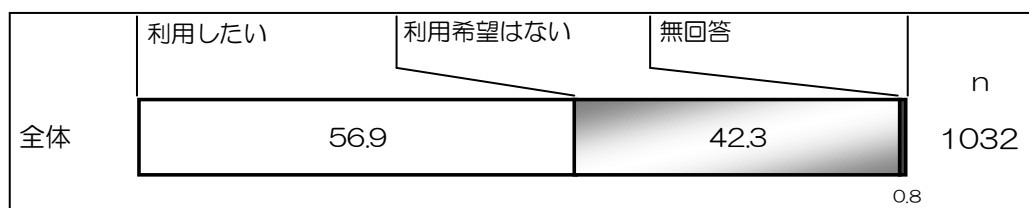
問17	平日、宛名のお子さんについて、保育サービスなど（一時的な利用は除く。）の利用希望が現在ありますか。現在、利用しているかどうかに関係なく、また実際にサービスが利用可能な時間帯（例：保育園の開所時間）に関係なく、お答えください。
-----	--



■ (1) 平日保育サービスの利用希望の有無

平日での保育サービス（一時的な利用を除く）の利用希望について、「利用したい」が56.9%、「利用希望はない」が42.3%という結果であり、利用希望者が6割近くに上ります。

図表 38 平日での保育サービスの利用希望（全体）



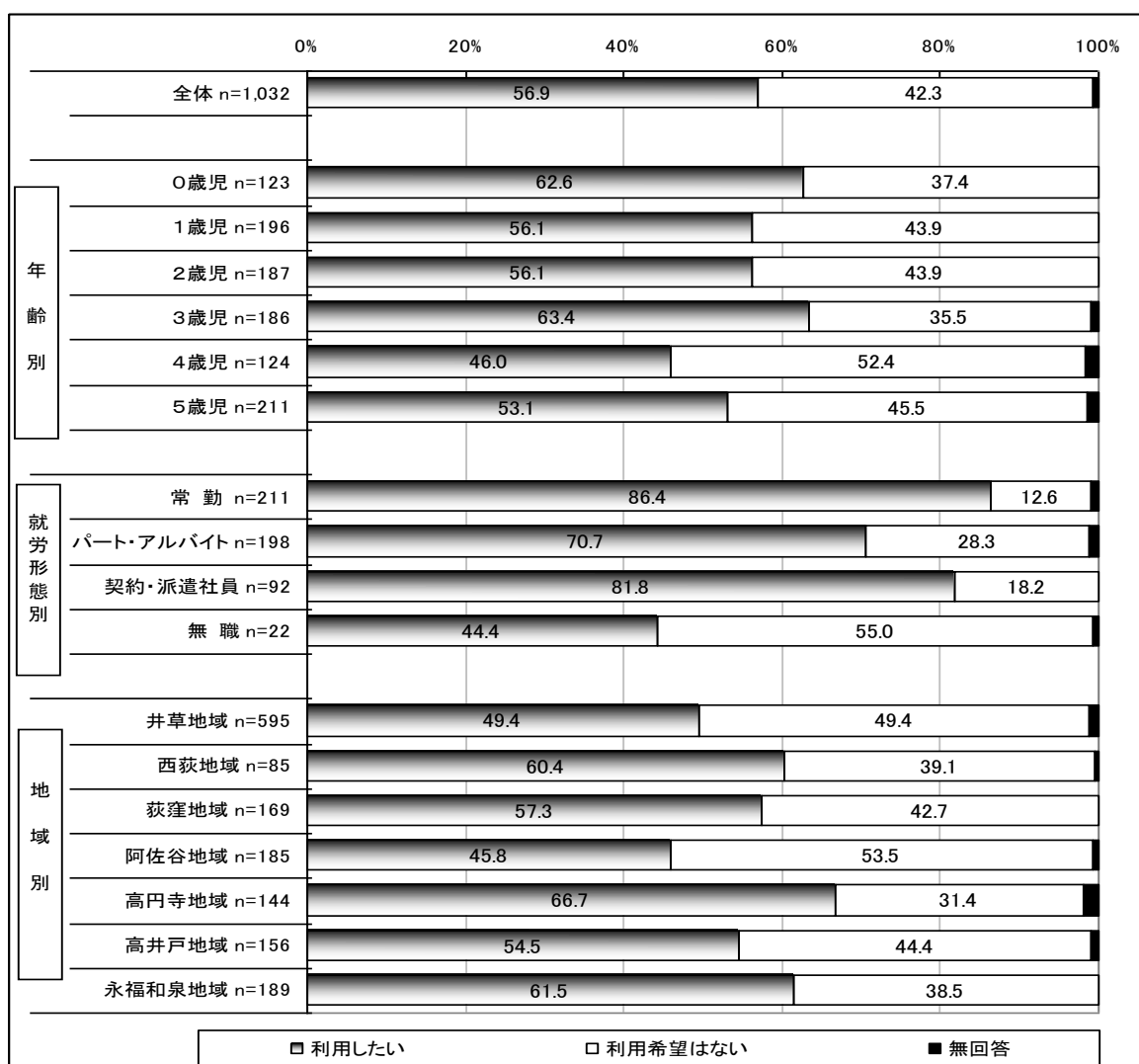
平日での保育サービス（一時的な利用を除く）の利用希望について、調査対象未就学児の年齢区分で見ると、4歳児の保護者では「利用希望しない」人が52.4%と、利用希望者を上回る結果ですが、その他の年齢の保護者では利用希望者の方が多く、それぞれ6割前後に上ります。

また、母親の就労状況で見ると、「常勤の勤め人」（利用希望者86.4%）や「契約社員・派遣社員」（81.8%）ではいずれも利用希望者が8割を超え、「パート・アルバイト」（同70.7%）でも7割が利用を希望しています。

さらに、地域的にも利用意向の差が見受けられ、「高円寺地域」（利用希望者66.7%）や「永福和泉地域」（同61.5%）、「西荻地域」（同60.4%）では6割が利用を希望し、「荻窪地域」（同57.3%）、「高井戸地域」（同54.5%）でも利用希望者が上回る結果です。

一方、「井草地域」では利用希望者と利用を希望しない人の割合が拮抗した結果（ともに49.4%）に、また、「阿佐谷地域」では利用を希望しない人が53.5%となっています。

図表 39 平日での保育サービスの利用希望（年齢別／就労形態別／地域別）

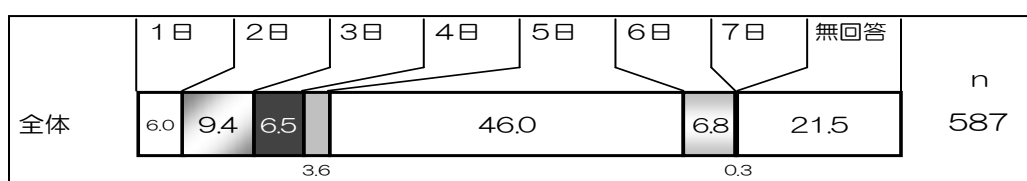


■ (2) 週当たりの利用希望日数

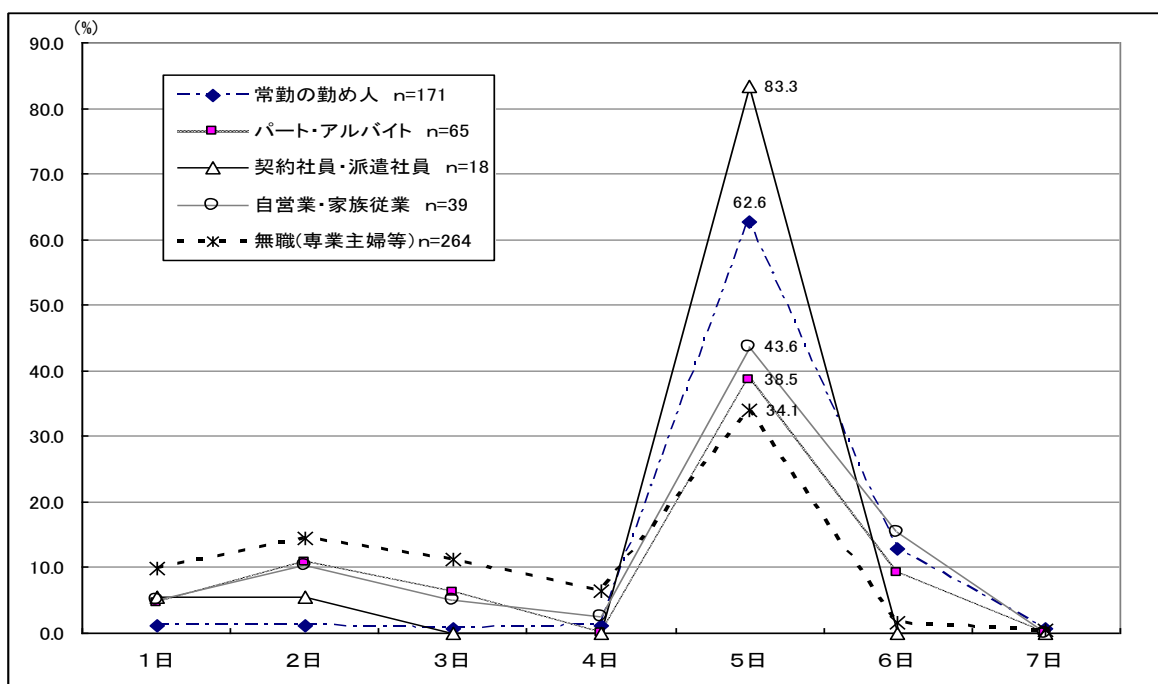
平日での保育サービス（一時的な利用を除く）を利用したいとする人に利用希望日数をたずねた結果では、「週5日」を希望する人が多く全体の46.0%に及びます。

特に、母親の就労状況でみると、「契約社員・派遣社員」では週5日希望者が8割（83.3%）を超え、「常勤の勤め人」でもその6割強（62.6%）が週5日の利用を希望している結果です。

図表 40 平日で保育サービスの利用を希望する日数（週当たり）（全体）



図表 41 母親の就労状況別にみた平日で保育サービスの利用希望日数（週当たり）



※「在宅勤務・内職」「学生」「その他」及び「無回答」分は省略している。

(2) 保育サービス等の利用希望の内容について

問17付問 保育サービスなどを利用したい方におうかがいします。

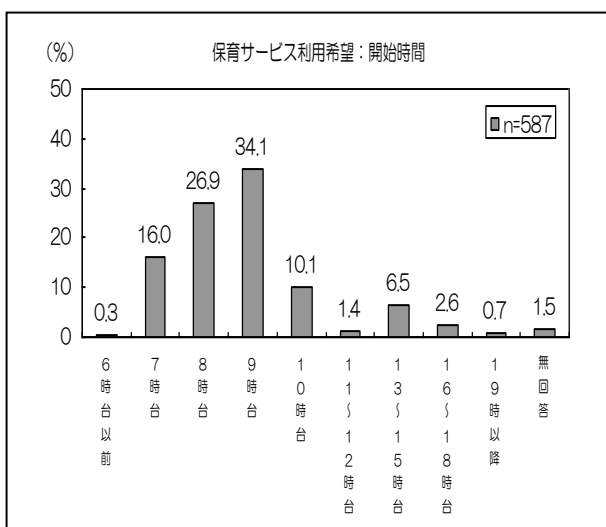
■ (1) 希望の時間帯

保育サービス等を利用する人(587人)に、利用を希望する時間帯をたずねた結果では、利用開始時間は「9時台」(34.1%)や「8時台」(26.9%)が多い結果となっています。

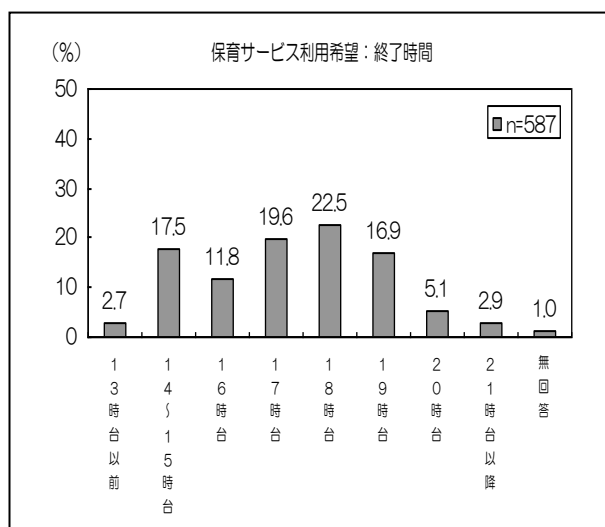
一方、終了時間は、分散した結果となっていますが、「18時台」(22.5%)、「17時台」(19.6%)、「14～15時台」(17.5%)、「19時台」(16.9%)といった順位であり、18時前後や14時、15時台までの利用希望が比較的多くなっています。

図表 42 保育サービス等の利用希望の内容(時間帯)

(開始時間)



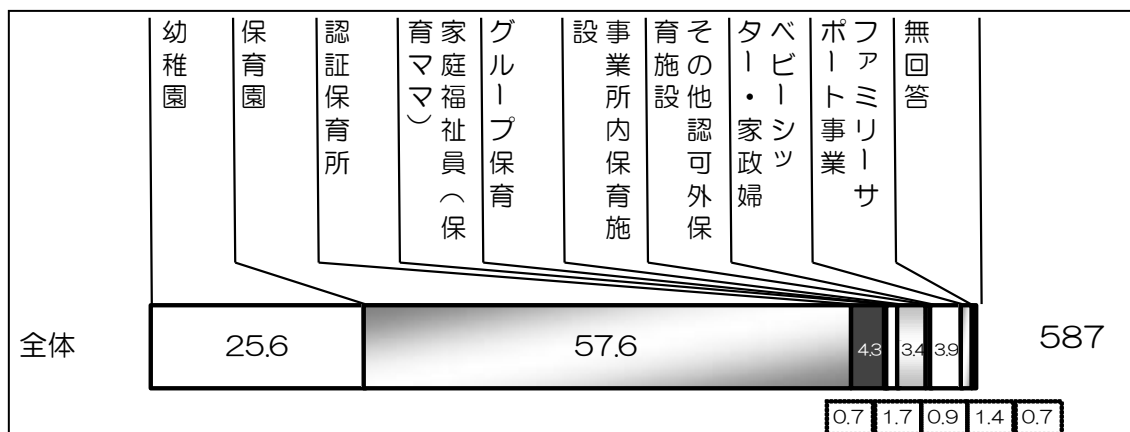
(終了時間)



■ (2) 希望するサービス

希望する保育サービス等の内容をみると、「保育園」を希望する人が6割近く（57.6%）に上ります。次いで「幼稚園」が25.6%、「認証保育所」が4.3%、「ベビーシッター・家政婦」が3.9%などという結果です。

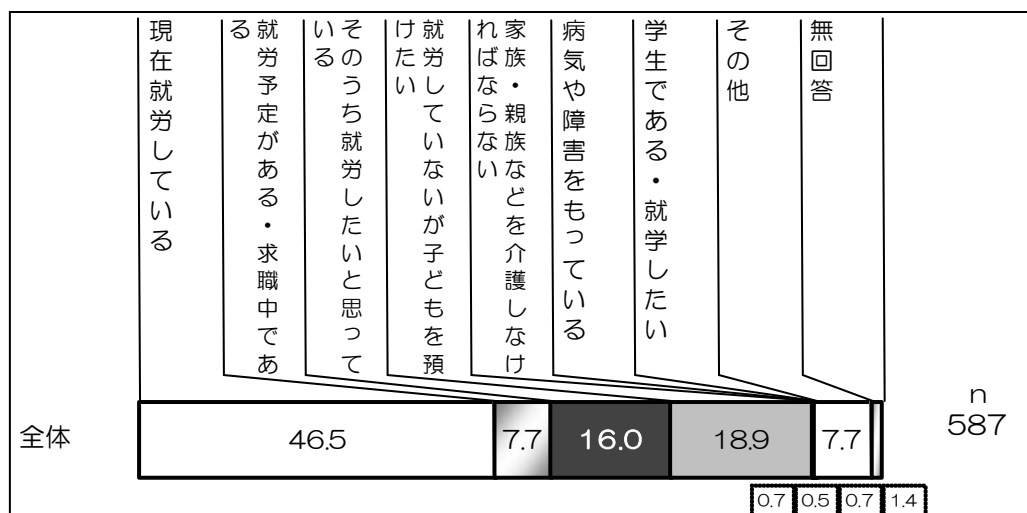
図表 43 保育サービス等の利用希望の内容（サービス内容）



■ (3) 保育サービス等の利用を希望する主な理由

保育サービス等を利用したい主な理由としては、「現在就労している」が半数近く（46.5%）に上ります。このほかでは、「就労していないが子どもを預けたい」とする人が18.9%、「そのうち就労したいと思っている」が16.0%と続き、現に就労している人や今後就労を考えている人の割合が6割を超える結果です。

図表 44 保育サービス等の主な利用希望理由（全体）



(3) 現在主に利用しているサービス

問18 現在主に利用しているサービスは何ですか。

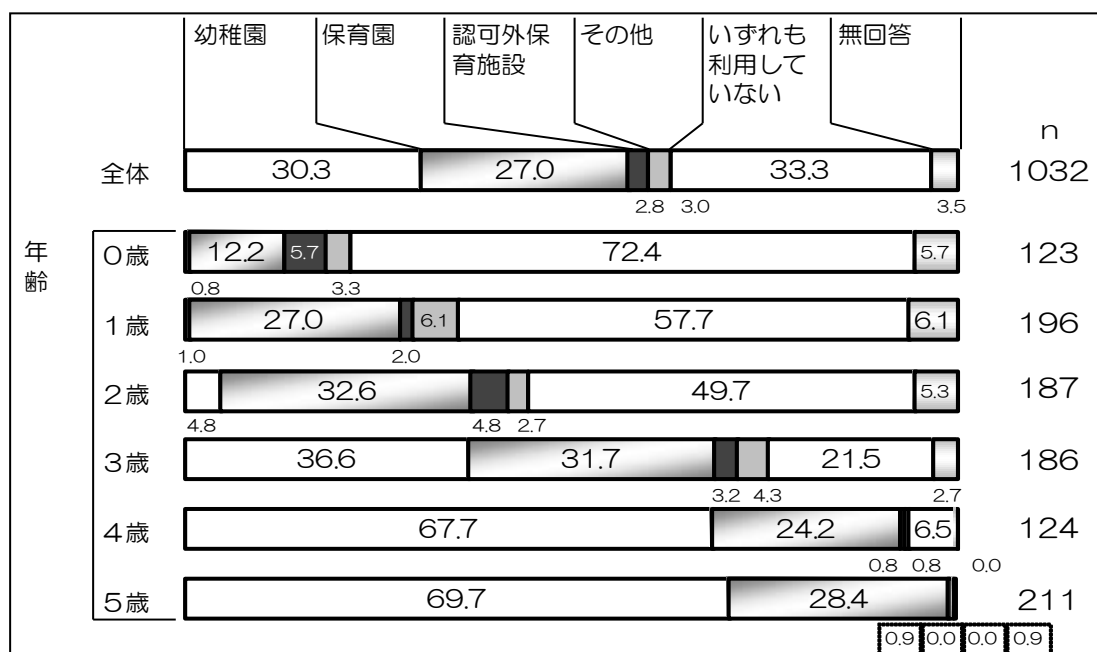
現在主に利用しているサービスでは、「幼稚園」が30.3%、「保育園」が27.0%、「認可外保育施設」が2.8%となっています。一方、「いずれも利用していない」人が33.3%を占めます。

これを調査対象の子どもの年齢区分で見ると、「いずれも利用していない」人の割合は0歳児では72.4%に上り、1歳児や2歳児でもそれぞれ57.7%と49.7%と半数前後に上ります。

また、「幼稚園」利用は3歳以上で多く、3歳児では36.6%、4歳児や5歳児ではそれぞれ67.7%と69.7%と7割近くを占めます。

「保育園」利用は、2歳以上でそれぞれの3割前後を占め、0歳児でも12.2%となっています。

図表 45 現在利用しているサービス（全体／年齢別）



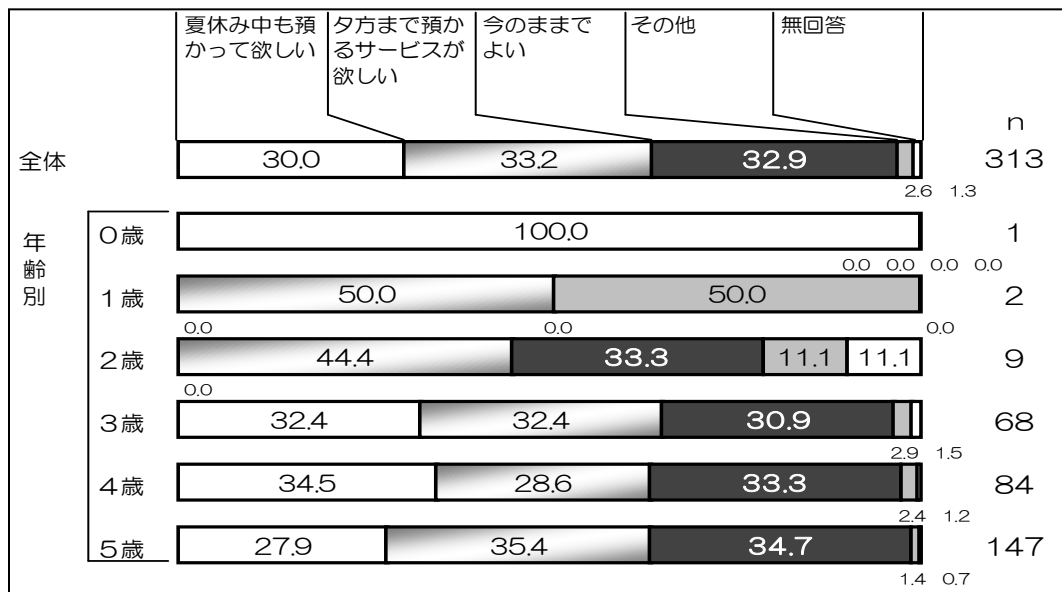
(4) 幼稚園利用者の「預かり」ニーズについて

問18付問1 現在「幼稚園」に通っているお子さんについておうかがいします。

現在、幼稚園を利用している人（313人）に、保育ニーズについてたずねたところ、「今のままでよい」とする人が32.9%を占めますが、その一方で、「夕方まで預かるサービスがほしい」とする人や「夏休み中も預かってほしい」とする人もそれぞれ33.2%と30.0%と3割を超える結果です。

調査対象の子ども年齢区分でみると、3歳以上では全体結果と同様に「夕方までの預かり」や「夏休みでの預かり」を希望する人が3割前後に達します。

図表 46 幼稚園での「預かり」に対する要望（全体／年齢別）

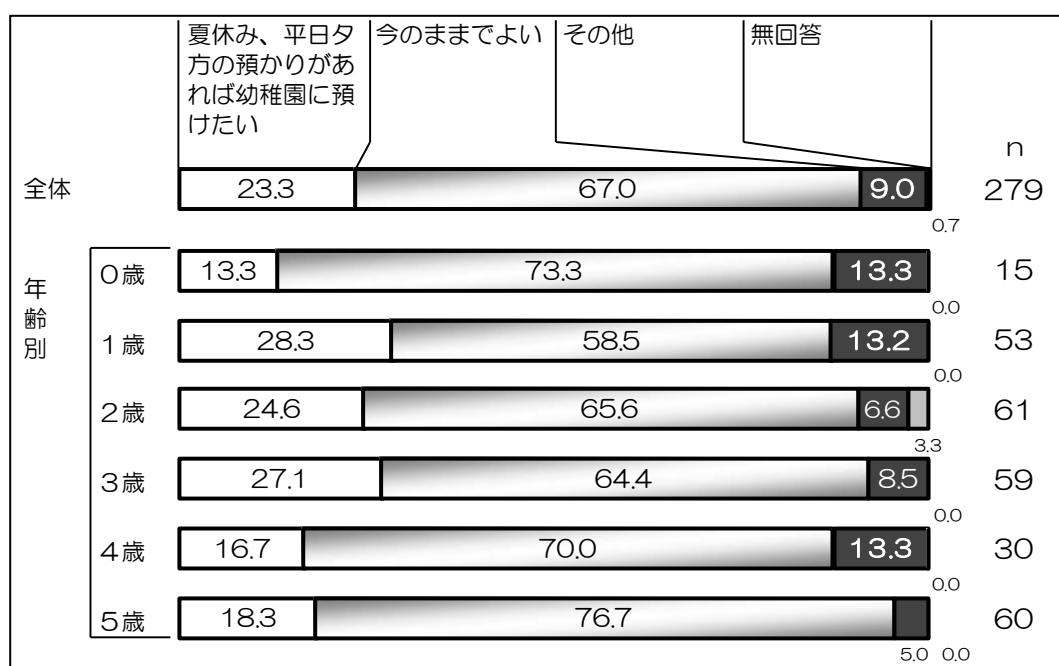


(5) 保育園利用者の「預かり」ニーズについて

問18付問2 現在「保育園」に通っているお子さんについておうかがいします。

保育園を利用している人（279人）に、幼稚園での預かりに対する要望を尋ねた結果では、「幼稚園で夏休み中や平日の夕方まで預かるサービスがあれば、幼稚園に預けたい」とする人が2割強（23.3%）に上ります。

図表 47 保育園利用者の幼稚園での預かりに対する要望（全体／年齢別）



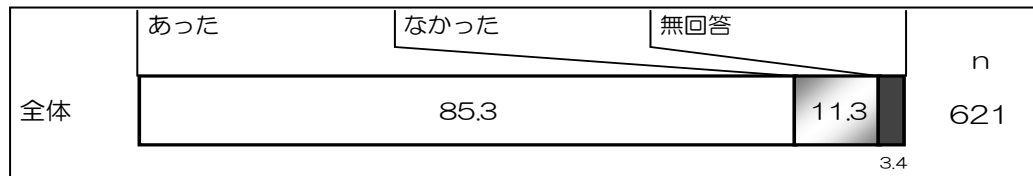
(6) 病気で幼稚園、保育園等を休んだ経験の有無

問18付問3	現在、幼稚園、保育園、認可外保育施設に通っている方についておうかがいします。この1年間にお子さんが病気で幼稚園、保育園、認可外保育施設（認証保育所や事業所内保育施設を含む）を休まなければならなかったことはありますか。
--------	--



この1年間で子どもが病気のために幼稚園や保育園、認可外保育施設を休んだことの有無について「あった」と回答した人が85.3%、「なかった」が11.3%となっています。

図表 48 この1年間で病気のために幼稚園等を休んだ経験の有無（全体）
（幼稚園、保育園、認可外保育施設の利用者）

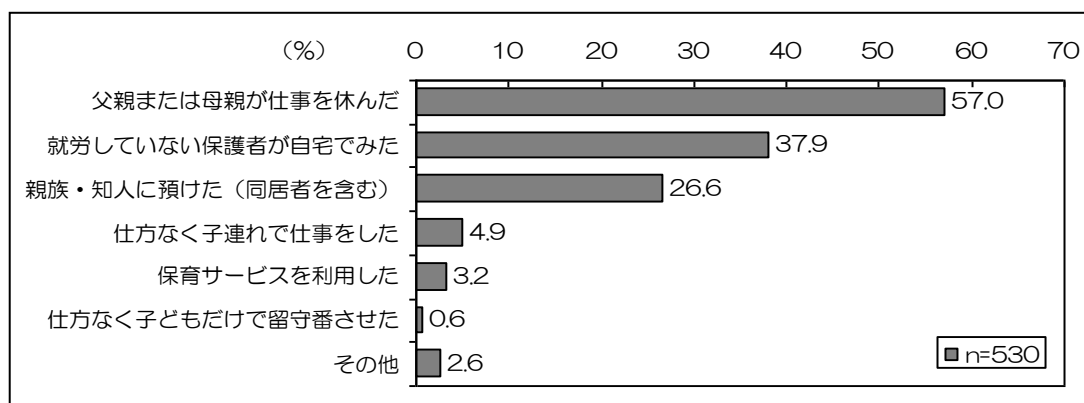


(7) 子どもが病気で幼稚園、保育園等を休んだときの対処方法

問18付問3-1	問18付問3で「1. あった」と回答した方におうかがいします。この1年間の対処方法とそれぞれの日数は。【複数回答】
----------	---

この1年間で子どもが病気のために幼稚園等を休んだ経験があると回答した人（530人）に、そのときの対処方法をたずねたところ、「父親または母親が仕事を休んだ」が57.0%、「就労していない保護者が自宅のみ」が37.9%、「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が26.6%などという結果です。

図表 49 子どもが病気等の場合の対処方法（複数回答／全体）



(8) 子どもが病気で幼稚園等を休んだときの対応の困難さ

問18付問3-1(1)	問18付問3-1で「1」「2」に回答した方におうかがいします。その困難度はいかがでしたか。
-------------	---

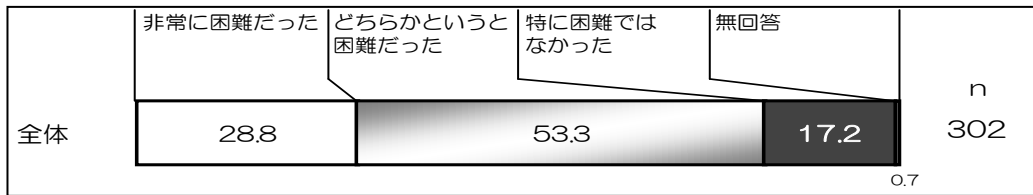


子どもが病気で幼稚園等を休まなければならなかったときの対応の困難さについてみると、父親または母親が仕事を休んだことに関して、「非常に困難だった」が28.8%、「どちらかという困難だった」が53.3%と、困難と感じた人が8割を超えます。一方、「特に困難ではなかった」は17.2%にとどまります。

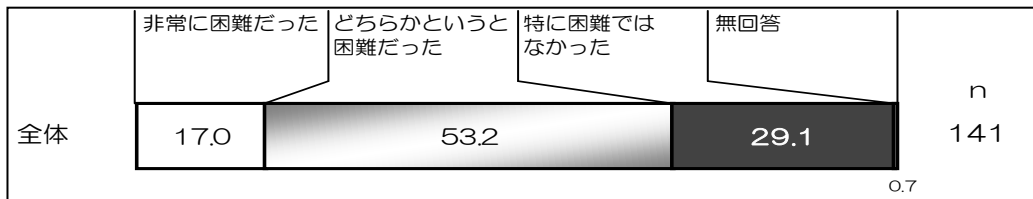
次に、同居者を含む親族・知人に預けたと回答した人の場合では、「非常に困難だった」が17.0%、「どちらかという困難だった」が53.2%、「特に困難ではなかった」が29.1%という結果であり、預けることを困難と感じた人は7割ほどに上ります。

図表 50 子どもが病気で休んだときの対応の困難さ

(父親または母親が仕事を休んだことに対して)



(同居者を含む親族・知人に預けたことに対して)



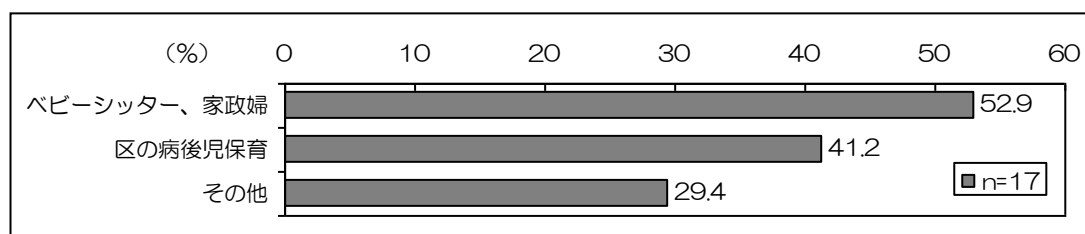
(9) 子どもが病気で幼稚園等を休んだときに利用した保育サービス

問18付問3-1(2)	問18付問3-1で「3」に回答した方におうかがいします。利用した保育サービスの種類は何ですか。【複数回答】
-------------	---



子どもが病気で幼稚園等を休んだときに保育サービスを利用した人(17人)にその種類をたずねた結果では、「ベビーシッター・家政婦」を利用した人が9人、「区の病後児保育」が7人、「その他」が1人という結果です。

図表 51 子どもが病気で幼稚園等を休んだときに利用した保育サービス



6. 「一時預かり」の利用について

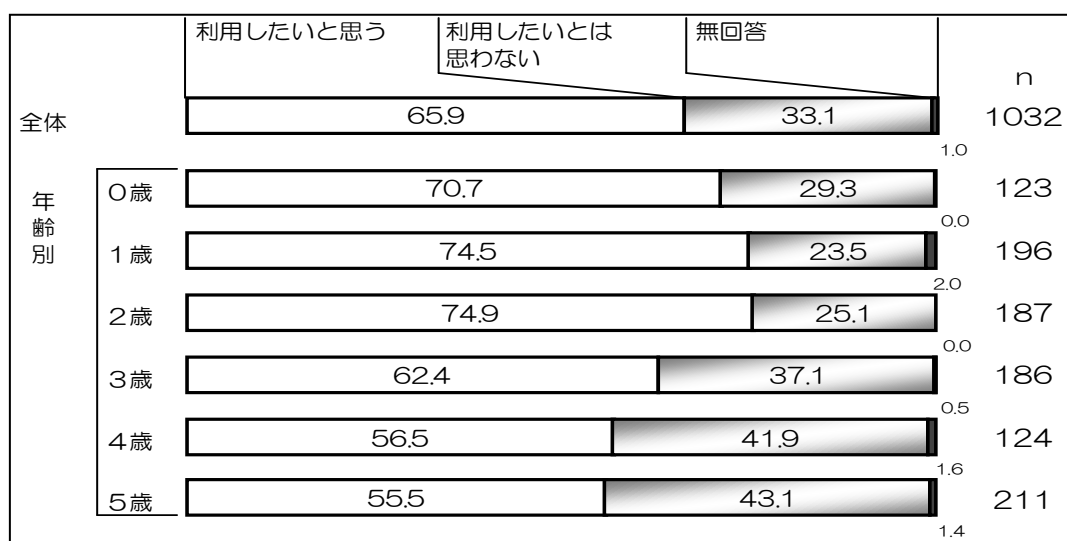
(1) 「一時預かり」の利用希望

問19 あなたは一時預かりを利用したいと思いますか。

「一時預かり」の利用希望をみると、「利用したいと思う」が65.9%であり、「利用したいとは思わない」(33.1%)の2倍ほどに及びます。

こうした傾向は、調査対象の子ども年齢区分でも同様であり、特に0歳児から2歳児の保護者ではそれぞれの7割を超える利用希望となっています。

図表 52 「一時預かり」の利用希望（全体／年齢別）



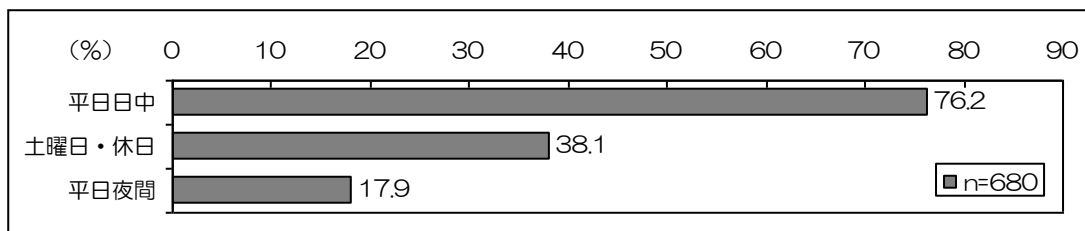
(2) 「一時預かり」を利用したい頻度

問19付問 1 (1) 問19で「1. 利用したいと思う」と回答した方におうかがいします。預けたい頻度はどれですか。【複数回答】

「一時預かり」の利用を希望する人にその希望時間帯をたずねた結果では、「平日の日中」を挙げる人が76.2%と8割近くに上ります。また、「土曜日・休日」の利用を希望している人が4割ほどの38.1%に上ります。

さらに、「平日の夜間」の利用希望者は17.9%という結果です。

図表 53 「一時預かり」を利用したい頻度（複数回答／全体）



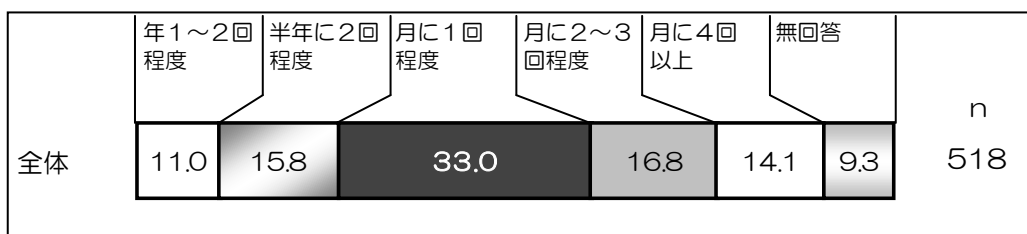
「一時預かり」を平日の日中に利用したいと回答した人（518人）に利用頻度をたずねたところ、「月に1回程度」とする人が最も多く3割を超えます（33.0%）。

同様に、平日の夜間での利用を希望している人（122人）では、利用頻度の幅があり、「年1～2回程度」が34.4%、「月に1回程度」が24.6%、「半年に2回程度」が23.8%などと分散した結果です。

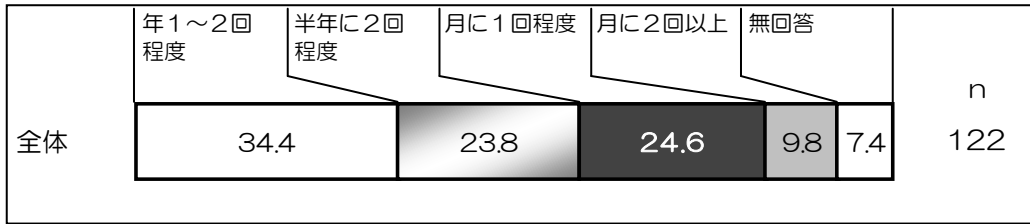
さらに、土曜・休日での利用希望者（259人）の結果では、「年に1～2回程度」が30.5%、「月に1回程度」が27.4%、「半年に2回程度」が23.2%となっています。

図表 54 「一時預かり」を利用したい頻度（全体）

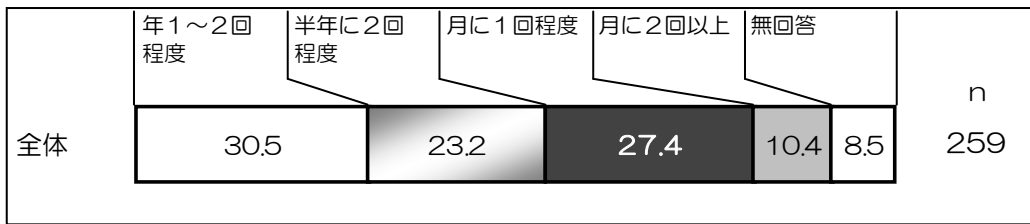
(平日日中)



(平日夜間)



(土曜日・休日)



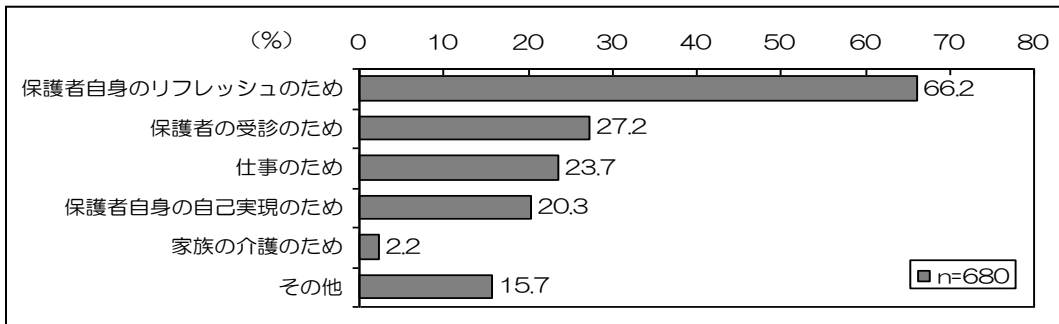
(3) 「一時預かり」の利用を希望する理由

問19付問1 問19で「1. 利用したいと思う」と回答した方におうかがいします。
 (2) 一時預かりの希望の理由は何ですか。【複数回答(2つまで)】

「一時預かり」を希望する理由としては、第1位に「保護者自身のリフレッシュのため」を挙げる人が全体の66.2%に上ります。

次いで「保護者の受診のため」が27.2%、「仕事のため」が23.7%と続き、「保護者自身の自己実現のため」とする人も20.3%となっています。

図表 55 「一時預かり」を希望する理由(複数回答/全体)

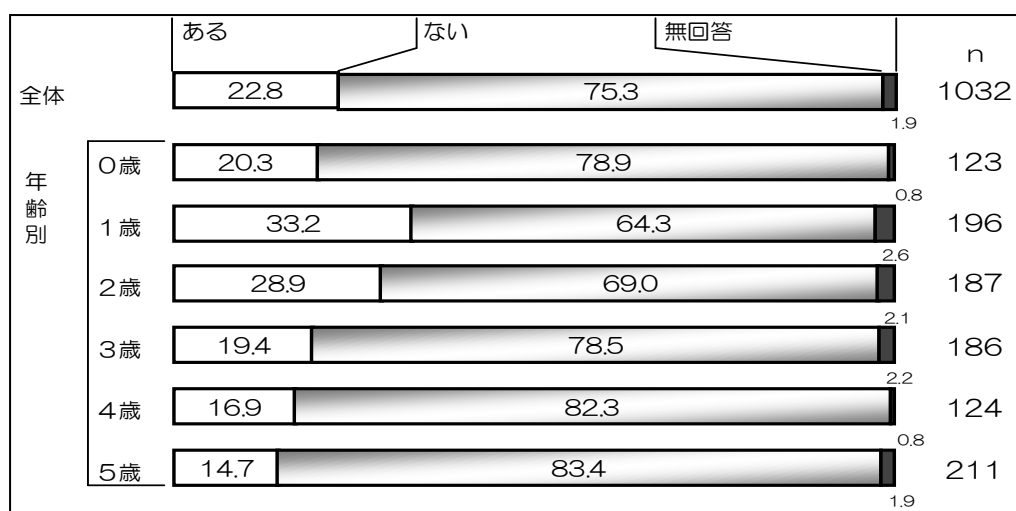


(4) 一時的な保育サービスの利用経験の有無（過去半年間）

問20	この半年間に平日、土休日に関係なく一時的な保育サービスを利用したことはありますか。
-----	---

この半年間で、平日や土曜・休日にかかわらず、一時的な保育サービスを利用した人は全体の22.8%で、1歳児や2歳児の保護者での利用が他に比べ高い結果となっています。

図表 56 一時的な保育サービスの利用経験の有無（全体/年齢別）



(5) これまでに利用した一時的な保育サービスの種類

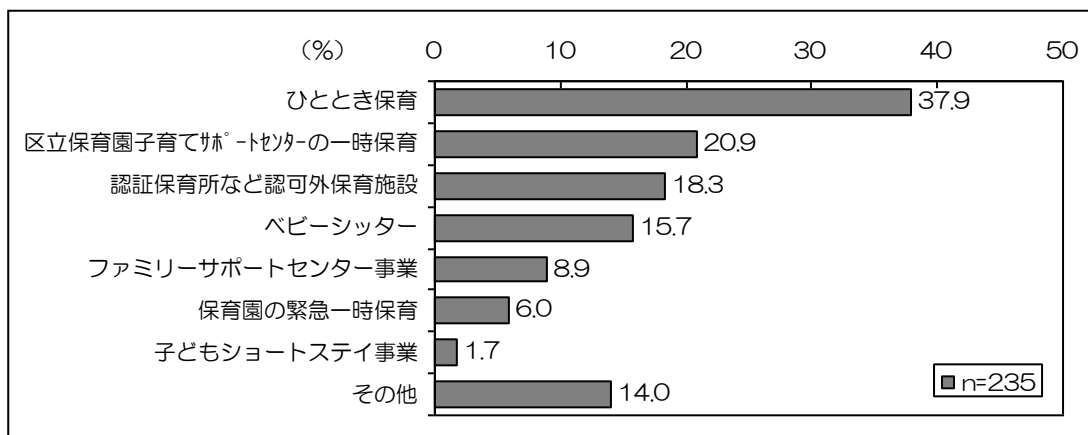
問20付問 1	問20で「1. ある」と回答した方におうかがいします。利用したサービスは何ですか。【複数回答】
---------	---



平日や土曜・休日に関係なく一時的な保育サービスを利用した人（235人）にそのサービスの種類をたずねたところ、「ひととき保育」の利用者が最も多く全体の37.9%を占めます。

また、「区立保育園子育てサポートセンターの一時保育」の利用者が20.9%、「認証保育所など認可外保育施設」が18.3%、「ベビーシッター」が15.7%、「ファミリーサポートセンター事業」が8.9%などとなっています。

図表 57 これまでに利用した一時的な保育サービスの種類（複数回答/全体）



7. 子育て支援サービスの周知度・利用意向

(1) 子育て支援サービス

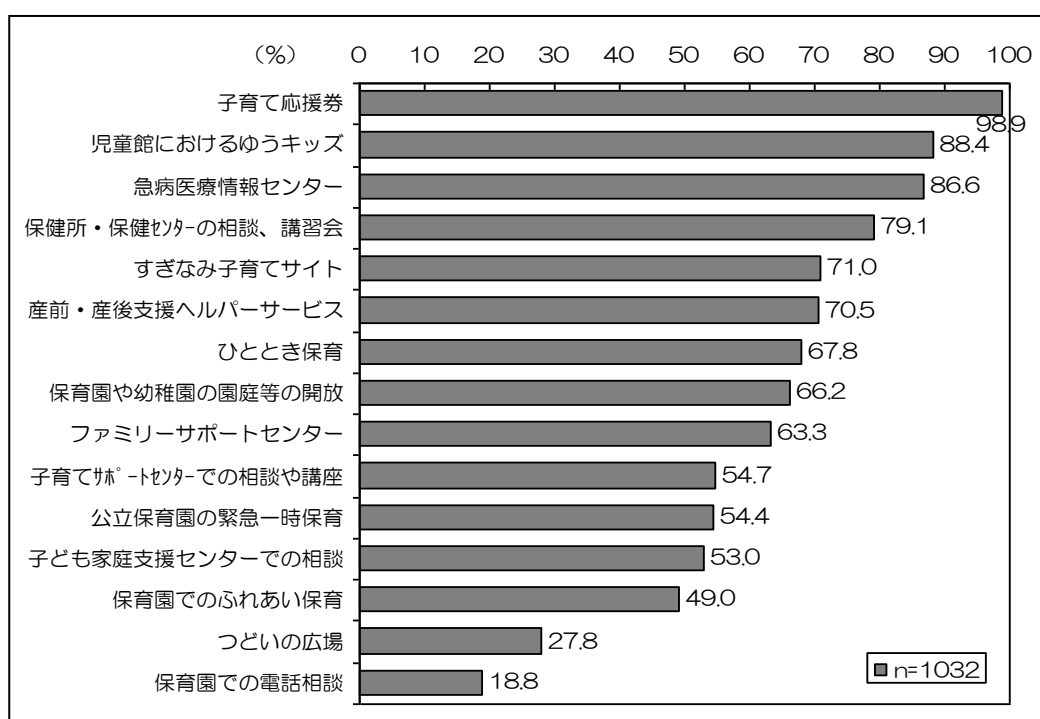
問21	次のサービスを知っていたり、これまで利用したことはありますか。また、今後利用したいと思いませんか。(1)～(3)それぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。
-----	--

区で実施している各種子育て支援サービスの周知状況をみると、最も広く周知されているのが「子育て応援券」であり、全体の98.9%に上ります。

次いで「児童館におけるゆうキッズ」を周知している人が88.4%、「急病医療情報センター」が86.6%と9割近くに上ります。

また、「保健所・保健センターの相談、講習会など」を8割近く(79.1%)の人が周知しているほか、「すぎなみ子育てサイト」(71.0%)、「産前・産後支援ヘルパーサービス」(70.5%)、「ひととき保育」(67.8%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(66.2%)、「ファミリーサポートセンター」(63.3%)についてそれぞれ6割以上が周知している結果です。

図表 58 子育て支援サービスの周知度（複数回答／全体）

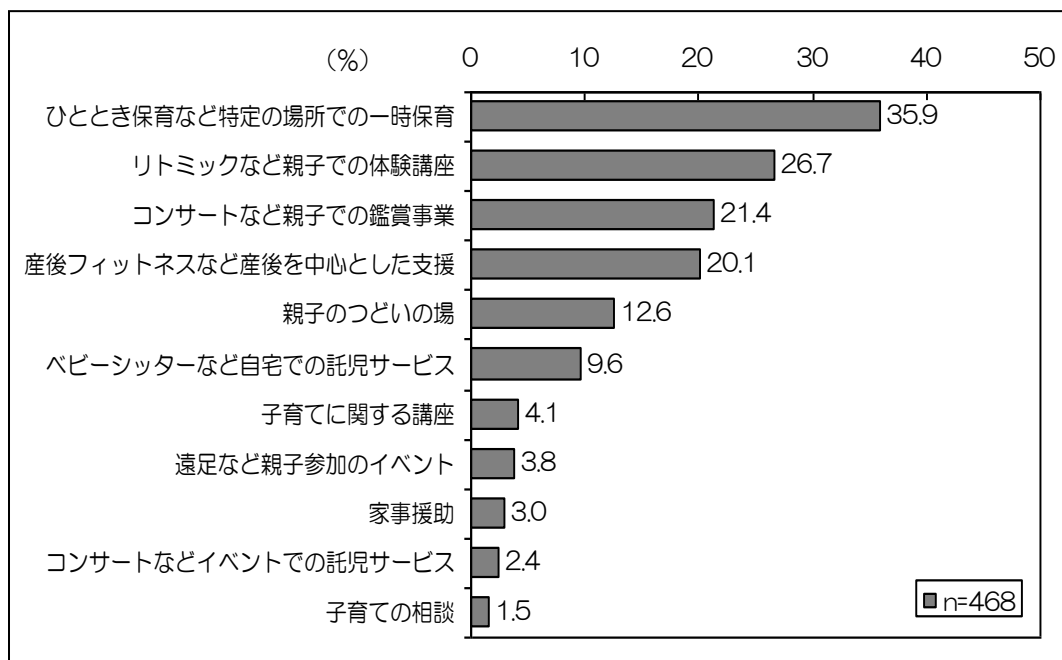


(2) 子育て応援券の利用について

問21付問 1 (1)	問21で「①子育て応援券」を利用したことがあると回答した方におうかがいします。 利用したサービスは何ですか。【複数回答】
-------------	---

子育て応援券を使ってこれまでに利用したサービスとしては、「ひととき保育など特定の場所などでの一時保育」が35.9%と最も多く、次いで「リトミックなど親子での体験講座」が26.7%、「コンサートなど親子での鑑賞事業」が21.4%、「産後フィットネス、ベビーマッサージなど産後を中心とした支援」が20.1%、「親子のつどいの場」が12.6%となっています。

図表 59 子育て応援券で利用したサービスの種類（複数回答／全体）



図表 60 子育て応援券で利用したサービスの種類（複数回答/地域別）

		コンサートなど親子で鑑賞事業	リトミックなど親子で体験講座	親子のつどいの場	遠足など親子参加のイベント	産後フィットネスなど産後を中心とした支援	家事援助	子育ての相談	子育てに関する講座	ひととき保育など特定の場所での一時保育	コンサートなどイベントでの託児サービス	ベビーシッターなど自宅での託児サービス
全 体	n=1,032	21.4	26.7	12.6	3.8	20.1	3.0	1.5	4.1	35.9	2.4	9.6
井草地域	n=595	28.6	34.3	5.7		28.6	2.9		2.9	25.7	2.9	8.6
西荻地域	n=85	26.6	36.7	15.2	2.5	11.4	3.8	1.3	2.5	29.1	5.1	7.6
荻窪地域	n=169	27.1	25.0	16.7	3.1	16.7	2.1		3.1	42.7	2.1	9.4
阿佐谷地域	n=185	24.3	21.4	7.1	4.3	28.6	2.9		1.4	40.0	1.4	10.0
高円寺地域	n=144	15.3	25.4	10.2	8.5	10.2		1.7	11.9	35.6		11.9
高井戸地域	n=156	11.1	21.1	15.6	3.3	24.4	4.4	4.4	4.4	38.9	2.2	10.0
永福和泉地域	n=189	12.1	33.3	12.1	6.1	33.3	6.1		3.0	27.3	3.0	12.1

※「0%」の場合は表記を省略（空欄）している。

(3) 子育て応援券の満足度

問21付問 1 (2)	問21で「①子育て応援券」を利用したことがあると回答した方におうかがいします。子育て応援券についての満足度はいかがですか。
-------------	---

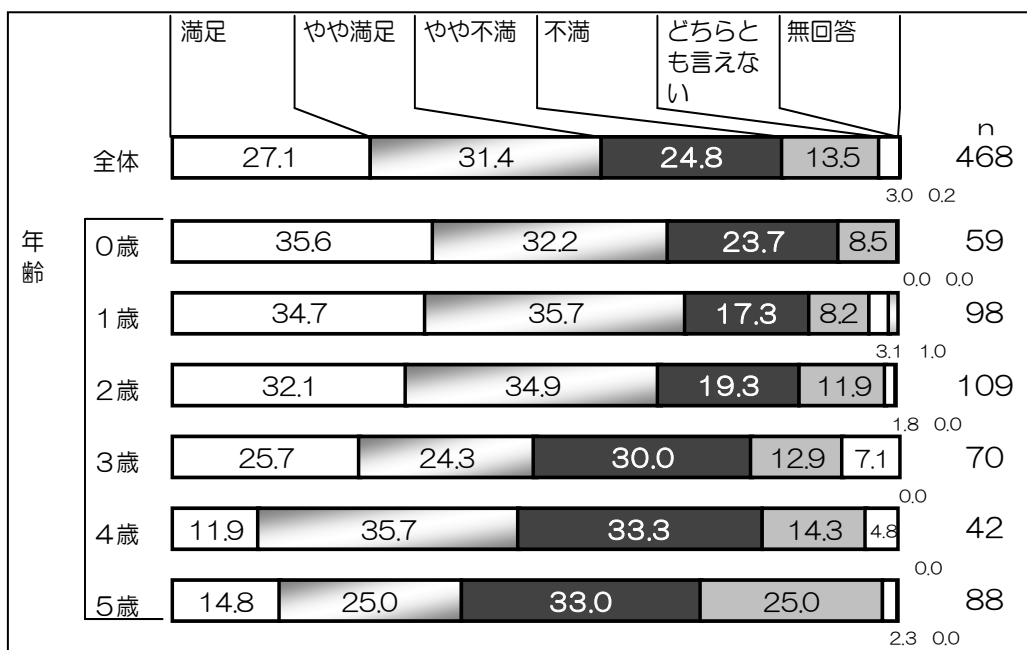


子育て支援券を利用した経験がある人の満足度をみると、「満足」が27.1%、「やや満足」が31.4%という結果であり、“満足派”が6割近く（58.5%）を占めます。

一方、「不満」は13.5%、「やや不満」は24.8%で、“不満派”は4割近く（38.3%）に上ります。

これを調査対象の子どもの年齢区分でみると、「0歳児」から「2歳児」をもつ保護者では満足度が高く、満足派がそれぞれ7割近くを占めますが、その一方で、「3歳児」以上の保護者では不満派の割合が高くなり、「5歳児」の保護者では58.0%と満足派を上回る結果となっています。

図表 61 子育て応援券の満足度（全体/年齢別）



(4) 子育て応援券を利用しない理由

問21付問2	問21で「①子育て応援券」を利用したことがないと回答した方におうかがいます。その理由は何ですか。【複数回答】
--------	--

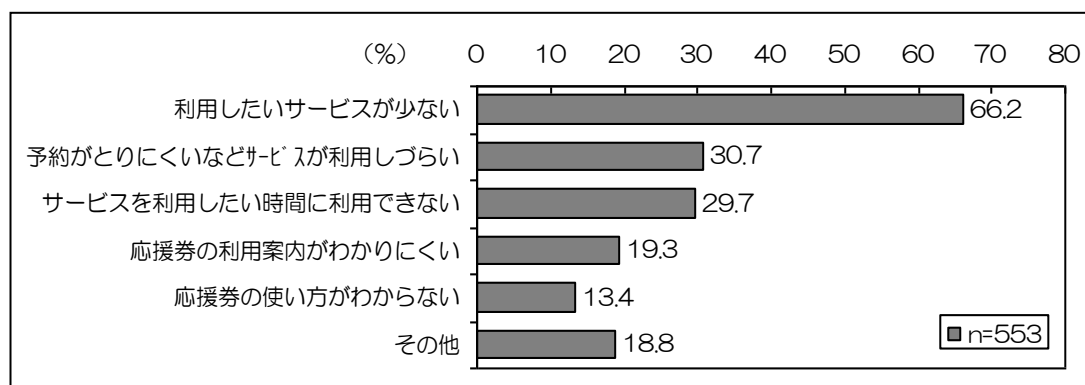


これまでに子育て応援券を利用したことがない人（553人）に、その理由をたずねた結果では「利用したいサービスが少ない」ことを挙げる人が66.2%に上ります。

また、「予約がとりにくいなどサービスが利用しづらい」が30.7%、「サービスを利用したい時間とサービスの利用時間があわない」が29.7%となっており、サービス内容に対する不足感とともに、利用しづらさを問題点として指摘する意見が多くを占めます。

さらに「子育て応援券の利用案内（ガイドブック）がわかりにくい」（19.3%）と感じている人が2割ほどに上るほか、「子育て応援券の使い方がわからない」（13.4%）を挙げる人も1割強という結果です。

図表 62 子育て応援券を利用しない理由（複数回答／全体）



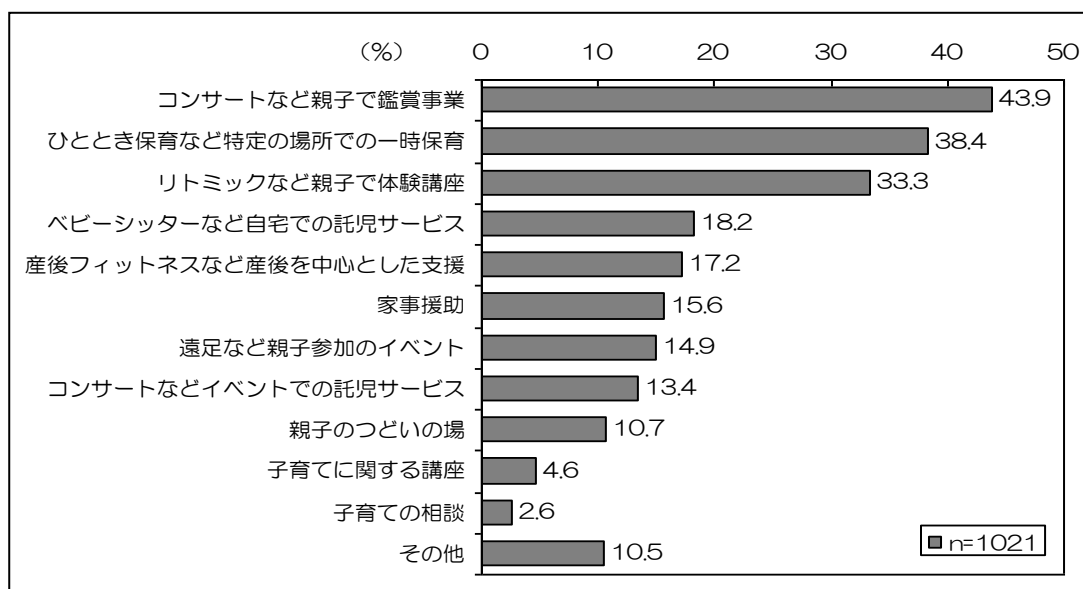
(5) 子育て応援券で今後利用したいサービス

問21付問3

問21で「①子育て応援券」を知っていると回答した方におうかがいします。
今後利用したいサービスは何ですか。【複数回答（3つまで）】

子育て応援券を知っていると回答した人（1,021人）に今後、利用したい内容をたずねた結果では、「コンサートなど親子での鑑賞事業」を挙げる人が43.9%、「ひととき保育など特定の場所などでの一時保育」が38.4%、「リトミックなど親子での体験講座」が33.3%と、これら3つのサービスに対する利用意向が相対的に高くなっています。

図表 63 子育て応援券で今後利用したいサービス（複数回答／全体）



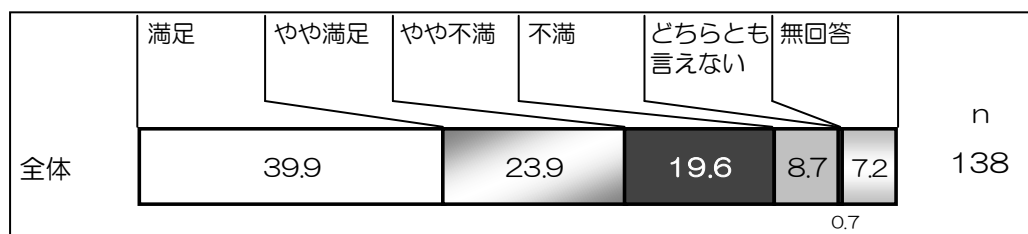
(6) ひととき保育の満足度

問21付問4	問21で「②ひととき保育」を利用したことがあると回答した方におうかがいします。ひととき保育を利用して感想はいかがでしたか。
--------	---

これまでに「ひととき保育」を利用した人（138人）の評価をみると、「満足」が39.9%、「やや満足」が23.9%で、全体の6割以上が肯定的に評価しています。

一方、「不満」（8.7%）と「やや不満」（19.6%）を合わせた不満派は3割近くという結果です。

図表 64 「ひととき保育」に対する満足度（全体）



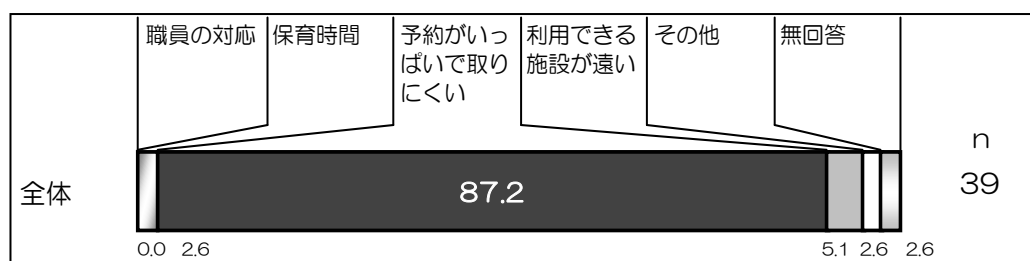
(7) 「ひととき保育」に対する不満の理由

問21付問4-1	付問4で「3. やや不満 4. 不満」と回答した方におうかがいします。主な理由は何ですか。
----------	---



これまでに「ひととき保育」を利用した経験がある人のうちの不満派（やや不満、または不満と回答した人39人）に、不満の理由をたずねた結果では、「予約がいっぱいで（予約が）取りにくい」点を挙げる人が大半であり、87.2%に達します。

図表 65 「ひととき保育」に対する不満の理由（全体）



(8) 児童館の利用頻度

問22	児童館を利用されている方へおうかがいします。利用頻度はどれくらいですか。
-----	--------------------------------------

児童館の利用頻度については、「月に1回」が23.5%、「月に4回」が20.4%、「月に2回」が19.1%とほぼ拮抗した結果です。また、「月に5～9回」が全体の17.9%、「月に10回以上」が8.3%となっています。

図表 66 児童館の利用頻度（全体／年齢別）

		月に1回	月に2回	月に3回	月に4回	月に5～9回	月に10回以上	無回答	n
全体		23.5	19.1	10.8	20.4	17.9	8.3		481
年齢別	0歳	24.0	16.0	8.0	25.3	21.3	5.3		75
	1歳	14.0	21.5	13.1	20.6	22.4	8.4		107
	2歳	18.8	14.9	11.9	20.8	22.8	10.9		101
	3歳	29.4	17.6	9.4	20.0	14.1	9.4		85
	4歳	21.1	23.7	15.8	18.4	13.2	7.9		38
	5歳	37.5	25.0	6.9	16.7	8.3	5.6		72

(9) 児童館に対する要望

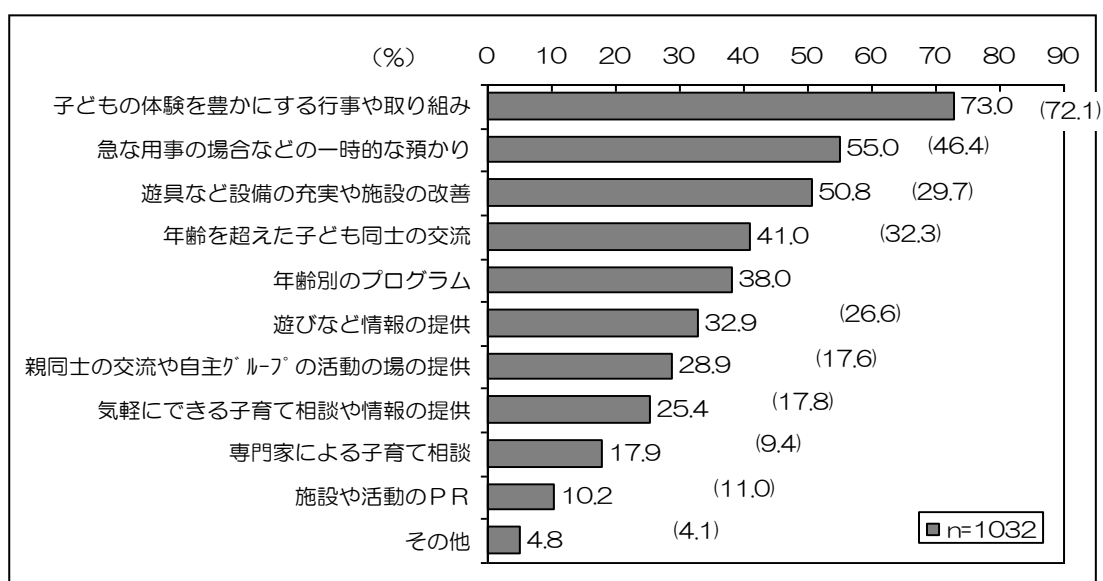
問23

あなたが児童館に望むことは何ですか。【複数回答】

児童館に対して要望することとしては、「子どもの体験を豊かにする行事や取り組み」を挙げる人が多く、全体の7割強（73.0%）に上ります。また、「親の急な用事の場合などに、児童館での一時的な子どもの預かり」（55.0%）や「遊具など設備の充実や施設の改善」（50.8%）を求める人も半数を超える結果です。

このほか、「年齢を超えた子ども同士の交流」が41.0%、「年齢別のプログラム」が38.0%、「遊びなど情報の提供」が32.9%などとなっています。

図表 67 児童館に対する期待（複数回答／全体）



※グラフ中、() 内の数値は、平成 15 年度調査時の結果を記載。

(10) すぎなみ子育てサイトへの希望

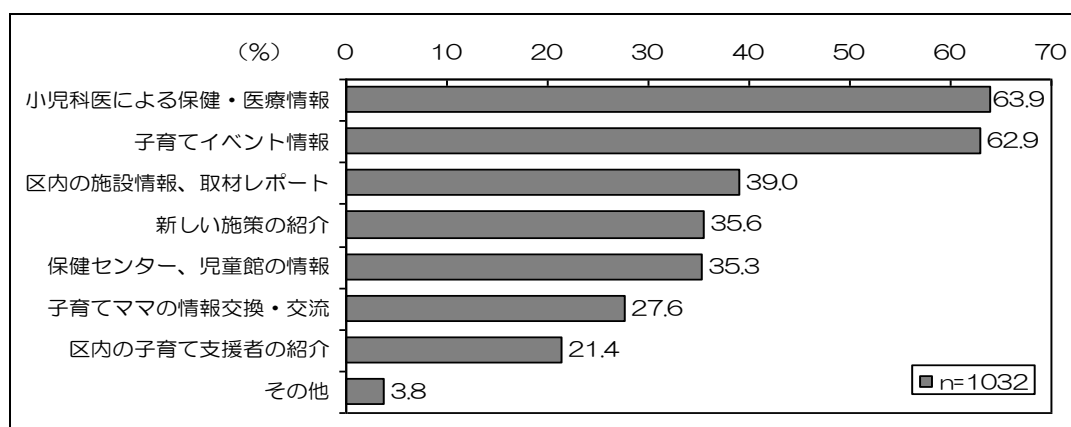
問24 すぎなみ子育てサイトでどんな情報を欲しいと思いますか。【複数回答】

すぎなみ子育てサイトを通じて得たい情報に関しては、「小児科医による保健・医療情報」(63.9%)と「子育てイベント情報」(62.9%)の2点の要望が高くなっています。

このほか、「区内の施設情報、取材レポート」を望む人が39.0%、「新しい施策の紹介」と「保健センター、児童館の情報」がそれぞれ35.6%と35.3%に上ります。

また、「子育てママの情報交換・交流」を望む人が27.6%という結果です。

図表 68 すぎなみ子育てサイトで提供を希望する情報（複数回答／全体）

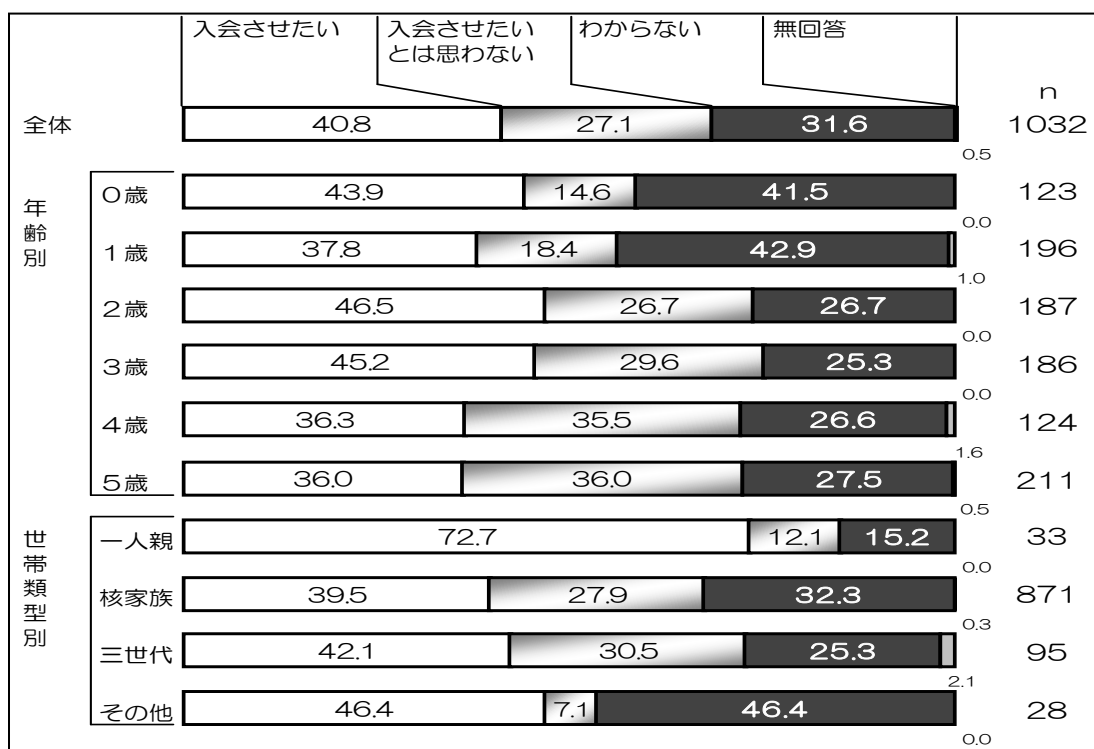


(11) 学童クラブへの入会希望

問25	宛名のお子さんが小学校に入学したら、学童クラブに入会させたいと思いますか。小学校入学後の保護者の仕事や家族の状況を想定してお答えください。
-----	---

調査対象の子どもが小学校入学後に学童クラブへの参加を希望するかをたずねたところ、全体では「入会させたい」が40.8%、「入会させたいとは思わない」が27.1%になります。

図表 69 学童クラブへの入会希望（全体／年齢別・世帯類型別）



8. 子育てについて

(1) 子育てに対する感想

問26 子育てについてどのように感じていますか。

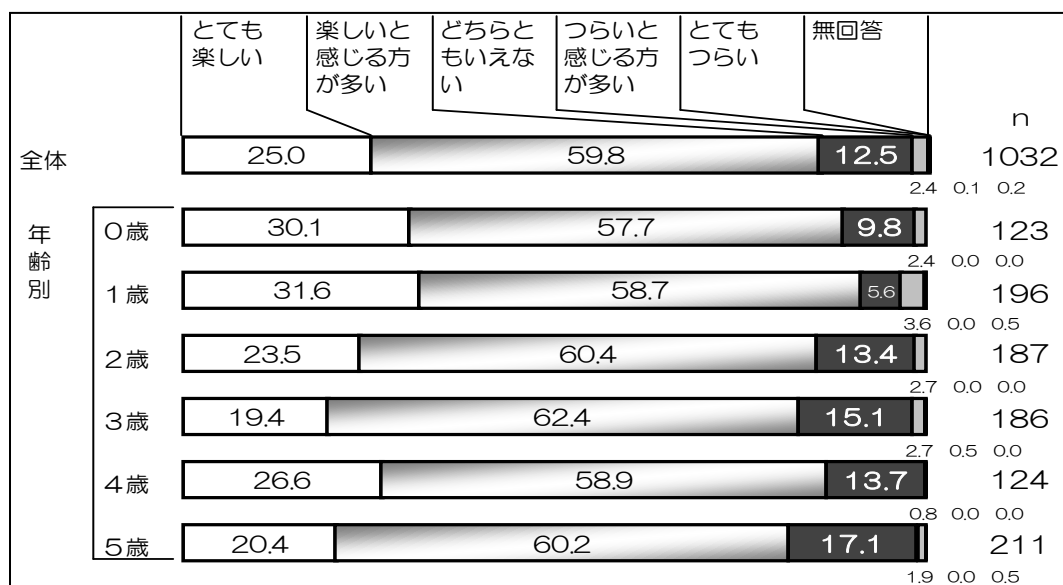
子育て全体を通じて保護者が感じていることとして、「楽しいと感じる方が多い」とする人が6割ほど（59.8%）に上り、「とても楽しい」と感じている人（25.0%）を合わせると、全体の84.8%の人が子育てに充実感を感じている結果です。

一方、「つらいと感じる方が多い」は2.4%、「とてもつらい」は0.1%であり、両者を合わせても子育てをつらいと感じている割合は全体の2.5%になっています。

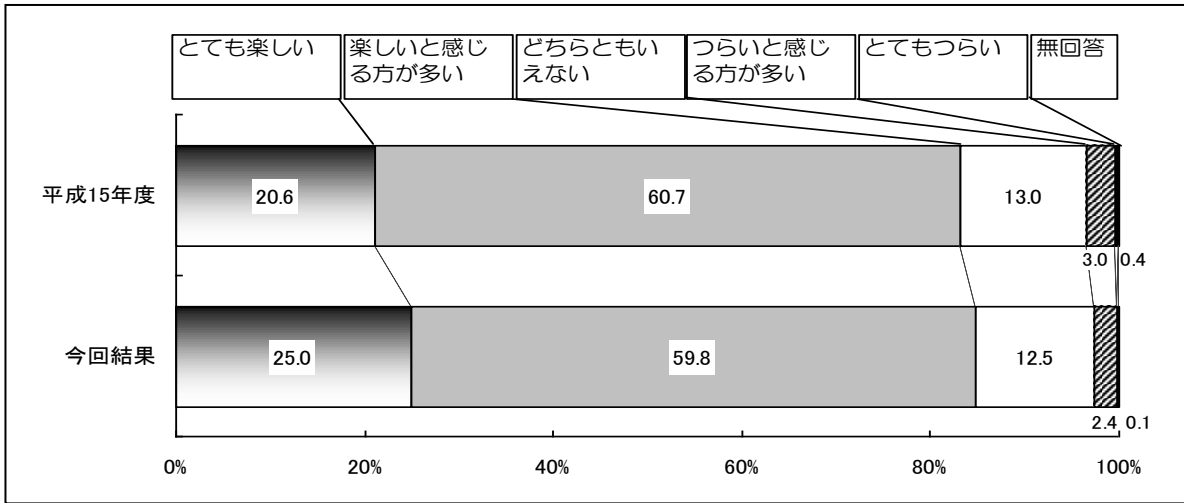
平成15年度の調査結果（未就学児の保護者1,795人）と比較すると、前回結果では「とても楽しい」と感じている人は20.6%で、今回結果はこれを4.4ポイント上回っています。

また、このほか、「楽しいと感じる方が多い」が60.7%、「つらいと感じる方が多い」が3.0%、「とてもつらい」が0.4%、また、「どちらともいえない」が13.0%という結果であり、それぞれ今回の結果は平成15年度の調査結果より減少した結果となっています。

図表 70 子育てに対する感想（全体／年齢別）



図表 71 子育てに対する感想（平成15年度調査結果との比較）



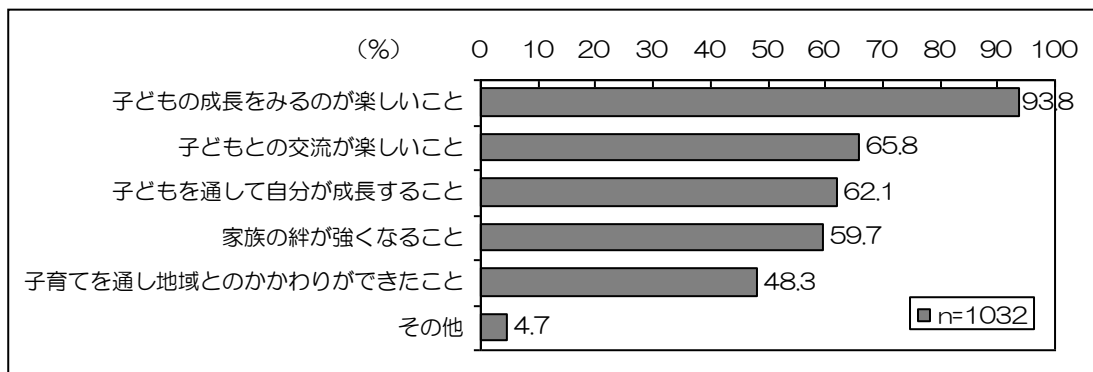
※「無回答」の割合は表記を省略。

(2) 子育てでよかったと感じていること

問27 子育てを通じてよかったと思うのはどのようなことですか。【複数回答】

子育てをしてよかったと感じることとして、「子どもの成長をみるのが楽しいこと」を挙げる人が93.8%に上るほか、「子どもとの交流が楽しいこと」(65.8%)や「子どもを通して自分が成長すること」(62.1%)、「家族の絆が強くなること」(59.7%)もそれぞれ6割前後に達します。

図表 72 子育てでよかったと感じること（複数回答／全体）



(3) 子育てで悩んでいること

問28 子育てに関して日常悩んでいること、気になることは何ですか。【複数回答】

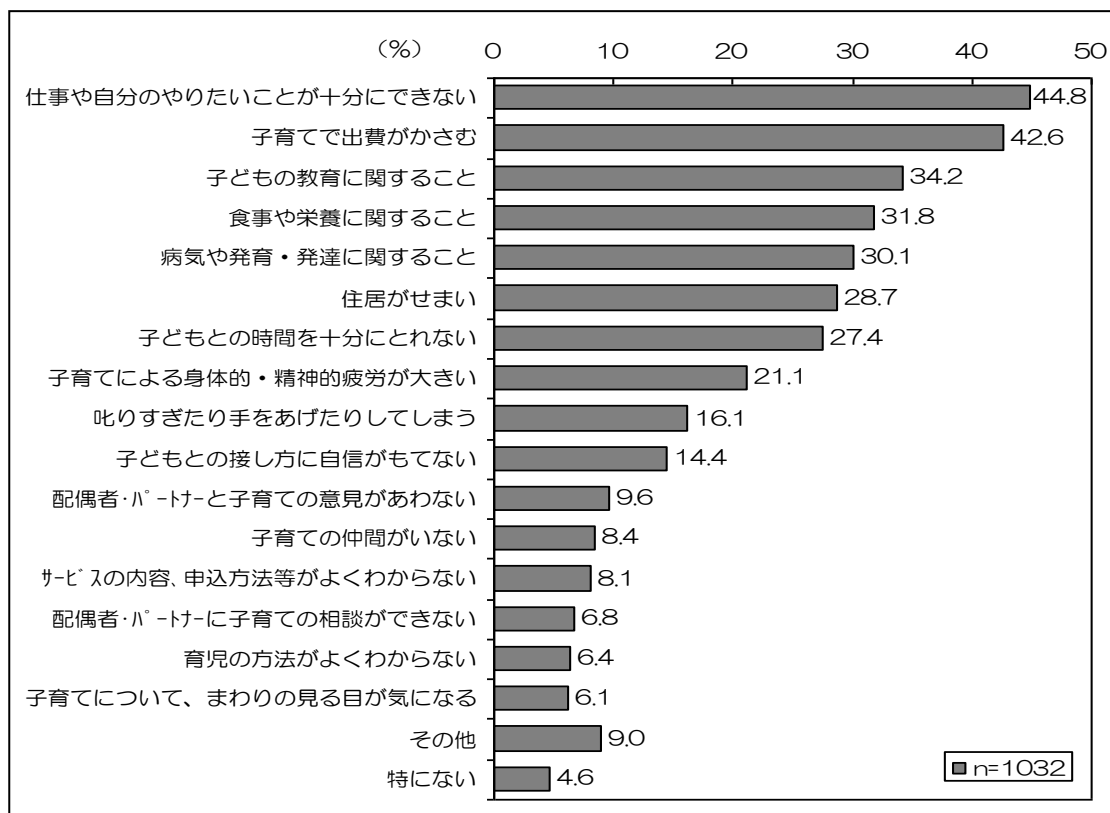
子育てに関して日常悩んでいることや気になることとしては、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」(44.8%)、「子育てで出費がかさむこと」(42.6%)の2点を挙げる人が多く見られます。

次いで「子どもの教育に関すること」(34.2%)や「食事や栄養に関すること」(31.8%)、「病気や発育・発達に関すること」(30.1%)が続きます。

さらに、「住居がせまいこと」(28.7%)、「子どもとの時間を十分にとれない」(27.4%)、「子育てによる身体的・精神的疲労が大きいこと」(21.1%)などを2割以上の人があげています。

これを前回結果(平成15年度)と比較した場合、悩みや不安の度合いの高い項目は、今回結果でも同様の傾向がみられますが、「子育てで出費がかさむ」を挙げる人の割合が前回よりも14ポイント以上上回っています。また、「住居がせまい」ことを挙げる人も3割近く(28.7%)に上ります。

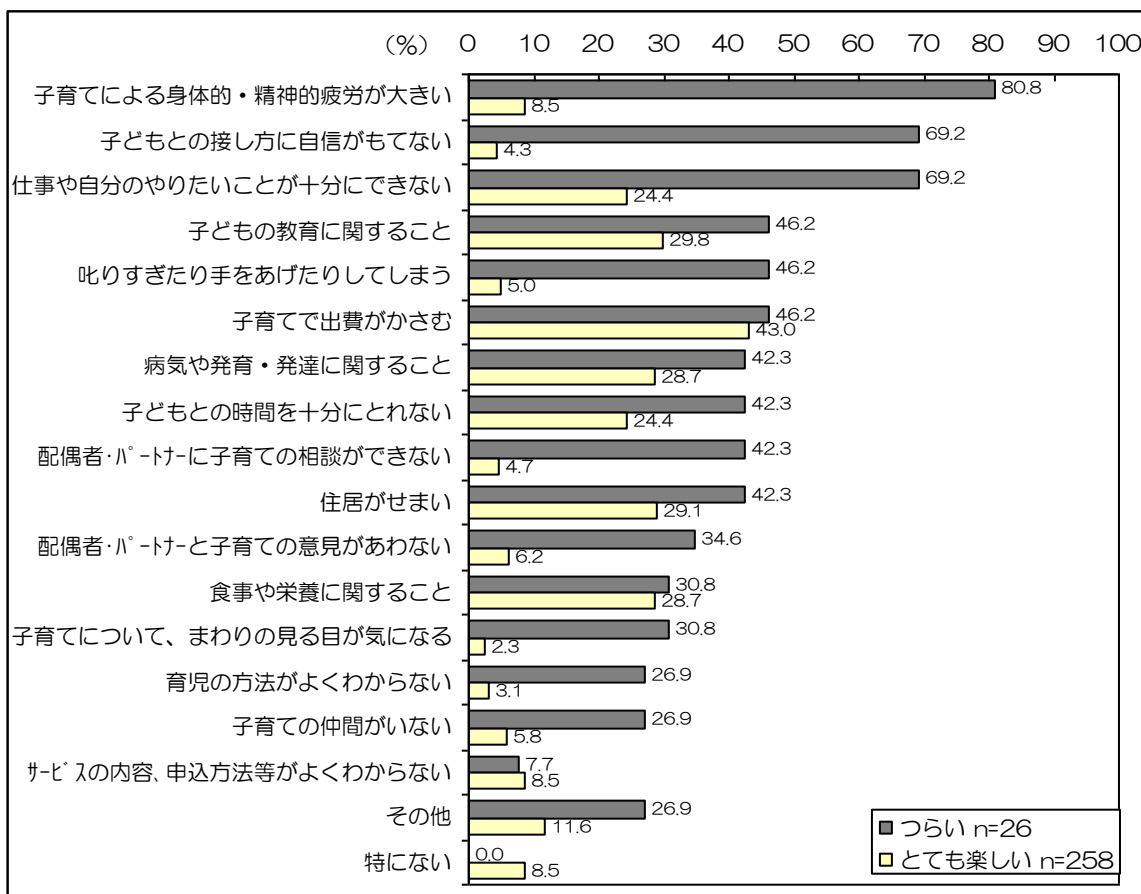
図表 73 子育てに関して悩んでいること(複数回答/全体)



次に、子育てに関する悩みや気になることについて、子育てを“つらいと感じている”人（「つらいと感じる方が多い」と「とてもつらい」の合計）の回答結果をみると、傾向としては全体結果と同様の結果がみられますが、それぞれの項目の基準値（全体値）との比較では「子育てによる身体的・精神的疲労が大きいこと」（全体値との差：59.7ポイント）と「子どもとの接し方に自信がもてない」（同54.8ポイント）が全体結果を大きく上回っています。

このほか、「配偶者・パートナーに子育ての相談ができない」（同35.5ポイント）や「叱りすぎたり手をあげたりしてしまう」（同30.1ポイント）ことに悩んでいる割合も高いといえます。

図表 74 子育てに関して悩んでいること（子育ての感想とのクロス結果）



※上記は、問 28 と問 26 のクロス集計結果で、上段は子育てを「つらい」と感じている人、下段は「とても楽しい」と感じている人の結果を示している。

(4) 子育ての相談相手

問29

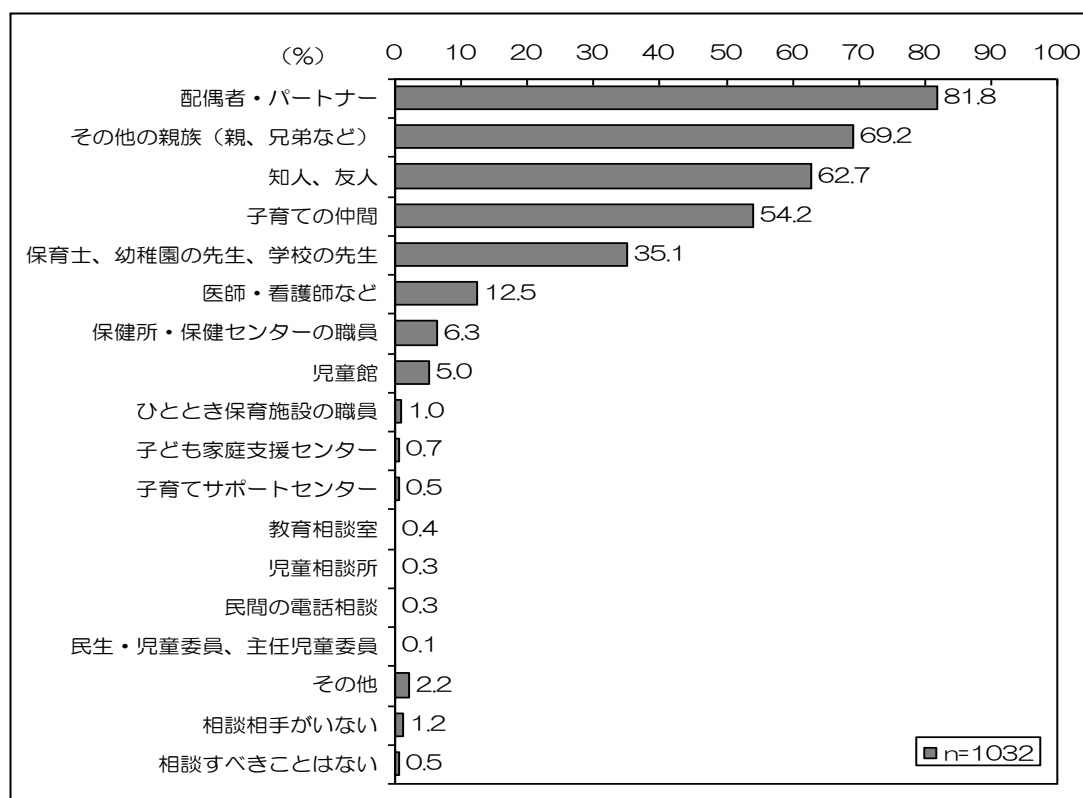
身近な地域で、子育てに関する悩みや不安の相談相手は誰ですか。

【複数回答】

身近で、子育てに関する悩みや不安を相談する相手としては、「配偶者・パートナー」を挙げる人が8割強（81.8%）で最も多く、また、「その他の親族（親・兄弟など）」が69.2%と続き、“身内の相談相手”が多数を占めます。これらに次いで「知人、友人」が62.7%、「子育ての仲間」が54.2%という結果です。

このほか、「保育士、幼稚園の先生、学校の先生」の35.1%と3割を超える以外では「医師・看護師など」（12.5%）、「保健所・保健センターの職員」（6.3%）、「児童館（ゆうキッズを含む）」（5.0%）、「ひととき保育施設の職員」（1.0%）となっています。

図表 75 身近な地域での子育てに関する相談相手（複数回答／全体）



(5) 子育てに関する情報の入手方法

問30

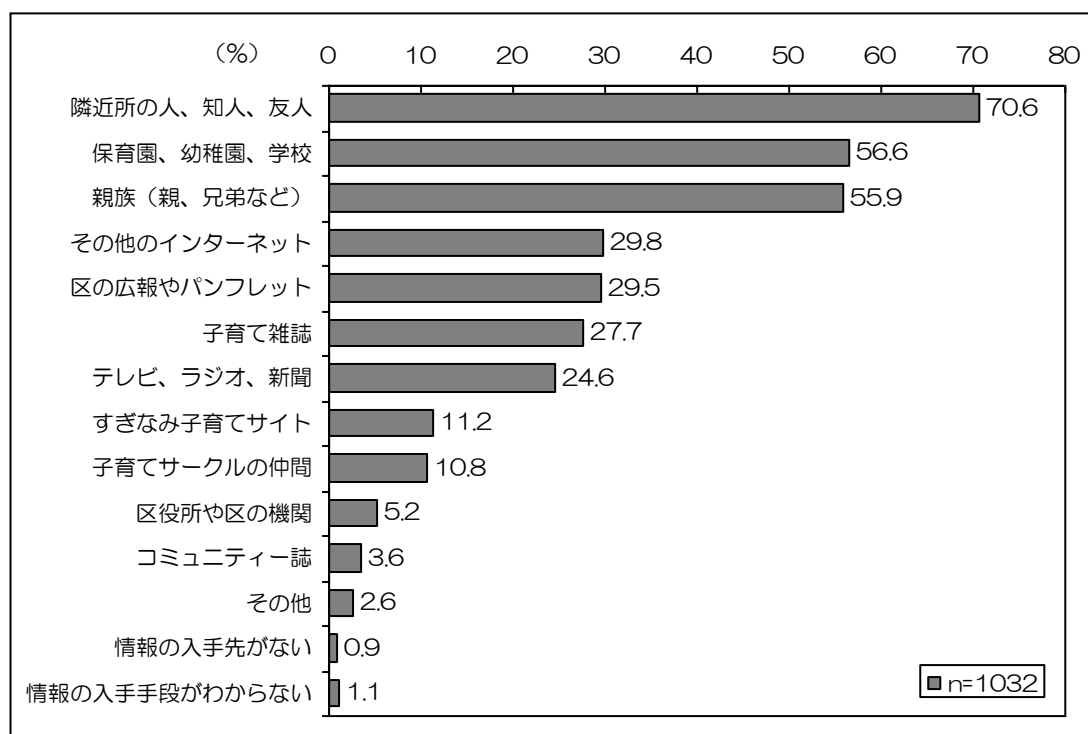
子育てに関する情報の入手方法は何ですか。【複数回答】

子育てに関する情報の入手方法で最も多いのが「隣近所の人、知人、友人」であり、全体の7割ほど（70.6%）に上ります。

これに次いで「保育園、幼稚園、学校」、「親族（親、兄弟など）」を通じて情報を得ているとする人が56.6%と55.9%であり、それぞれ半数以上を占めます。

このほか、「その他のインターネット」（29.8%）や「区の広報やパンフレット」（29.5%）で情報入手している人が全体の約3割、さらに「子育て雑誌」（27.7%）や「テレビ、ラジオ、新聞」（24.6%）などマスメディアを通じて入手する人も2割を超える状況です。

図表 76 子育てに関する情報の入手方法（複数回答／全体）



9. 地域での子育て支援について

(1) 親同士のつきあいや子育て仲間の有無

問31

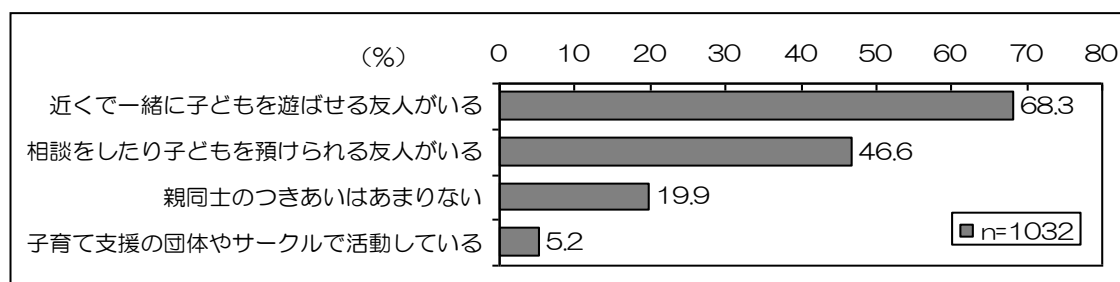
あなたは、同じくらいの子をもつ親同士のつきあい、育児のグループ等の子育て仲間がいますか。【複数回答】

同年齢の子どもをもつ親同士のつきあいや育児グループなどの子育て仲間の有無について、「同じくらいの子どもの親とのつきあいはあまりない」と回答した人は全体の2割ほど(19.9%)にとどまり、多くが親同士の交流があるという結果です。

具体的には、「近くで一緒に子どもを遊ばせる友人がいる」人が約7割(68.3%)に上り、次いで「子育てのことを相談したり、子どもを預けられる友人がいる」が半数近くの46.6%となっています。

一方、「子育て応援券事業者の団体や子育て支援を行うNPO団体、地域の子育てサークルに入って活動している」人は5.2%にとどまる結果です。

図表 77 親同士のつきあいや子育て仲間の有無（複数回答／全体）



図表 78 親同士のつきあいや子育て仲間の有無（複数回答／年齢別）

	子育て支援の団体やサークルで活動している	相談をしたり子どもを預けられる友人がいる	近くで一緒に子どもを遊ばせる友人がいる	親同士のつきあいはあまりない	無回答
全体 n=1,032	5.2	46.6	68.3	19.9	2.3
0歳児 n=123	8.1	30.9	51.2	32.5	4.9
1歳児 n=196	6.6	33.2	65.3	25.0	2.0
2歳児 n=187	7.0	39.6	66.3	19.8	2.7
3歳児 n=186	5.4	52.7	69.9	18.8	1.6
4歳児 n=124	4.0	62.9	82.3	9.7	1.6
5歳児 n=211	1.4	58.8	73.0	15.2	1.9

(2) 子育て仲間づくりへの参加希望

問32

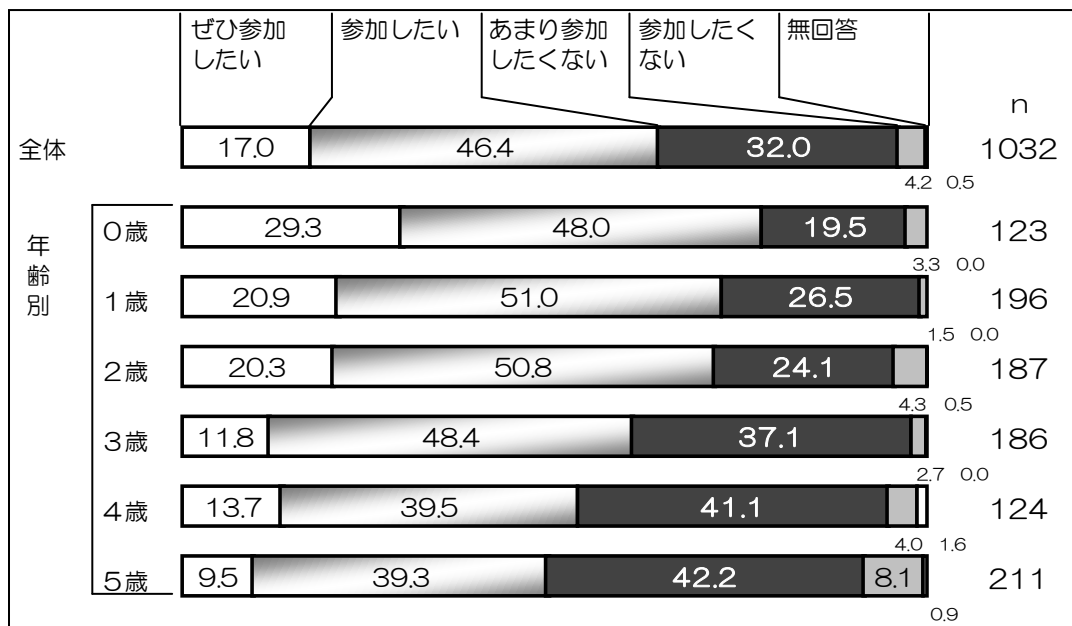
子育ての仲間づくりの機会があれば、参加したいと思いますか。

子育ての仲間づくりの機会があれば参加したいかとの問いに対し、「ぜひ参加したい」と回答した人が17.0%、「参加したい」が46.4%と、両者を合わせると“参加希望”が全体の6割強（63.4%）に上ります。

一方、「あまり参加したくない」（32.0%）と「参加したくない」（4.2%）とする“不参加派”は4割を下回る結果です。

この結果を調査対象の子どもの年齢別区分でみると、「0歳児」の保護者での参加希望が8割近く（77.3%）に及ぶなど、小さな子どもをもつ保護者ほど参加意向がより高い結果となっています。

図表 79 子育ての仲間づくりの機会への参加意向（全体／年齢別）



(3) 子育て仲間づくりへ参加したくない理由

問32付問 1	問32で「3. あまり参加したくない」「4. 参加したくない」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。
---------	---

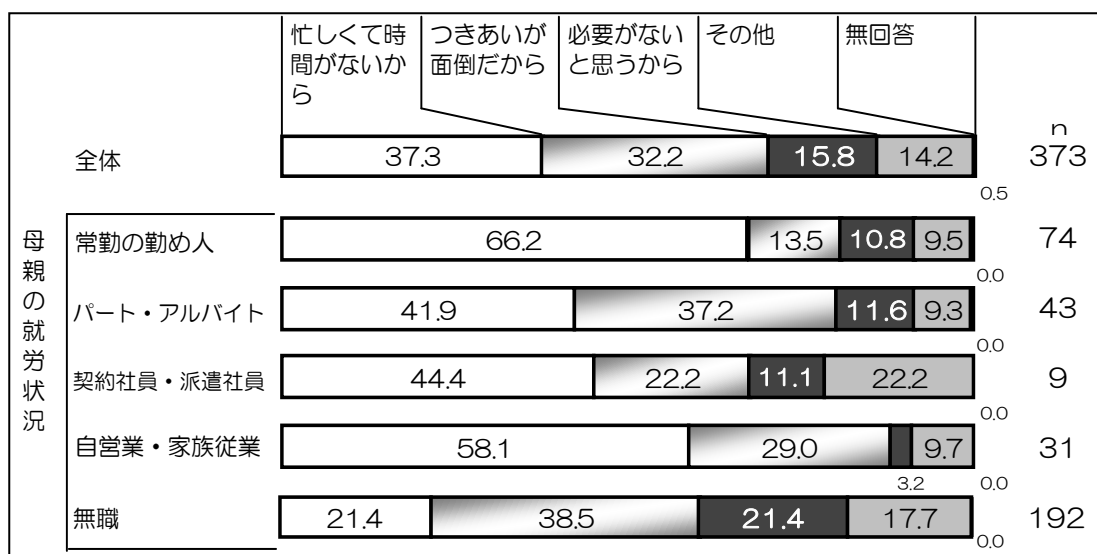


子育て仲間づくりへの参加を希望しない人（373人）にその理由をたずねたところ、「必要がないと思うから」とする人は15.8%にとどまり、「忙しくて時間がないから」が37.3%、「つきあいが面倒だから」が32.2%という結果です。

“時間がない”とする割合は、当然ながら就労している母親で高い数値となっており、「常勤の勤め人」でその66.2%、「自営業・家族従業者」で58.1%を占めます。

また、「つきあいが面倒である」とする人の割合は、「無職（専業主婦）」（38.5%）や「パート・アルバイト」（37.2%）で高い数値となっています。

図表 80 子育て仲間づくりに参加したくない理由（全体／就労形態別）



(4) 安心して子育てするための必要な地域の取り組み

問33	安心して子育てをするためには、地域でどのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】
-----	--

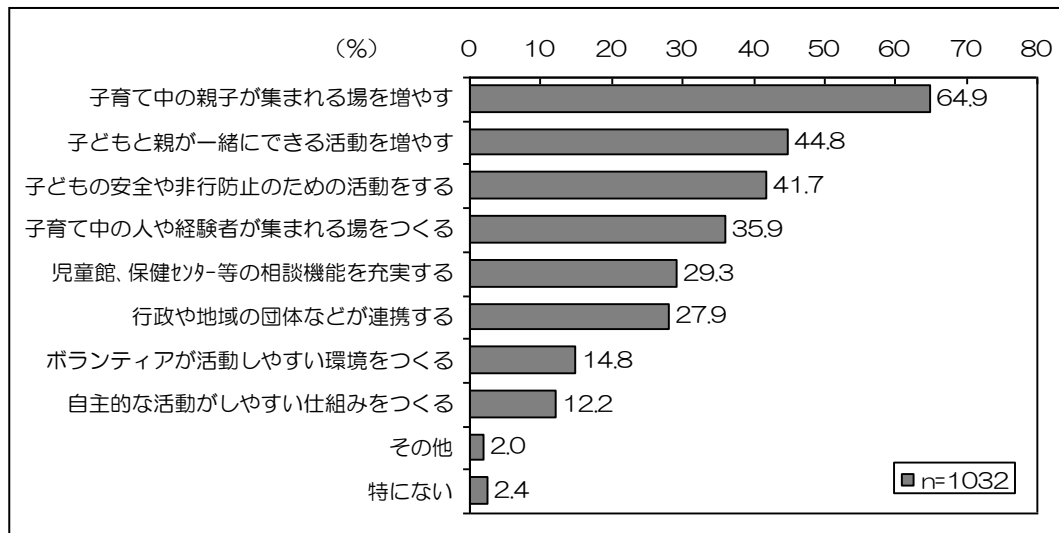


安心して子育てをするために地域として取り組むべきこととしては、「子育て中の親子が集まり遊べる場を増やす」ことを挙げる人が最も多く全体の6割を超えます（64.9%）。

次いで、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」（44.8%）や「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止のための活動をする」（41.7%）が続き、それぞれ4割を超えます。

このほか、「子育て中の人や経験者が身近に集まれる場や仕組みをつくる」こと（35.9%）や「児童館、保健センター、保育園の相談機能を充実させる」こと（29.3%）を求める人が3割前後に上り、情報交換や相談体制の充実が求められています。

図表 81 安心して子育てするための必要な地域の取り組み（複数回答／全体）



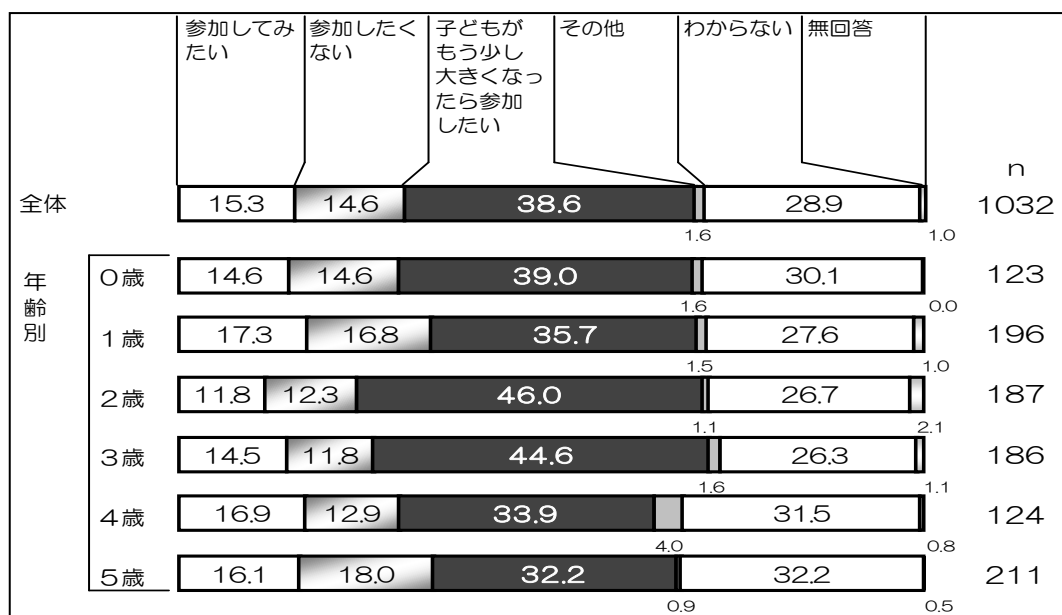
(5) 子育てボランティア等への参加希望

問34	今までの子育て経験を活かせる場や機会ができれば、保育や相談相手などのボランティアに参加してみたいと思いますか。
-----	---

子育ての経験を活かした保育や相談相手などのボランティアへの参加意向に関し、「参加してみたい」が15.3%、「子どもがもう少し大きくなったら参加したい」が38.6%と、両者を合わせると、「参加希望者」が過半数を占めます。

一方、「わからない」は28.9%、「参加したくない」は14.6%となっています。

図表 82 子育てボランティア等への参加希望（全体／年齢別）



10. 子どもの外出環境について

(1) 子どもとの外出の際に困ること

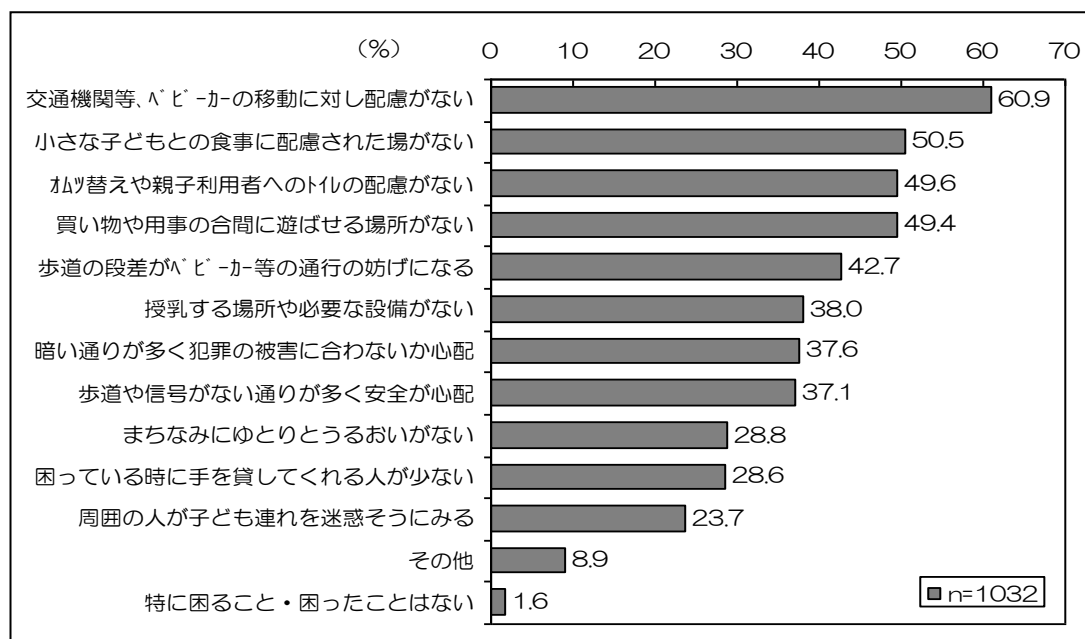
問35 子どもとの外出の際、困ること・困ったことはありますか。【複数回答】

子ども連れで外出するときに困ることをたずねたところ、「特に困ること・困っていることはない」と回答した人はわずか1.6%にとどまり、無回答（1.0%）を除くと全体の98%ほどの人が外出時の困難を感じている結果です。

特に、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていないこと」を挙げる人も最も多く全体の6割（60.9%）に上ります。

また、「小さな子どもとの食事に配慮されていない場所がないこと」（50.5%）や「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと」（49.6%）、「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がないこと」（49.4%）を挙げる人がそれぞれ半数ほどを占めます。

図表 83 子どもとの外出の際に困ったこと・困っていること（複数回答／全体）



図表 84 子どもとの外出の際に困ること（複数回答/地域別）

	歩道や信号のない通りが多い	歩道の段差等が通行の妨げ	交通機関や建物がベビーカーの移動に配慮不足	オムツ替えや親子利用者へのトイレの配慮が不足	授乳する場所や必要な設備が不足	小さな子どもとの食事に配慮された場が不足	買い物等の合間に遊ばせる場所が不足	まちなみにゆとりとうるおいが不足	暗い通りや見通しの悪い所が多い	子ども連れへの周囲の配慮が不足	困っている時に手助けする人が少ない	周囲の人が子ども連れを迷惑そうにみる	困っている時に手を貸してくれる人が少ない	その他	特に困ること・困ったことはない
全体（基準値）	37.1	42.7	60.9	49.6	38.0	50.5	49.4	28.8	37.6	23.7	28.6	23.7	28.6	8.9	1.6
井草地域		▲9.0		8.4	▲4.4		4.7	4.1	5.8					3.0	—
西荻地域					6.6				3.9						—
荻窪地域	▲8.8					3.5	▲6.8	▲8.0	3.5	▲6.0	▲6.0	▲6.0	▲6.0	▲4.6	—
阿佐谷地域	10.0	6.6		▲3.9				8.6		3.6	5.0	3.6	5.0		—
高円寺地域	3.8	4.9	▲8.3			▲5.9			▲7.3	4.5		4.5		4.4	—
高井戸地域	▲11.6			6.2					▲3.7	3.1	3.2	3.1	3.2		—
永福和泉地域	16.2	▲7.8	▲7.2	▲7.5	▲4.9		▲4.4		▲4.2	▲7.0	▲9.9	▲7.0	▲9.9		—

※上記は、全体結果を基準値にして、それぞれの項目ごとに±3ポイント（%）以上の差があるものを表示。▲が付している数値は、全体結果（基準値）より上回っているものであり、不満足度が高い項目となる。（例えば、井草地域では、「歩道段差等」や「授乳場所」に対する問題意識をもつ人が全体結果より多く、逆に「トイレの配慮の不足」や「暗い通りの多さ」、「まちなみのうるおい等の不足」等に対しては、少ないということになります。

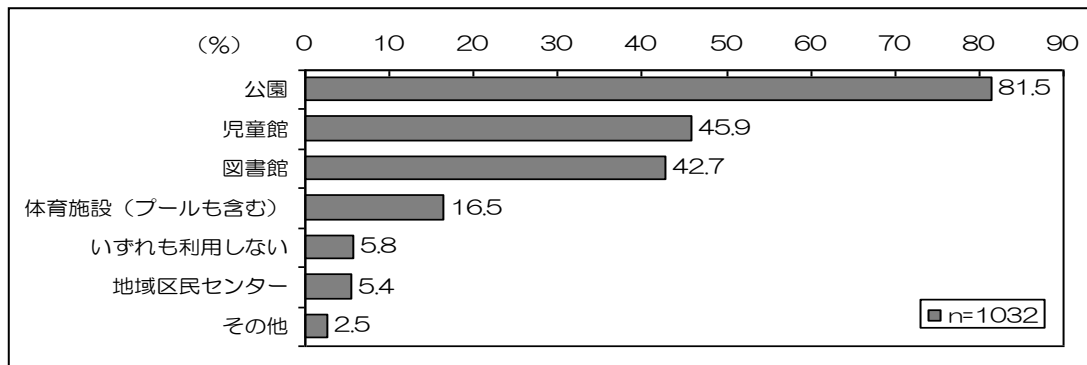
(2) よく利用する公共施設

問36	あなたが調査の対象のお子さんによく利用する公共施設はどれですか。 【複数回答】
-----	--

調査対象の子どもと一緒によく利用する公共施設としては、「公園」を挙げる人が全体の8割強（81.5%）に上り、最も多く利用しています。

これに次いで「児童館」（45.9%）と「図書館」（42.7%）の利用が多くそれぞれ4割を超えます。

図表 85 子どもによく利用する公共施設（複数回答／全体）



11. 子ども関連施策に対するニーズ

(1) 子どもに関する施策の重点度

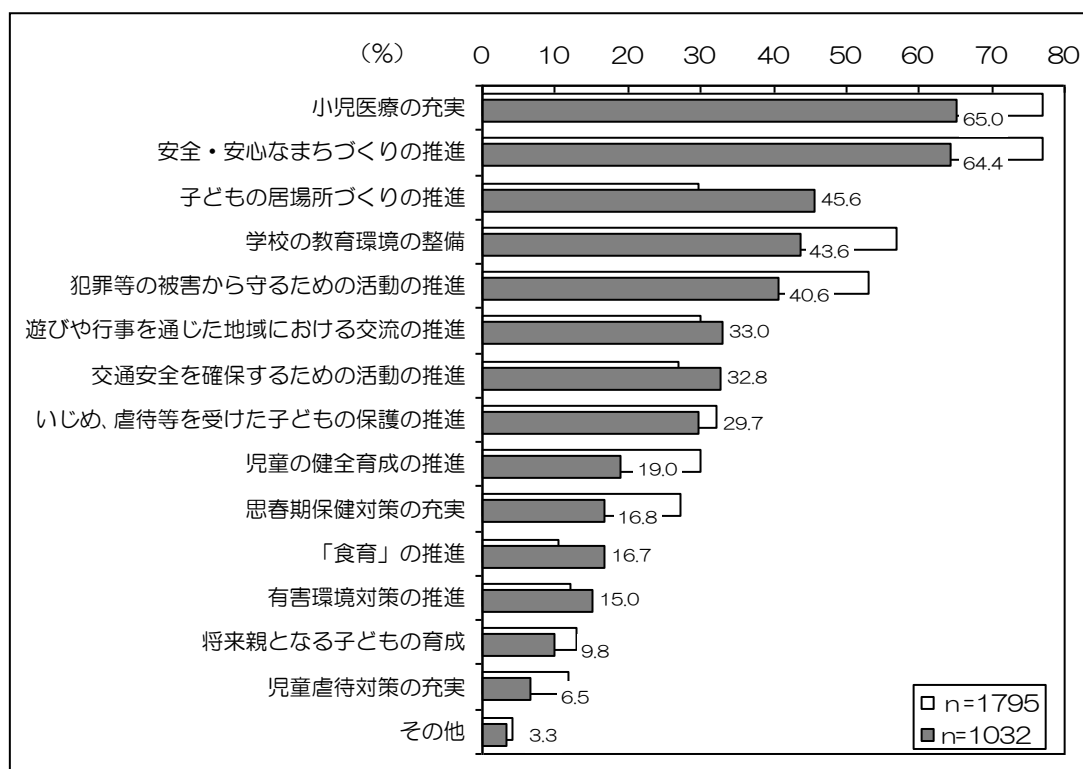
問37

子どもに関する施策について、区が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思えますか。【複数回答（あてはまるもの5つ）】

子どもに関する施策のうち、区が重点的に取り組むべきと捉えられている内容を見ると、「小児医療」(65.0%)と「安全・安心なまちづくりの推進」(64.4%)を挙げる人が多く、小児医療体制の充実と子どもの安全性確保に係る施策に対する保護者のニーズの高さが示されます。

これらに次いで、「子どもの居場所づくり」(45.6%)や「学校の教育環境の整備」(43.6%)、「犯罪等からの被害から守るための活動の推進」(40.6%)を求める意見がそれぞれ全体の4割を超える結果です。

図表 86 子どもに関する施策の重点度（複数回答／全体）



※ □ は、平成15年度杉並区青少年実態調査の結果(数値は略)

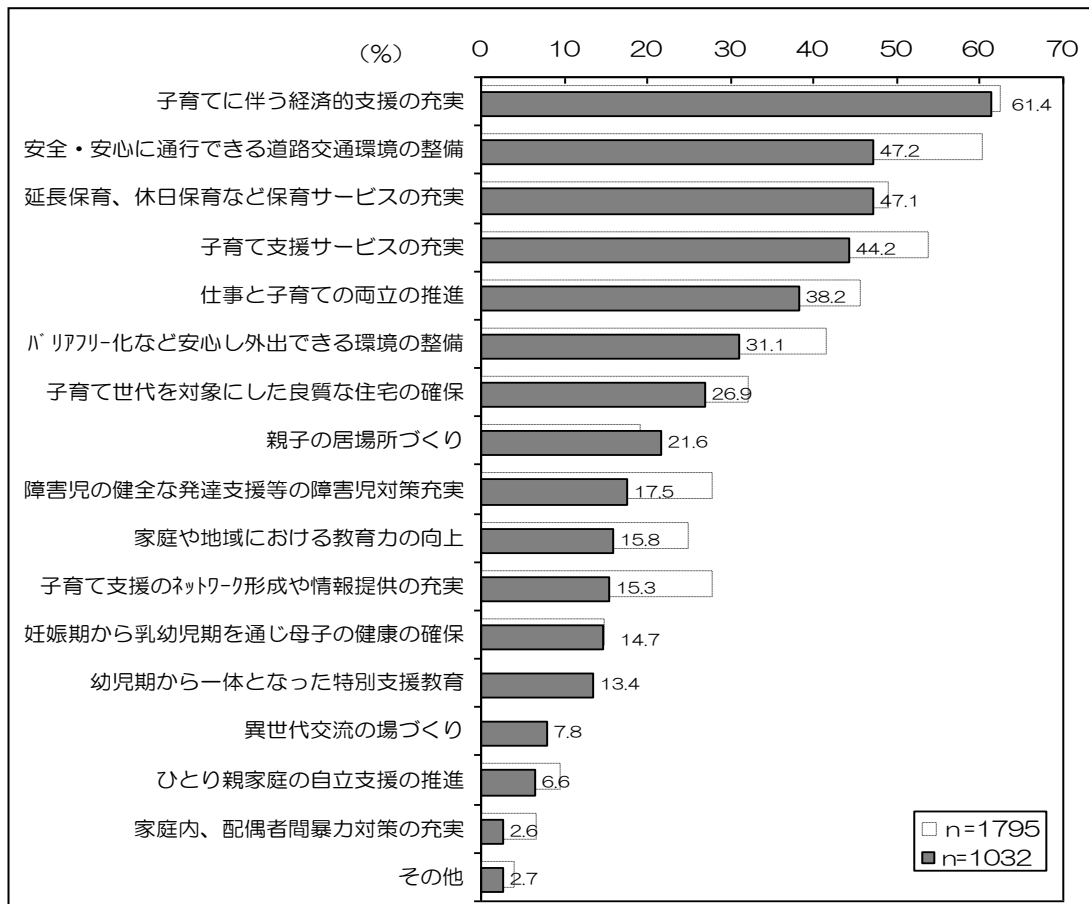
問38	<p>子育て支援の環境づくりに対する施策について、区が重点的に取り組む必要が高いと思われるものは何だと思えますか。</p> <p style="text-align: right;">【複数回答（あてはまるもの5つ）】</p>
-----	---

子育て支援のための施策について区が重点的に取り組むべき施策としては、第1位に「子育てに伴う経済的支援の充実」(61.4%)が挙げられ、経済的負担の軽減策の一層の充実が求められている結果です。

次いで、「安全・安心に通行できる道路交通環境の整備」(47.2%)、「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」(47.1%)、「子育て支援サービスの充実」(44.2%)、「仕事と子育ての両立の推進」(38.2%)が上位に挙げられています。

平成15年度の調査結果(グラフ中の点線部分)と比較しても、項目別の重点度、優先度に大きな違いは見られません。

図表 87 子育て支援のための施策の重点度 (複数回答/全体)



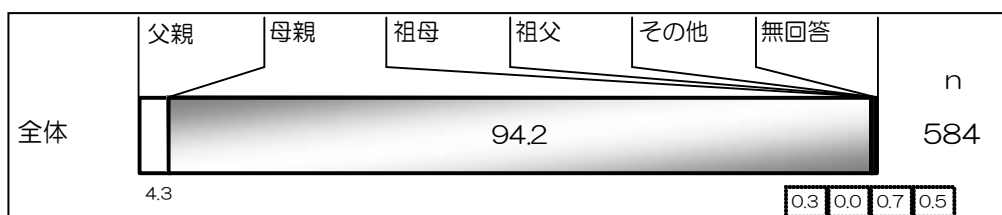
※ 点線部分は、平成15年度杉並区青少年実態調査の結果(数値は略)

II-2 小学生の保護者

1. 対象者の属性

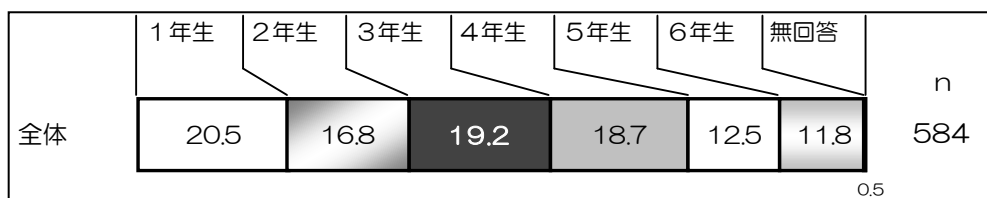
(1) 回答者（調査対象児童からみた続柄）

この調査に対する回答者を調査対象の児童との続柄でみていくと、「母親」が94.2%、「父親」が4.3%、「その他」が0.7%、「祖母」が0.3%となっています。



(2) 調査対象の児童の学年別構成

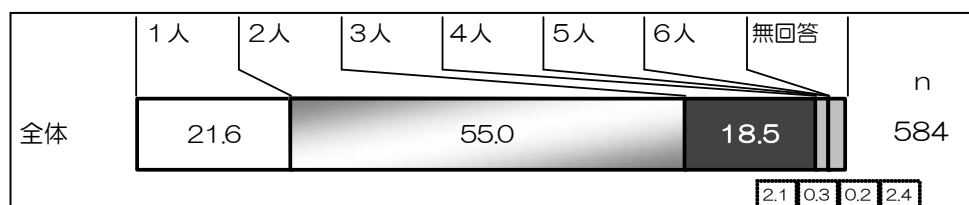
調査対象となっている児童の学年別構成をみると、「1年生」が20.5%、「2年生」が16.8%、「3年生」が19.2%、「4年生」が18.7%、「5年生」が12.5%、「6年生」が11.8%と、「5年生」と「6年生」が他に比べ少ないものの、ほぼ各学年にわたって均等化された学年別分布となっています。



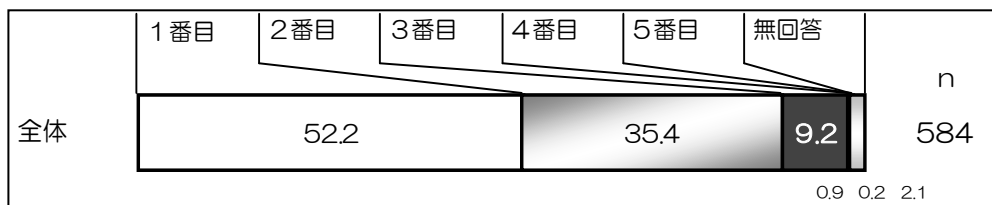
(3) 兄弟・姉妹の構成（調査対象児童）

調査対象の児童を含めた兄弟・姉妹の人数では、「2人」が過半数の55.0%までを占め、次いで、「1人」（ひとりっ子）が21.6%となっており、両者で全体の7割を超えます。

このほかでは、「3人」が18.5%、「4人」が2.1%、「5人」が0.3%、「6人」が0.2%という結果です。



また、調査対象の児童について、兄弟・姉妹の中での順番をたずねた結果については、「1番目」（第1子）と回答した割合が全体の52.2%と過半数に上ります。



2. 調査対象の児童と家族の状況

(1) 両親の状況

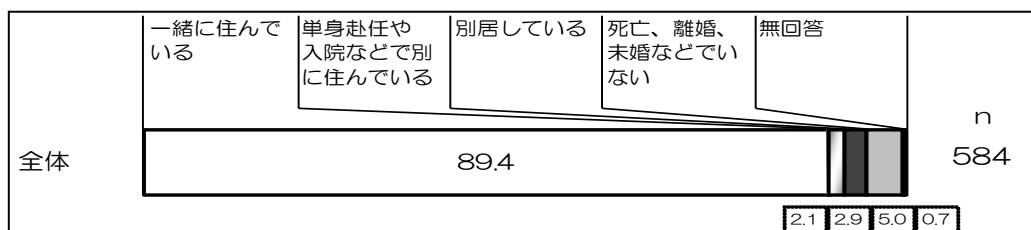
問3 調査対象のお子さんのご両親の状況についておうかがいします。

■ (1) 父親の同居状況と就労状況

■ 父親の同居状況：

父親の同居状況では、「一緒に住んでいる」が89.4%で最も多く、以下、「死亡、離婚、未婚などでいない」が5.0%、「別居している」が2.9%、「単身赴任や入院などで別に住んでいる」が2.1%となっています。

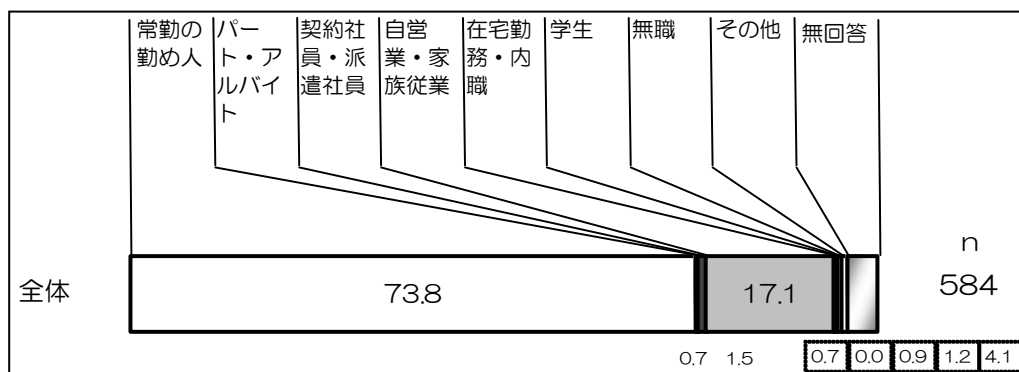
図表 88 同居状況：父親（全体）



■ 父親の就労状況：

父親の就労状況について、就業形態（職種）別で見ると、「常勤の勤め人」が73.8%、「自営業・家族従業」（17.1%）、「契約社員・派遣社員」（1.5%）、「その他」（1.2%）、「パート・アルバイト」・「在宅勤務・内職」（ともに0.7%）の順となっているほか、「無職」が0.9%などという構成です。

図表 89 就労状況：父親（全体）

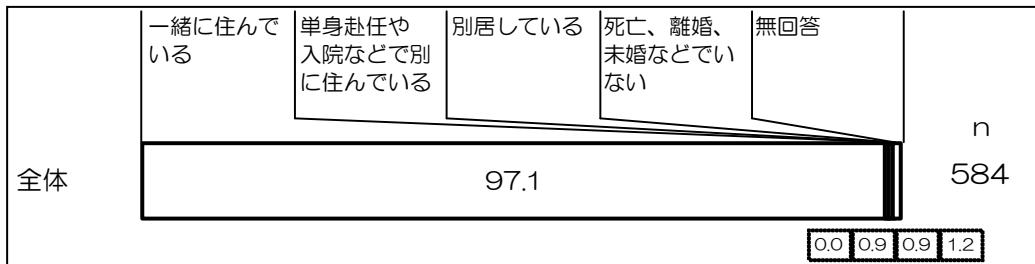


■ (2) 母親の同居状況と就労状況

■ 母親の同居状況：

母親の同居状況では、「一緒に住んでいる」が97.1%までを占め、以下、「別居している」と「死亡、離婚、未婚などでいない」が0.9%となっています。

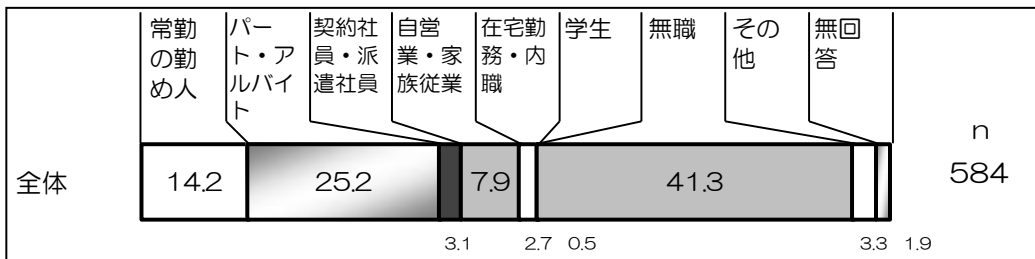
図表 90 同居状況：母親（全体）



■ 母親の就労状況：

母親の就労状況について、就業形態（職種）別で見ると、「無職」が4割強（41.3%）までを占めます。以下、「パート・アルバイト」が25.2%に上るほか、「常勤の勤め人」（14.2%）、「自営業・家族従業」（7.9%）、「契約社員・派遣社員」（3.1%）、「在宅勤務・内職」（2.7%）、「学生」（0.5%）の順となっています。

図表 91 就労状況：母親（全体）

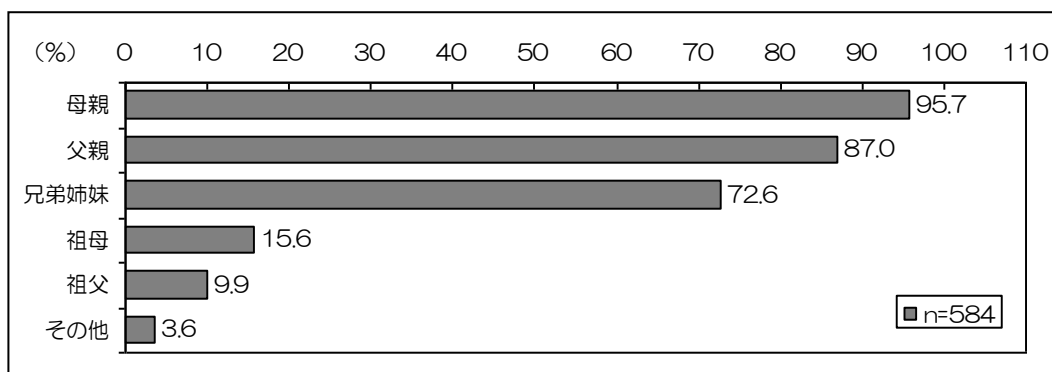


(2) 同居人の続柄 (調査対象児童からみた関係)

問4 調査対象のお子さんと同居されている方はどなたですか。なお、続柄は調査対象のお子さんからみた関係です。【複数回答】

調査対象の児童と同居している家族については、「母親」が9割、「父親」が8割を超えるほか、「兄弟姉妹」が7割強(72.6%)に上ります。また、「祖母」や「祖父」との同居はそれぞれ1割前後となっています。

図表 92 同居している家族 (複数回答/全体)

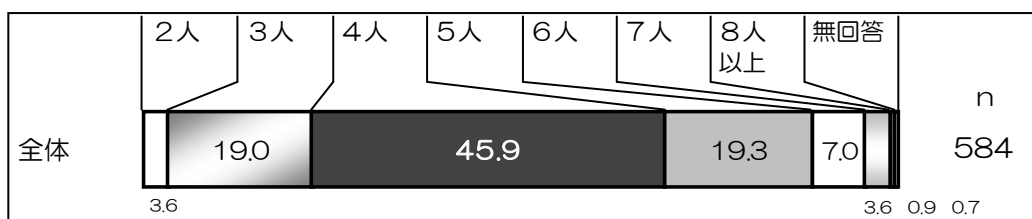


(3) 家族の人数

問5 調査対象のお子さんと同居している家族全員 (調査対象のお子さんを含む) の人数は何人ですか。

同居家族の人数では、調査対象の児童を含めた「4人」が半数近くの45.9%を占め最も多く、次いで、「5人」が19.3%となっており、4~5人の世帯が全体の65.2%に上ります。

図表 93 同居人数 (全体)

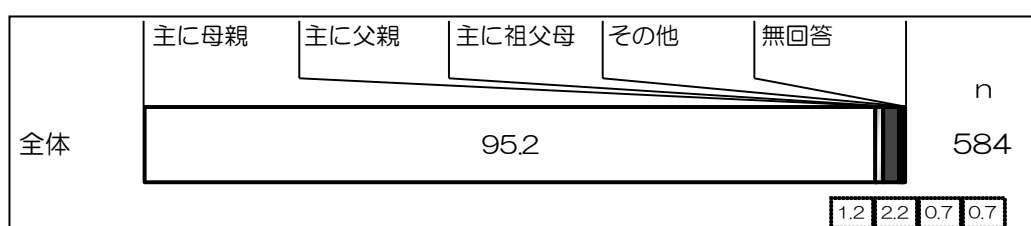


(4) 主に子どもの世話をしている人の続柄（対象児童からみた関係）

問6 調査対象のお子さんの身の回りの世話を主にしている方はどなたですか。なお、続柄は調査対象のお子さんからみた関係です。

調査対象の児童を主に世話をしている人としては、「母親」が95.2%を占めます。こうした中、「祖父母」と回答した人は2.2%となっています。

図表 94 子どもの世話をしている人（全体）



(5) 主に子どもの世話をしている人の就労状況

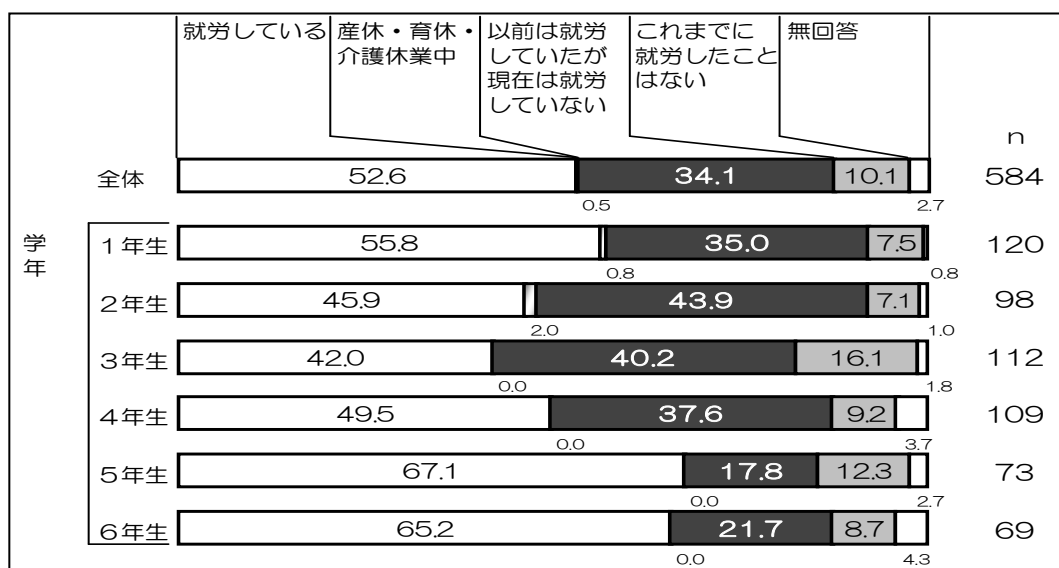
問6付問1 問6で選んだ方（主にお子さんの世話をしている方）の就労状況についておうかがいします。（主にお子さんの世話をしている方は）現在就労していますか。自営業、在宅勤務・内職等も「就労している」に含めてお答えください。

主に子どもの世話をしている人の就労状況を見ると、「就労している」人が半数を超えます。また、「以前は就労していたが現在は就労していない」人が3割強（34.1%）、「産休・育休・介護休業中」の人が0.5%という結果です。

一方、「これまでに就労したことはない」人が約1割（10.1%）となっています。

学年別では、高学年において、「就労している」との回答が多くみられ、低学年においては、「以前は就労していたが現在は就労していない」との回答がやや多くみられます。

図表 95 子どもの世話をしている人の就労状況（全体／学年別）



(6) 主に子どもの世話をしている人の今後の就労意思

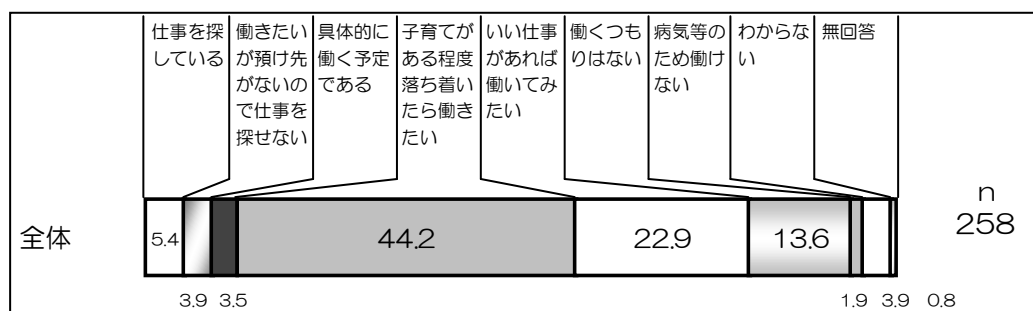
問6付問2 問6付問1で「3. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「4. これまでに就労したことはない」と答えた方におうかがいします。今後、就労の意思はありますか。

今後の就労意思をたずねた結果では、「働くつもりはない」と回答した人は13.6%となっており、就労を希望している人は全体の約8割（79.9%）に上ります。

就労希望者のうち、「子育てがある程度落ち着いたら働きたい」と希望する人が44.2%に上るほか、「いい仕事があれば働いてみたい」と積極的な意向を持つ人も2割強（22.9%）を占めます。

その一方、「働きたいが預け先がないので仕事を探せない」とする人が3.9%となっています。

図表 96 今後の就労意思（全体）



3. 住居状況と住まいに関する意識

(1) 住まいの形態

問7 お住まいの形態についておうかがいします。

住居形態については、「持ち家（一戸建て）」が49.0%、「持ち家（集合住宅）」が12.8%で“持ち家率”は61.8%となります。また、「民間賃貸住宅（鉄筋又は鉄骨造賃貸住宅）」が13.5%、「民間賃貸住宅（木造・木造モルタルアパート）」と「民間賃貸住宅（一戸建て）」がそれぞれ5.1%となっており、民間の賃貸住宅への入居者が全体の2割強（23.7%）となっています。

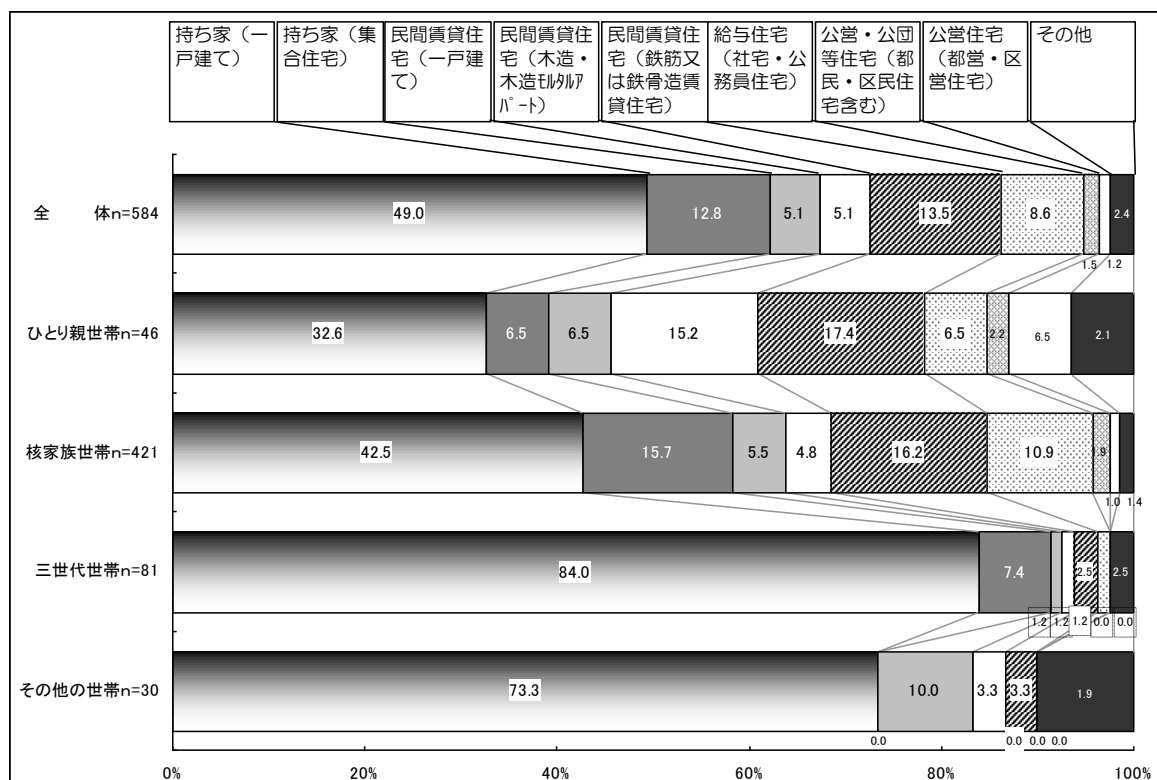
このほか、「給与住宅（社宅・公務員住宅）」が8.6%、「公営・公団等住宅（都民・区民住宅を含む）」が1.5%、「公営住宅（都営・区営住宅）」が1.2%となっています。

世帯類型別の住居の状況を全体結果との差で見ると、三世帯同居世帯では「持ち家」の割合が高く、一方、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅」の割合が高い傾向にあります。

図表 97 住居形態（全体）



図表 98 住居形態（世帯類型別）

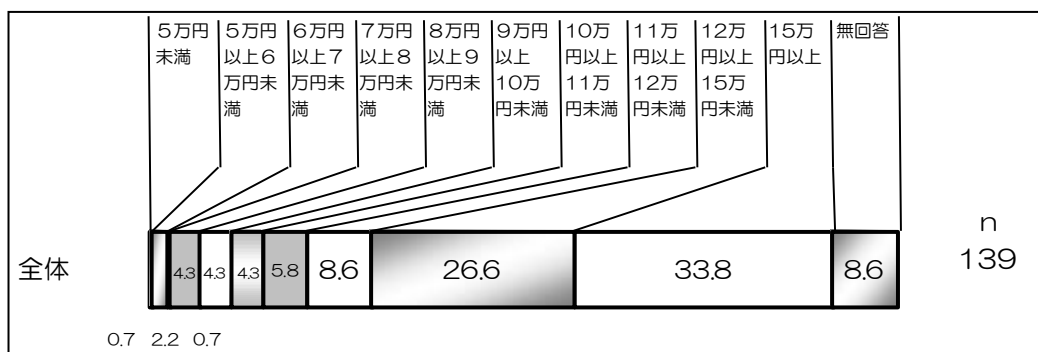


(2) 家賃

問7付問1 問7で3. ~5. 「民間賃貸住宅」と回答した方におうかがいします。家賃はおいくらですか。（管理費を含む）

民間賃貸住宅に居住している人に月あたりの家賃をたずねた結果では、「15万円以上」が33.8%、「12万円以上15万円未満」が26.6%と、家賃12万円以上が6割以上を占めます。

図表 99 月あたりの家賃について（全体）

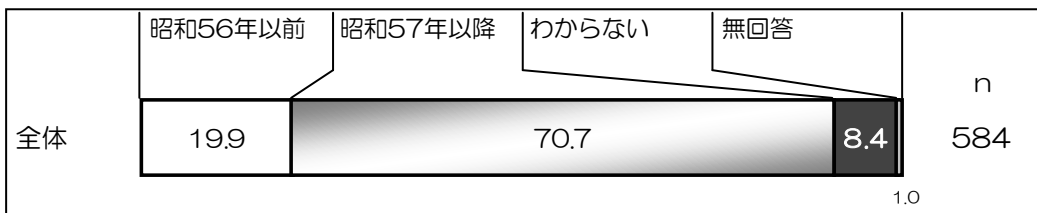


(3) 住まいの建設時期

問7付問2 現在のお住まいの建設時期はいつですか。

住居の建設時期については、「昭和57年以降」が70.7%、「昭和56年以前」が19.9%、「わからない」が8.4%となっています。

図表 100 住居の建設時期（全体）

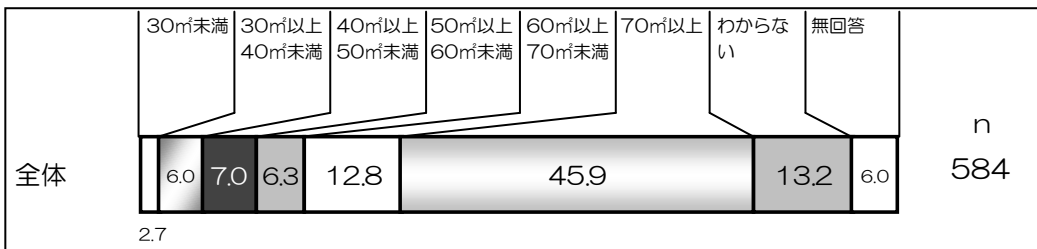


(4) 住まいの広さ

問7付問3 お住まいの広さはどのくらいですか。戸建住宅にお住まいの方は延べ床面積で、マンション等にお住まいの方は占有面積でお答えください。

住居の広さについては、「70㎡以上」(45.9%)、「60㎡以上70㎡未満」(12.8%)、「40㎡以上50㎡未満」(7.0%)、「50㎡以上60㎡未満」(6.3%)、「30㎡以上40㎡未満」(6.0%)、「30㎡未満」(2.7%)の順となっています。また、「わからない」が13.2%という結果です。

図表 101 住居の広さ（全体）

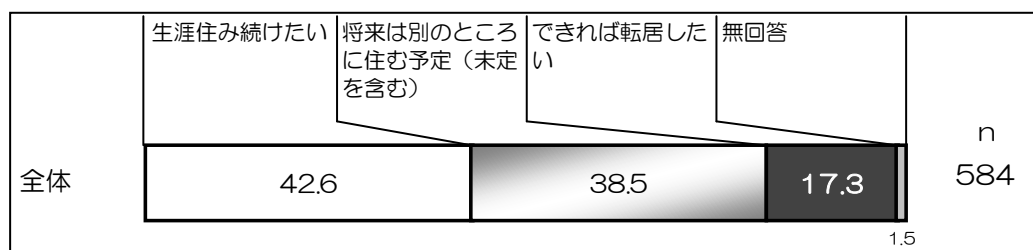


(5) 現在の住まいに対する永住意識

問 8 現在のお住まいに対するお考えをお聞かせください。

現在の住居に対する考えについては、「生涯住み続けたい」と“永住志向派”が4割強（42.6%）を占める一方、「将来は別のところに住む予定（未定を含む）」と具体性をもって転居を計画している人が38.5%と4割弱を占める結果となっています。また、「できれば転居したい」が17.3%であり、両者を合わせると“転居派”が5割強に上ります。

図表 102 現在の住居に対する考え（全体）



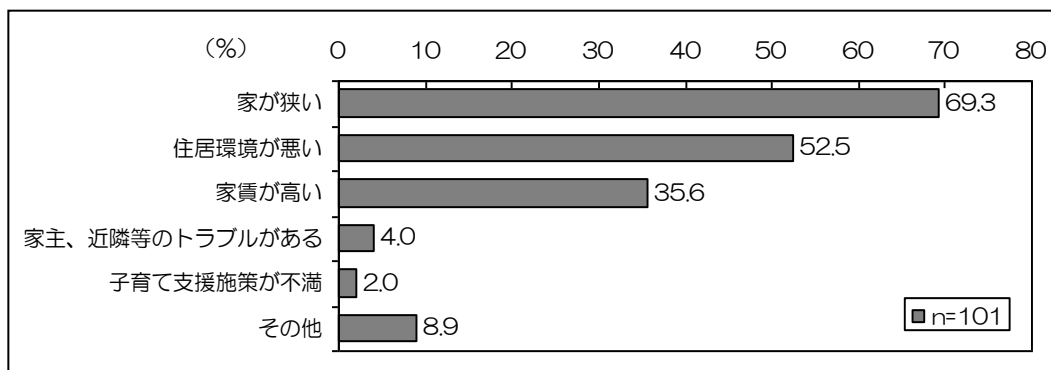
(6) 転居したい理由

問8付問1	問8で「3. できれば転居したい」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。【複数回答】
-------	---

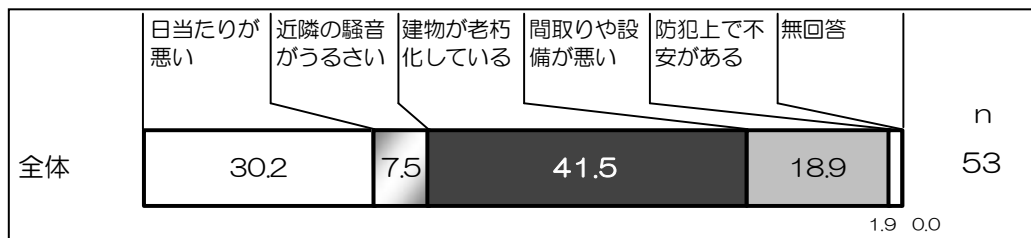
転居したい理由については、「家が狭い」ことを挙げる人が多く全体の69.3%に及ぶほか、「住居環境が悪い」が52.5%、「家賃が高い」が35.6%などが続いており、住居費の負担感以上に居住面積の狭さが大きな要因となっていることがうかがえます。

また、転居理由の第2位に挙げられている「住居環境が悪い」点について、具体的な内容をたずねた結果では、「建物が老朽化している」が41.5%、「日当たりが悪い」が30.2%、「間取りや設備が悪い」が18.9%などとなっています。

図表 103 転居したい理由（複数回答／全体）



図表 104 住居環境の悪さについて（全体）

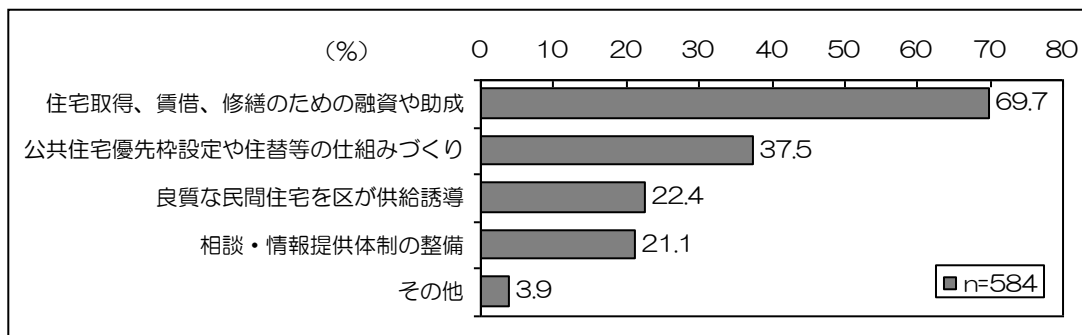


(7) 住宅施策に関するニーズ

問 8 付問 2 子育て中の世帯等が住みやすい環境を整えるためには、どのような住宅施策を進めていくべきだと思いますか。【複数回答】

子育て世帯が住みやすい住宅施策推進については、「住宅取得、賃借、修繕のための融資や助成」に対して69.7%の人がその充実を求めているほか、「公共住宅優先枠設定や住替等の仕組みづくり」が37.5%、「良質な民間住宅を区が供給誘導」が22.4%、「相談・情報提供体制の整備」が21.1%となっています。

図表 105 子育て世帯が住みやすい住宅施策推進について（複数回答／全体）



4. 一時保育(トワイライト事業)の利用ニーズ

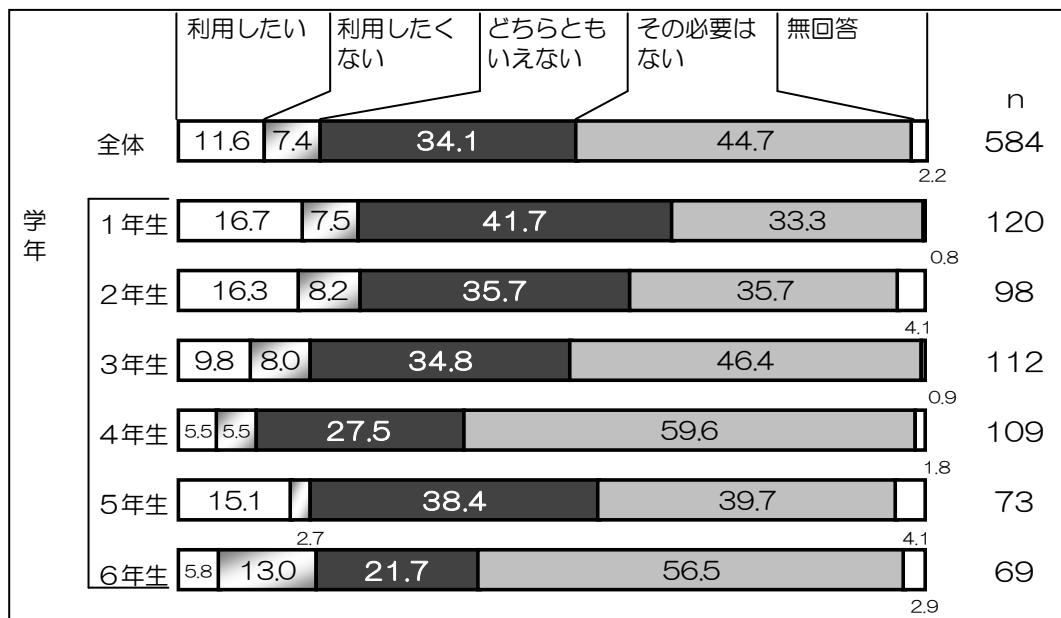
(1) 一時保育(トワイライト事業)の希望

問10	保護者が残業などで帰宅が遅くなる予定があり、夜間の養育が困難となる場合に、夕方から夜にかけての一時保育(トワイライト事業)の希望はありますか。
-----	---

トワイライト事業の利用希望については、「その必要はない」が44.7%で最も多く、次いで、「どちらともいえない」(34.1%)、「利用したい」(11.6%)、「利用したくない」(7.4%)の順となっています。

学年別でみると、1年生と2年生において「利用したい」との回答がやや多くみられます。

図表 106 トワイライト事業の利用希望(全体)



(2) 一時保育（トワイライト事業）利用の希望頻度

問10付問1	問10で「1. 利用したい」と回答した方におうかがいします。希望する利用頻度は。
--------	--



利用希望回数については、「月に1～2回程度」が30.9%で最も多く、次いで、「年に10回未満」（29.4%）、「月に3～4回程度」（20.6%）、「月に5回以上」（7.4%）の順となっています。

図表 107 利用希望回数（全体／学年別）

	年に10回未満	月に1～2回程度	月に3～4回程度	月に5回以上	無回答	n
全体	29.4	30.9	20.6	7.4	11.8	68

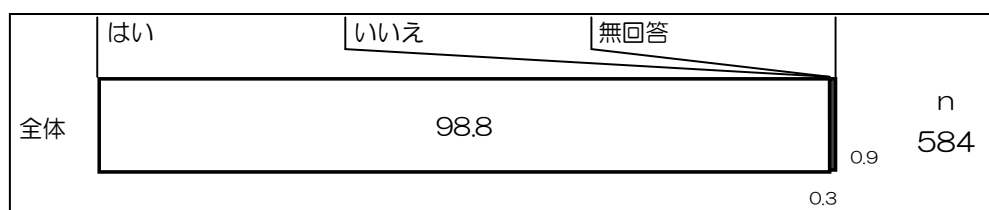
5. 調査対象児童の家庭や地域での様子

(1) 児童との会話

問11 調査対象のお子さんと家族との会話はありますか。

子どもと家族の会話の有無については、「はい」が98.8%、「いいえ」が0.3%となっています。

図表 108 子どもと家族の会話の有無（全体）



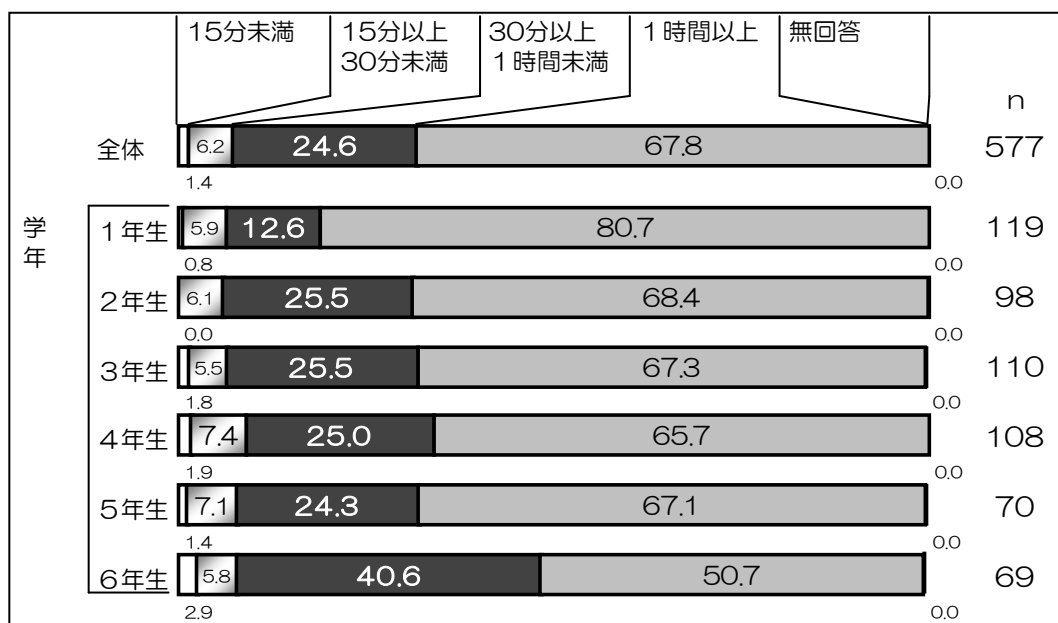
(2) 1日の会話の平均時間

問11付問1 問11で「1. はい」と回答した方におうかがいします。調査対象のお子さんと家族との会話の1日の平均時間はどれくらいですか。

子どもと家族の会話の1日の平均時間については、「1時間以上」が67.8%で最も多く、次いで、「30分以上1時間未満」(24.6%)、「15分以上30分未満」(6.2%)、「15分未満」(1.4%)の順となっています。

学年別にみると、「1時間以上」が1年生では80.7%であるのに対し、6年生では50.7%であるなど、学年が上がるにつれて、会話の時間が少なくなる傾向がみられます。

図表 109 子どもと家族の会話の1日の平均時間（全体／学年別）



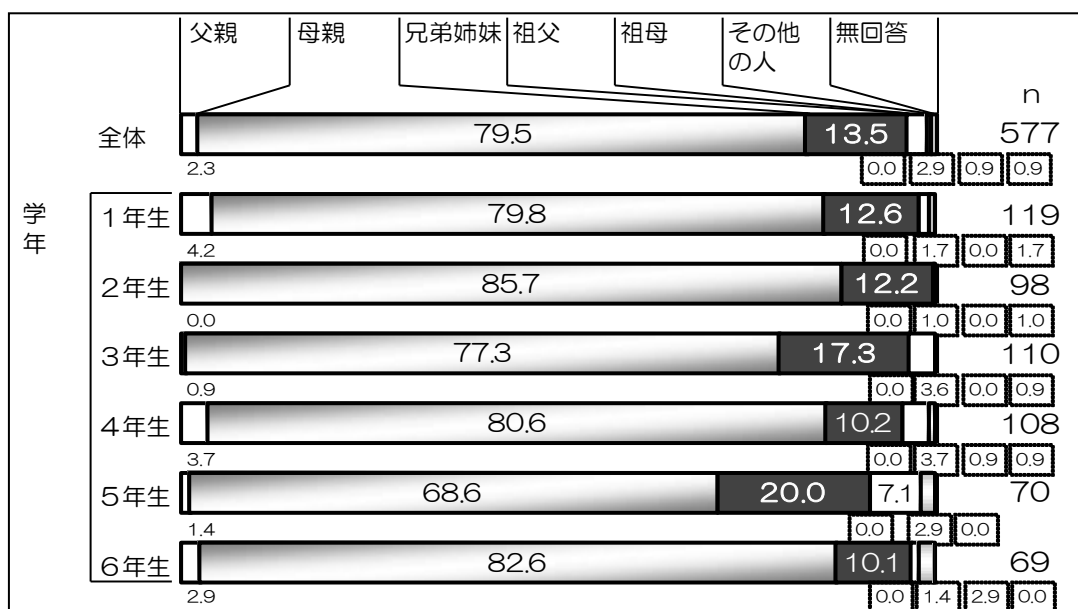
(3) 一番会話をする相手

問11付問2 問11で「1. はい」と回答した方におうかがいします。家族で1番多く調査対象のお子さんと会話するのは誰だと思いますか。



家族の中で一番多く子どもと会話をする人については、「母親」が79.5%で最も多く、次いで、「兄弟姉妹」(13.5%)、「祖母」(2.9%)、「父親」(2.3%)、「その他の人」(0.9%)の順となっています。

図表 110 家族の中で一番多く子どもと会話をする人 (全体/学年別)

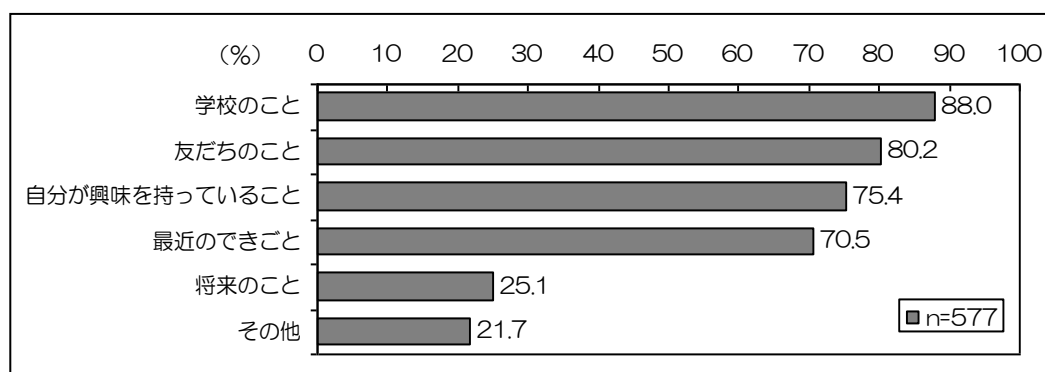


(4) 会話の内容

問11付問3 問11で「1. はい」と回答した方におうかがいします。どんなことを話しますか。【複数回答】

問11で「1. はい」と回答した人の会話の内容については、「学校のこと」(88.0%)が第1位となっており、以下、「友だちのこと」(80.2%)、「自分が興味を持っていること」(75.4%)、「最近のできごと」(70.5%)、「将来のこと」(25.1%)、「その他」(21.7%)の順となっています。

図表 111 会話の内容 (複数回答/全体)

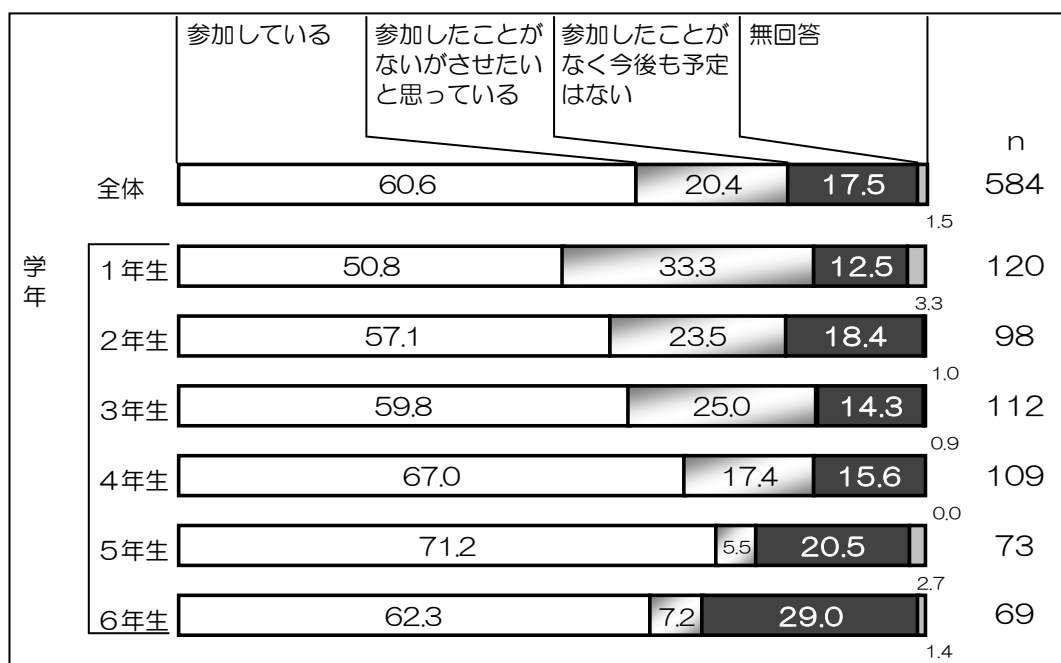


(5) 地域活動やグループ活動などへの参加状況

問12 調査対象のお子さんは、地域活動やグループ活動などに参加していますか。

地域活動やグループ活動については、「参加している」が60.6%で最も多く、以下、「参加したことがないがさせたいと思っている」(20.4%)、「参加したことがなく今後も予定はない」(17.5%)の順となっています。

図表 112 地域活動やグループ活動について (全体/学年別)

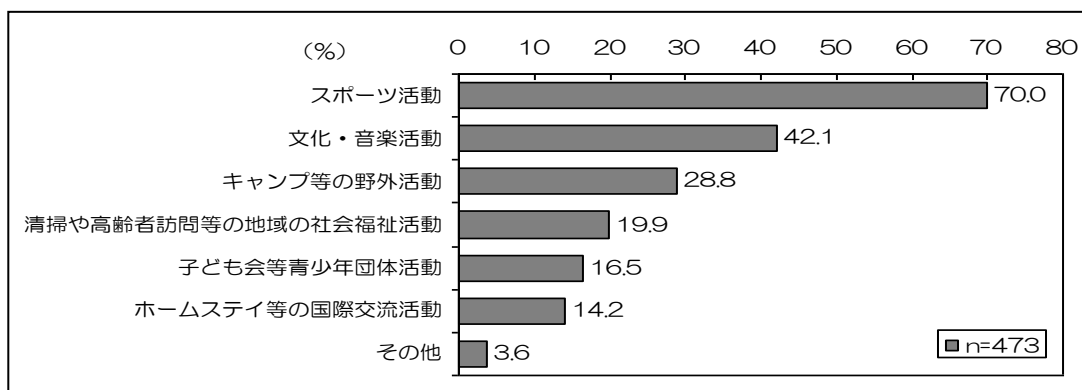


(6) 参加しているまたは参加させたい地域活動やグループ活動

問12付問 1	問12で「1. 参加している」「2. 参加したことがないが、今後参加させたいと思っている」と回答した方におうかがいします。調査の対象のお子さんが参加している、もしくは今後参加させたい地域活動やグループ活動は以下のどれですか。【複数回答】
---------	--

参加させたい地域活動やグループ活動については、「スポーツ活動」(70.0%)が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「文化・音楽活動」(42.1%)、「キャンプ等の野外活動」(28.8%)、「清掃や高齢者訪問等の地域の社会福祉活動」(19.9%)、「子ども会等青少年団体活動」(16.5%)、「ホームステイ等の国際交流活動」(14.2%)、「その他」(3.6%)の順となっています。

図表 113 参加させたい地域活動やグループ活動 (複数回答/全体)



(7) 地域活動やグループ活動に参加しない理由

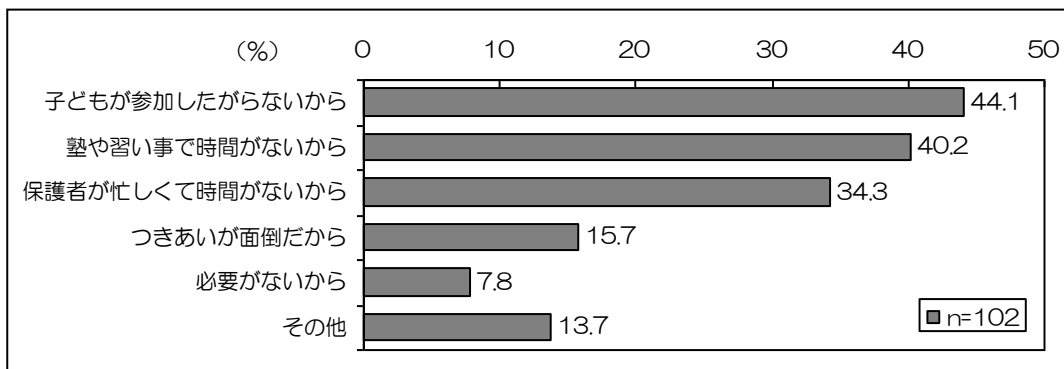
問12付問2 問12で「3. 参加したことがなく、今後も予定はない」と回答した方におうかがいします。参加しない理由は何ですか。【複数回答】

参加しない理由については、「子どもが参加したからがないから」(44.1%)が第1位、以下、「塾や習い事で時間がないから」(40.2%)、「保護者が忙しくて時間がないから」(34.3%)の順となっており、子どもの参加意向がないことに加え、時間的な制約を理由とする意見が上位を占めています。

その他では、「つきあいが面倒だから」(15.7%)、「必要がないから」(7.8%)などの順となっています。なお、「その他」は13.7%でした。

これを学年別の結果でみると、高学年になるほど「塾や習い事で時間がない」割合が高くなっています。

図表 114 参加しない理由 (複数回答/全体)



図表 115 参加しない理由 (複数回答/学年別)

	塾や習い事で時間がないから	子どもが参加したからがないから	保護者が忙しくて時間がないから	つきあいが面倒だから	必要がないから	その他	無回答
全体 n=102	40.2	44.1	34.3	15.7	7.8	13.7	2.0
1年生 n=15	20.0	40.0	46.7	20.0	13.3	26.7	
2年生 n=18	27.8	44.4	27.8	16.7		27.8	
3年生 n=16	37.5	62.5	37.5		6.3	6.3	
4年生 n=17	47.1	17.6	47.1	17.6		23.5	5.9
5年生 n=15	46.7	46.7	26.7	13.3	6.7		6.7
6年生 n=20	60.0	50.0	25.0	25.0	20.0		

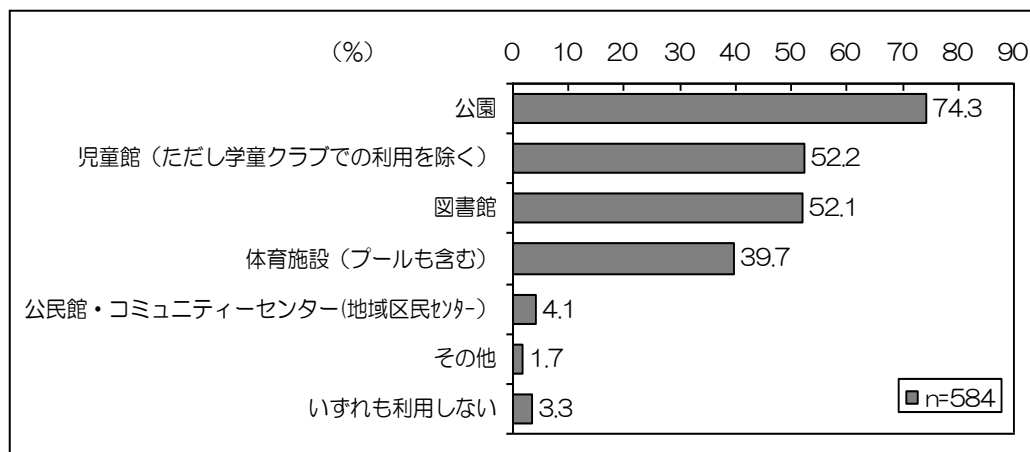
※学年別の数値のうち、「0.0%」は省略している。

(8) よく利用する公共施設

問13 調査対象のお子さんがよく利用する公共施設はどれですか。
【複数回答】

よく利用する公共施設については、「公園」(74.3%) が他を大きく引き離して第1となっており、以下、「児童館(ただし学童クラブでの利用を除く)」(52.2%)、「図書館」(52.1%)、「体育施設(プールも含む)」(39.7%)、「公民館・コミュニティーセンター(地域区民センター)」(4.1%)などの順となっています。
なお、「いずれも利用しない」は3.3%、「その他」は1.7%でした。

図表 116 よく利用する公共施設(複数回答/全体)



(9) 放課後の過ごし方

問14

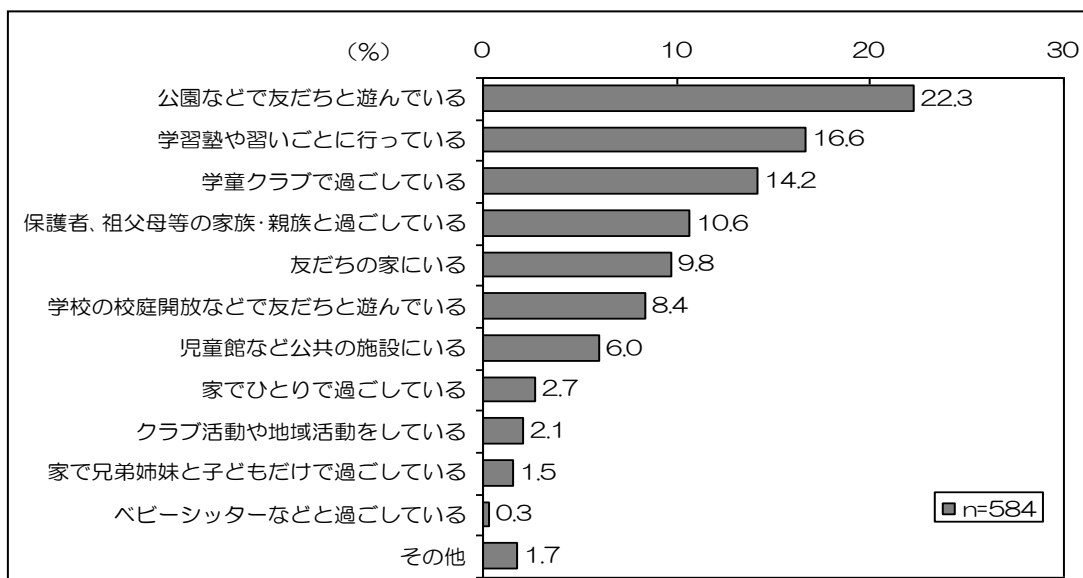
調査の対象のお子さんが平日と土曜日の放課後の日常的な過ごし方で一番多いものはどれですか。

■ (1) 下校～夕方 (平日)

放課後の過ごし方：平日-下校～夕方については、「公園などで友だちと遊んでいる」(22.3%)が第1位となっており、以下、「学習塾や習いごとに行っている」(16.6%)、「学童クラブで過ごしている」(14.2%)、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」(10.6%)、「友だちの家にいる」(9.8%)、「学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる」(8.4%)、「児童館など公共の施設にいる」(6.0%)、「家でひとりで過ごしている」(2.7%)、「クラブ活動や地域活動をしている」(2.1%)、「その他」(1.7%)、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている」(1.5%)、「ベビーシッターなどと過ごしている」(0.3%)の順となっています。

学年別にみると、1年生では「学童クラブで過ごしている」(27.5%)、2年生・4年生・5年生・6年生では「公園などで友だちと遊んでいる」(26.5%・23.9%・31.5%・21.7%)、3年生では「学習塾や習いごとに行っている」(20.5%)がそれぞれ第1位となっており、全学年を通じて公園の利用は多くなっていますが、低学年では、学童クラブの利用、高学年では、校庭開放の利用が多い傾向がみられます。

図表 117 放課後の過ごし方：平日-下校～夕方



図表 118 放課後の過ごし方：平日-下校～夕方（全体／学年別）

	学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる	学童クラブで過ごしている	保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている	ベビーシッターなどと過ごしている	家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている	家でひとりで過ごしている	友だちの家にいる	公園などで友だちと遊んでいる	児童館など公共の施設にいる	クラブ活動や地域活動をしている	学習塾や習いごとに行っている	その他
全体 n=584	8.4	14.2	10.6	0.3	1.5	2.7	9.8	22.3	6.0	2.1	16.6	1.7
1年生 n=120	3.3	27.5	16.7		0.8	0.8	3.3	14.2	11.7		15.8	1.7
2年生 n=98	4.1	23.5	8.2	1.0	2.0	1.0	8.2	26.5	5.1	1.0	14.3	3.1
3年生 n=112	2.7	17.9	8.0	0.9	0.9	0.9	13.4	18.8	6.3	5.4	20.5	1.8
4年生 n=109	11.9	6.4	8.3		0.9	1.8	17.4	23.9	3.7	4.6	17.4	0.9
5年生 n=73	23.3		6.8		1.4	4.1	4.1	31.5	4.1		15.1	1.4
6年生 n=69	11.6		15.9		4.3	11.6	11.6	21.7	2.9		14.5	1.4

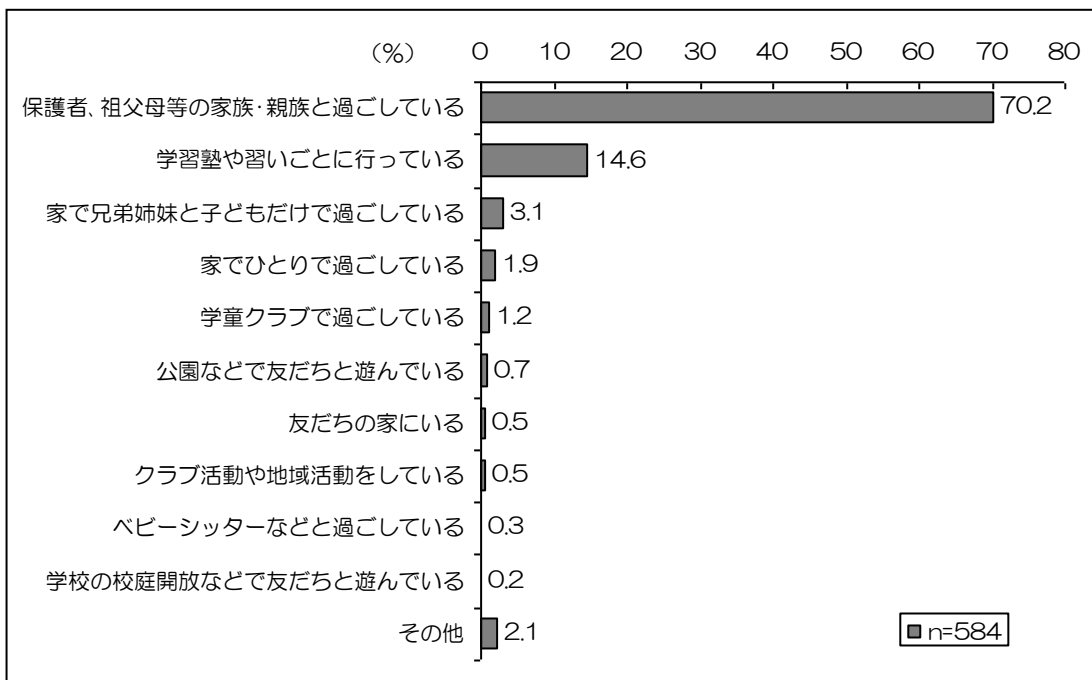
※学年別結果のうち、「0.0%」の表記は省略（空欄）している。

■ (2) 夕方以降 (平日)

放課後の過ごし方：平日-夕方以降については、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」(70.2%) が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「学習塾や習いごとに行っている」(14.6%)、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている」(3.1%)、「その他」(2.1%)、「家でひとりで過ごしている」(1.9%)、「学童クラブで過ごしている」(1.2%)、「公園などで友だちと遊んでいる」(0.7%)、「友だちの家にいる」・「クラブ活動や地域活動をしている」(ともに0.5%)、「ベビーシッターなどと過ごしている」(0.3%)、「学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる」(0.2%)の順となっています。

学年別にみると、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」との回答は、学年が上がるほど少なくなり、「学習塾や習いごとに行っている」との回答は学年が上がるほど多くなる傾向がみられます。

図表 119 放課後の過ごし方：平日-夕方以降



図表 120 放課後の過ごし方：平日-夕方以降（全体／学年別）

		学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる	学童クラブで過ごしている	保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている	ベビーシッターなどと過ごしている	家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている	家でひとりで過ごしている	友だちの家にいる	公園などで友だちと遊んでいる	児童館など公共の施設にいる	クラブ活動や地域活動をしている	学習塾や習いごとに行っている	その他
全体	n=584	0.2	1.2	70.2	0.3	3.1	1.9	0.5	0.7	0.0	0.5	14.6	2.1
1年生	n=120		2.5	79.2		4.2	0.8					2.5	5.8
2年生	n=98		4.1	77.6		6.1		1.0	1.0			8.2	1.0
3年生	n=112			76.8	1.8	1.8	2.7				0.9	9.8	
4年生	n=109			69.7		2.8	0.9		0.9		1.8	18.3	2.8
5年生	n=73	1.4		54.8			4.1	1.4	2.7			24.7	
6年生	n=69			49.3		2.9	4.3	1.4				36.2	1.4

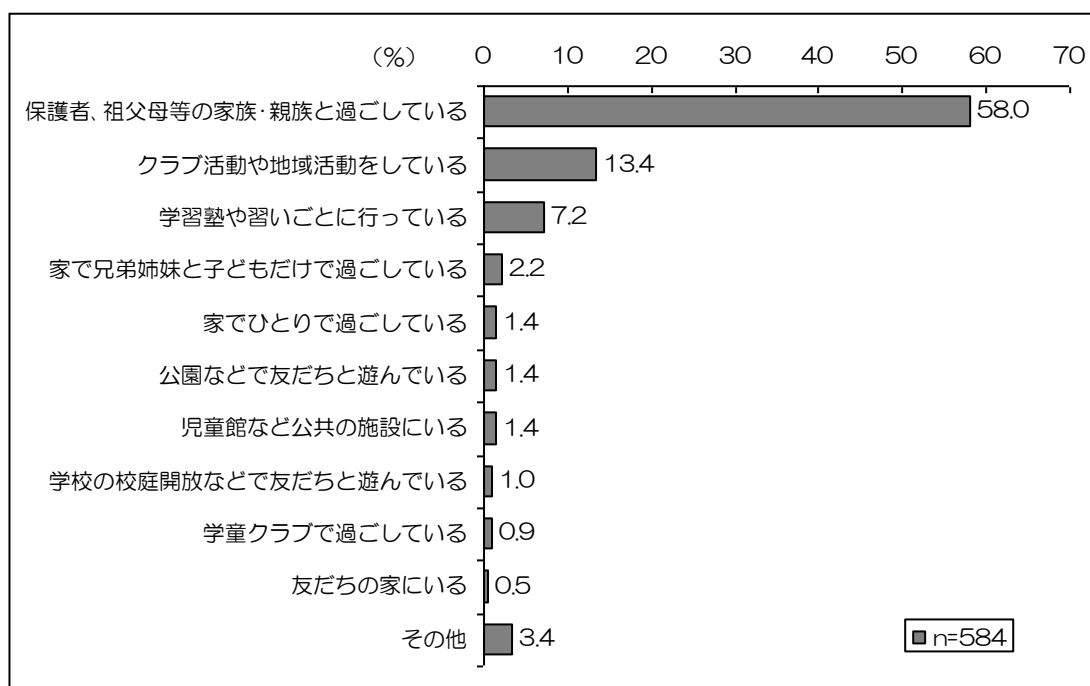
※学年別結果のうち、「0.0%」の表記は省略（空欄）している。

■ (3) 午前中 (土曜日)

放課後の過ごし方：土曜日-午前中については、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」(58.0%) が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「クラブ活動や地域活動をしている」(13.4%)、「学習塾や習いごとに行っている」(7.2%)、「その他」(3.4%)、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている」(2.2%)、「家でひとりで過ごしている」・「公園などで友だちと遊んでいる」・「児童館など公共の施設にいる」(ともに1.4%)、「学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる」(1.0%)、「学童クラブで過ごしている」(0.9%)、「友だちの家にいる」(0.5%) の順となっています。

学年別にみると、全学年で「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」が第1位となっていますが、5年生・6年生では5割未満となるなど高学年ではやや少なくなり、「クラブ活動や地域活動をしている」との回答が他の学年に比べ多い傾向がみられます。

図表 121 放課後の過ごし方：土曜日-午前中



図表 122 放課後の過ごし方：土曜日-午前中（全体／学年別）

		学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる	学童クラブで過ごしている	保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている	ベビーシッターなどと過ごしている	家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている	家でひとりで過ごしている	友だちの家にいる	公園などで友だちと遊んでいる	児童館など公共の施設にいる	クラブ活動や地域活動をしている	学習塾や習いごとに行っている	その他
全体	n=584	1.0	0.9	58.0	0.0	2.2	1.4	0.5	1.4	1.4	13.4	7.2	3.4
1年生	n=120	2.5	1.7	68.3		2.5		0.8	1.7	1.7	4.2	6.7	2.5
2年生	n=98	1.0		63.3		4.1			2.0	4.1	7.1	4.1	4.1
3年生	n=112	0.9	1.8	56.3		1.8	0.9		2.7	0.9	15.2	8.9	2.7
4年生	n=109		0.9	56.9		2.8	1.8		0.9		17.4	7.3	5.5
5年生	n=73	1.4		45.2		0.0	2.7	2.7			23.3	6.8	2.7
6年生	n=69			49.3		1.4	4.3			1.4	18.8	10.1	2.9

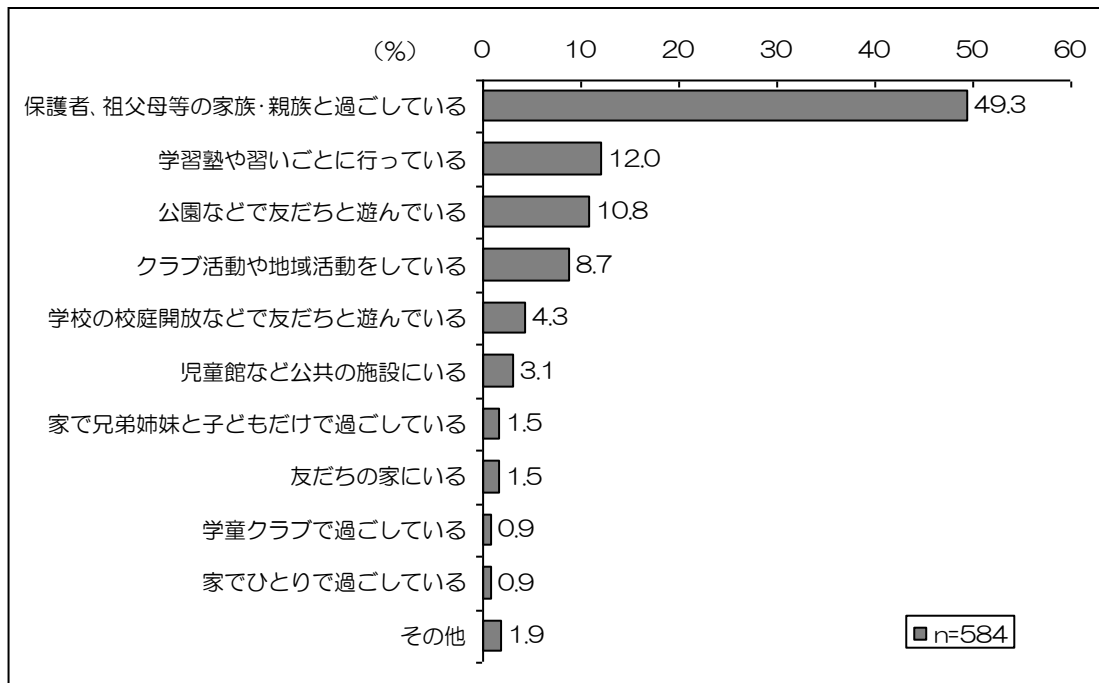
※学年別結果のうち、「0.0%」の表記は省略（空欄）している。

■ (4) 下校～夕方（土曜日）

放課後の過ごし方：土曜日-下校～夕方については、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」（49.3%）が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「学習塾や習いごとに行っている」（12.0%）、「公園などで友達と遊んでいる」（10.8%）、「クラブ活動や地域活動をしている」（8.7%）、「学校の校庭開放などで友達と遊んでいる」（4.3%）、「児童館など公共の施設にいる」（3.1%）、「その他」（1.9%）、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている」・「友だちの家にいる」（ともに1.5%）、「学童クラブで過ごしている」・「家でひとりで過ごしている」（ともに0.9%）の順となっています。

学年別にみると、全学年で「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」が第1位となっていますが、5年生では「クラブ活動や地域活動をしている」が23.3%、「学習塾や習いごとに行っている」が26.1%とそれぞれ2割台を占めるなど、高学年では過ごし方が多様であることがうかがえます。

図表 123 放課後の過ごし方：土曜日-下校～夕方



図表 124 放課後の過ごし方：土曜日-下校～夕方（全体／学年別）

		学校の校庭開放などで友だちと遊んでいる	学童クラブで過ごしている	保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている	ベビーシッターなどと過ごしている	家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている	家でひとりで過ごしている	友だちの家にいる	公園などで友だちと遊んでいる	児童館など公共の施設にいる	クラブ活動や地域活動をしている	学習塾や習いごとに行っている	その他
全体	n=584	4.3	0.9	49.3	0.0	1.5	0.9	1.5	10.8	3.1	8.7	12.0	1.9
1年生	n=120	1.7	2.5	62.5					6.7	5.8	5.8	7.5	1.7
2年生	n=98	4.1	1.0	55.1		1.0		1.0	14.3	5.1	6.1	6.1	2.0
3年生	n=112	6.3	0.9	53.6		4.5		1.8	9.8	1.8	3.6	11.6	1.8
4年生	n=109	10.1		44.0		1.8	2.8	3.7	10.1	0.9	7.3	11.9	1.8
5年生	n=73	1.4		30.1				1.4	17.8	2.7	23.3	15.1	1.4
6年生	n=69			37.7		1.4	2.9	1.4	8.7	1.4	13.0	26.1	2.9

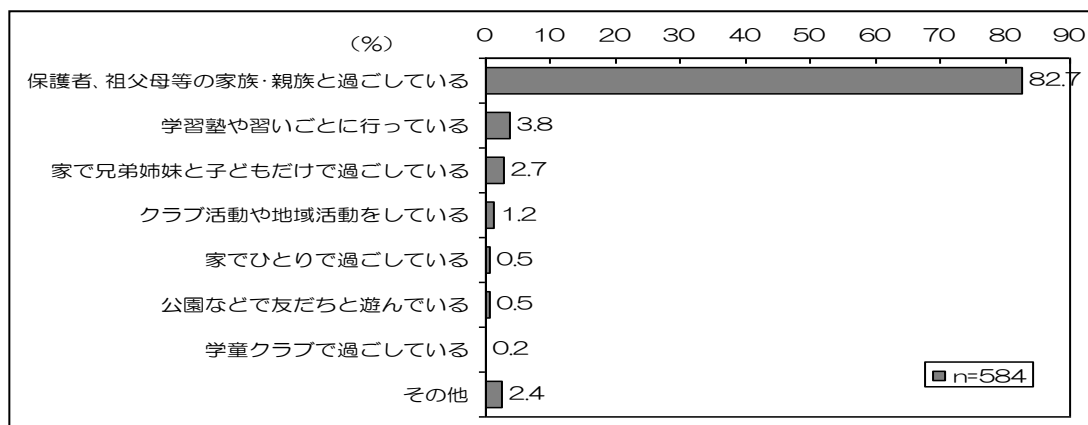
※学年別結果のうち、「0.0%」の表記は省略（空欄）している。

■ (5) 夕方以降 (土曜日)

放課後の過ごし方：土曜日-夕方以降については、「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」(82.7%) が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「学習塾や習いごとに行っている」(3.8%)、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている」(2.7%)、「その他」(2.4%)、「クラブ活動や地域活動をしている」(1.2%)、「家でひとりで過ごしている」・「公園などで友だちと遊んでいる」(ともに0.5%)、「学童クラブで過ごしている」(0.2%) の順となっています。

学年別にみると、全学年で「保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている」が第1位となっていますが、6年生では「学習塾や習いごとに行っている」が14.5%と、全体(3.8%)を大きく上回っています。

図表 125 放課後の過ごし方：土曜日-夕方以降



図表 126 放課後の過ごし方：土曜日-夕方以降 (全体／学年別)

	保護者、祖父母等の家族・親族と過ごしている	学習塾や習いごとに行っている	家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごしている	クラブ活動や地域活動をしている	家でひとりで過ごしている	公園などで友だちと遊んでいる	学童クラブで過ごしている	その他
全体 n=584	82.7	3.8	2.7	1.2	0.5	0.5	0.2	2.4
1年生 n=120	84.2		3.3	0.8		0.8		5.0
2年生 n=98	84.7	3.1	5.1			1.0	1.0	2.0
3年生 n=112	84.8	4.5	1.8	1.8				0.9
4年生 n=109	85.3	0.9	3.7	1.8				1.8
5年生 n=73	79.5	4.1		2.7	1.4	1.4		1.4
6年生 n=69	72.5	14.5	1.4		2.9			2.9

※学年別結果のうち、「0.0%」の表記は省略(空欄)している。また、回答がなかった項目についても省略している。

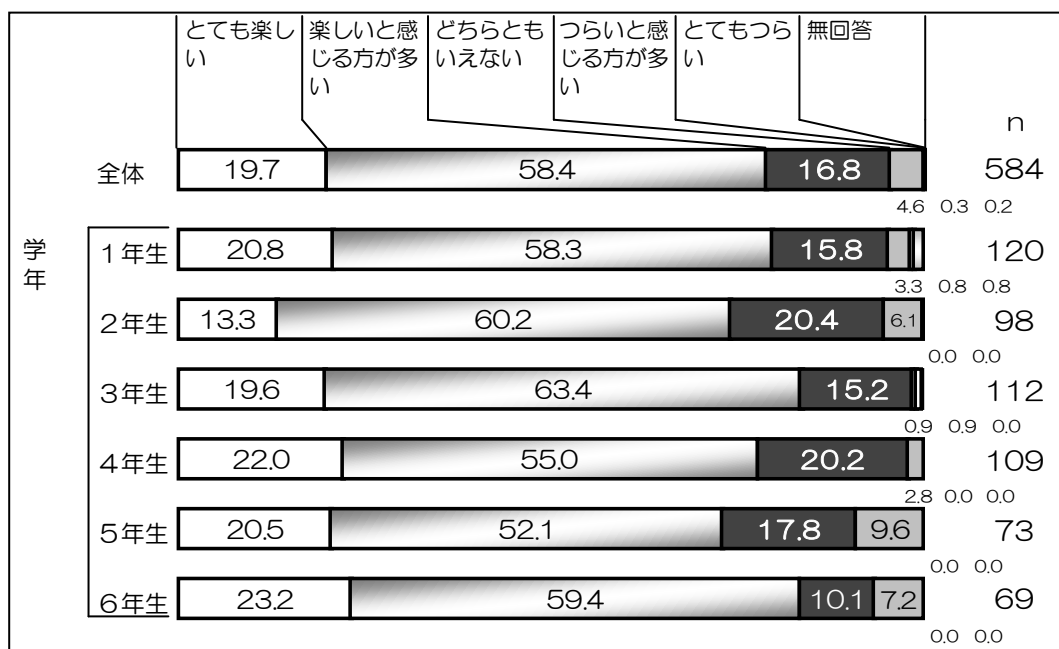
6. 子育てについて

(1) 子育てに関する感想

問15 子育てについてどのように感じていますか。

子育てについては、「楽しいと感じる方が多い」が58.4%で最も多く、これに、「とても楽しい」(19.7%)を合わせた“楽しい”と感じている人は78.1%、一方、“つらい”と感じている人は4.9%（「つらいと感じる方が多い」4.6%と「とてもつらい」0.3%の合計）となっています。なお、「どちらともいえない」は16.8%でした。

図表 127 子育てについて（全体／学年別）



(2) 子育てでよかったこと

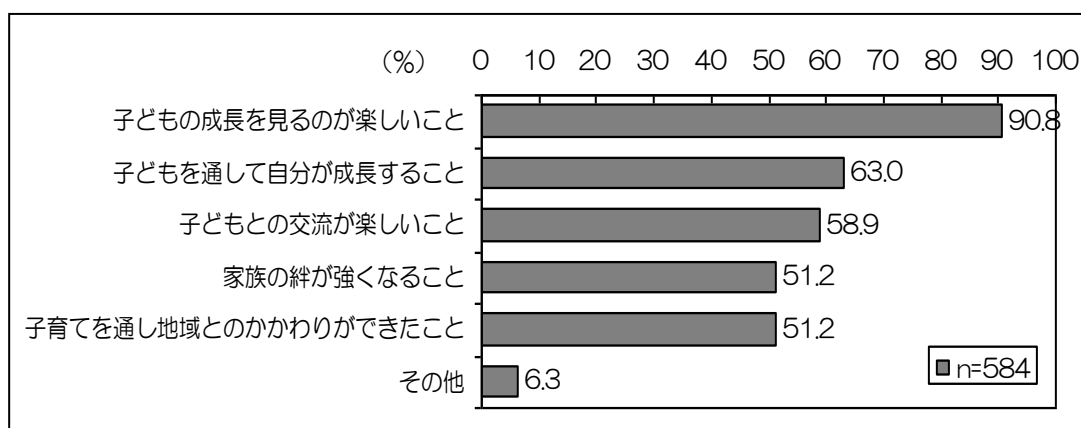
問16

子育てを通じてよかったと思うのはどのようなことですか。

【複数回答】

子育てを通じ、よかったと思うことについては、「子どもの成長を見るのが楽しいこと」(90.8%) が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「子どもを通して自分が成長すること」(63.0%)、「子どもとの交流が楽しいこと」(58.9%)、「家族の絆が強くなること」・「子育てを通じ地域とのかかわりができたこと」(ともに51.2%)、「その他」(6.3%)の順となっています。

図表 128 子育てを通じ、よかったと思うこと (複数回答/全体)

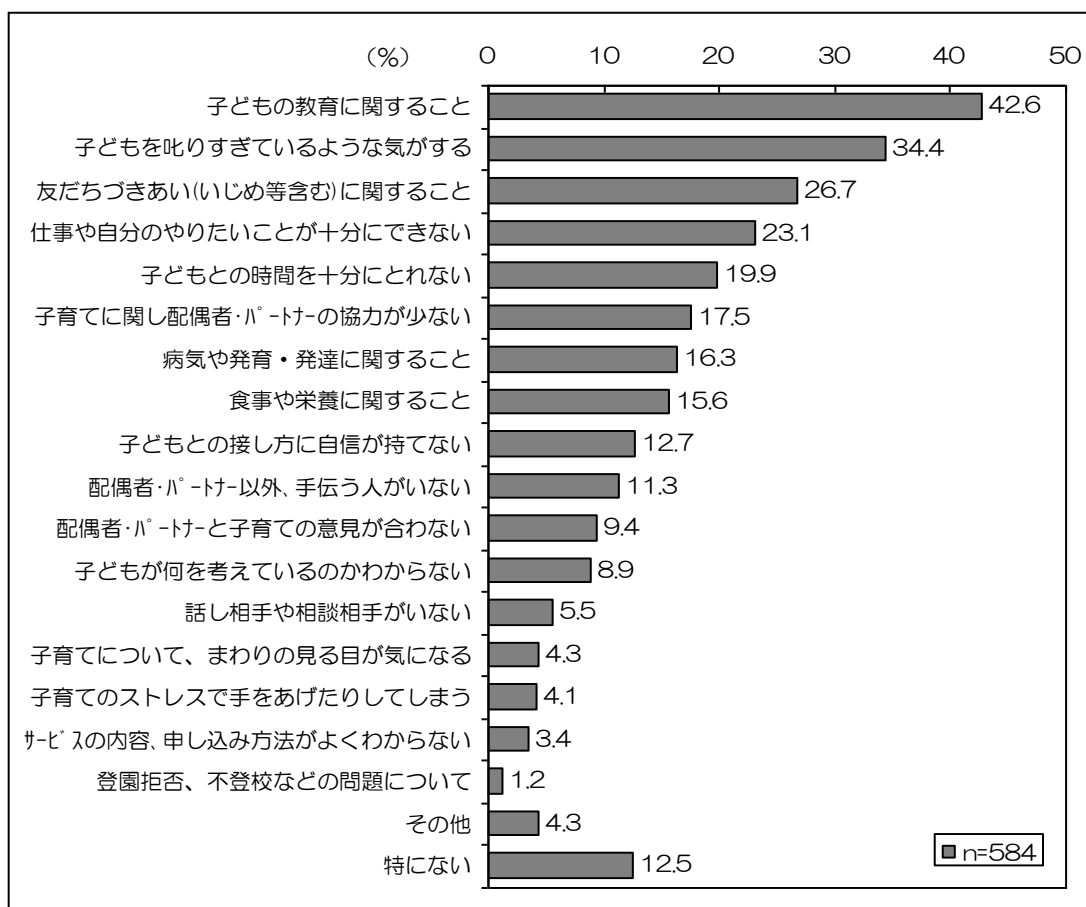


(3) 子育てで悩んでいること

問17 子育てに関して悩んでいることはありますか。【複数回答】

子育てで悩んでいることや気になることについては、「子どもの教育に関すること」(42.6%)が第1位となっており、以下、「子どもを叱りすぎているような気がする」(34.4%)、「友だちづきあい(いじめ等含む)に関すること」(26.7%)、「仕事や自分のやりたいことが十分にできない」(23.1%)、「子どもとの時間を十分にとれない」(19.9%)、「子育てに関し配偶者・パートナーの協力が少ない」(17.5%)、「病気や発育・発達に関すること」(16.3%)、「食事や栄養に関すること」(15.6%)、「子どもとの接し方に自信が持てない」(12.7%)、「配偶者・パートナー以外、手伝う人がいない」(11.3%)、などの順となっています。なお、「特にない」との回答が12.5%となっていることから、これらの回答者を除く全体の87.5%が何らかの悩みなどを抱えている状況です。

図表 129 子育てで悩んでいることや気になること (複数回答/全体)



図表 130 子育てで悩んでいることや気になること（複数回答／学年別）

		病気や発育・発達に関すること	食事や栄養に関すること	子どもとの接し方に自信が持てない	子どもとの時間を十分にとれない	話し相手や相談相手がいない	仕事や自分のやりたいことが十分にできない	子どもの教育に関すること	友だちづきあい（いじめ等含む）に関すること	登園拒否、不登校などの問題について	子育てに関し配偶者・パートナーの協力が少ない
全体	n=584	16.3	15.6	12.7	19.9	5.5	23.1	42.6	26.7	1.2	17.5
1年生	n=120	17.5	17.5	19.2	18.3	7.5	30.0	27.5	30.8	1.7	17.5
2年生	n=98	16.3	14.3	12.2	19.4	3.1	31.6	44.9	32.7	1.0	17.3
3年生	n=112	16.1	17.9	10.7	16.1	5.4	17.0	40.2	24.1	0.9	17.9
4年生	n=109	18.3	10.1	11.0	23.9	2.8	22.0	48.6	23.9	0.0	11.0
5年生	n=73	15.1	19.2	8.2	23.3	9.6	21.9	56.2	19.2	4.1	26.0
6年生	n=69	11.6	14.5	11.6	20.3	5.8	10.1	47.8	29.0	0.0	18.8

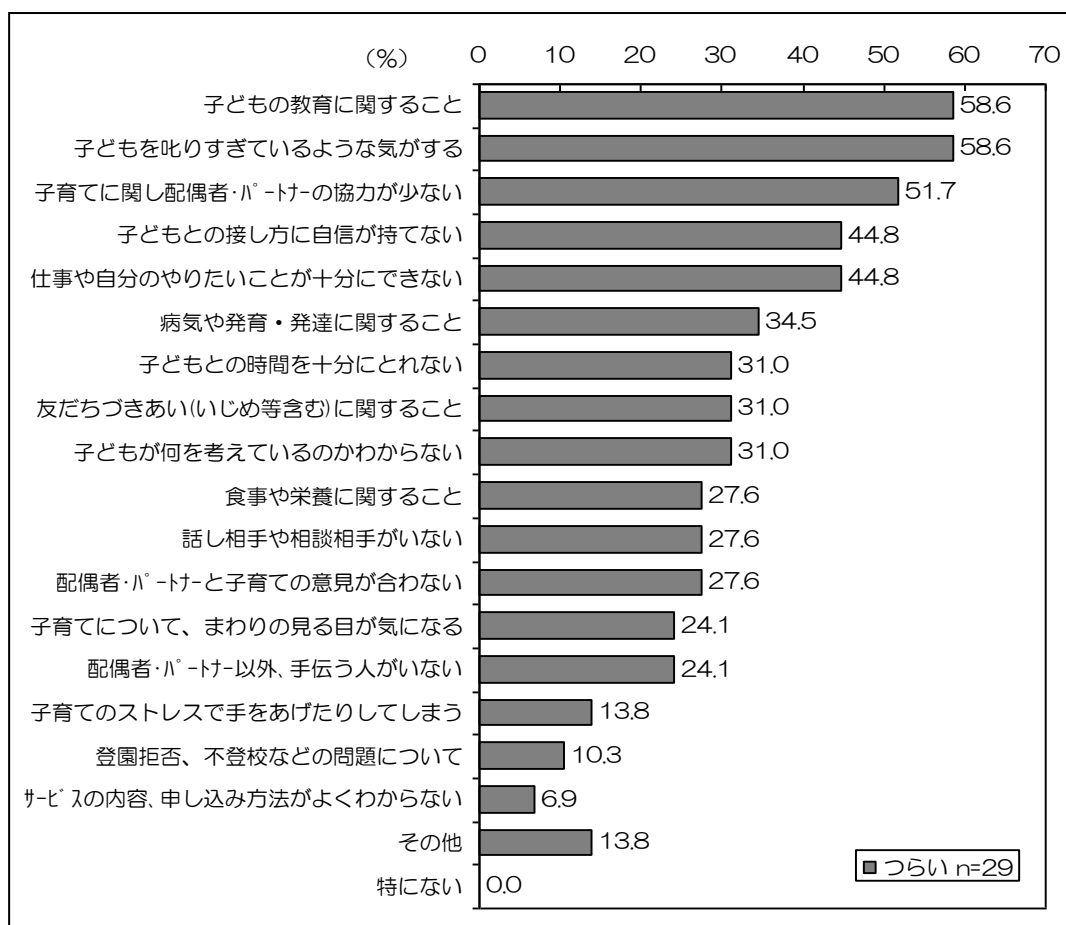
		配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない	子育てについて、まわりの見る目が気になる	配偶者・パートナー以外、手伝う人がいない	子どもを叱りすぎているような気がする	子どもが何を考えているのかわからない	子育てのストレスで手をあげたりしてしまふ	サービスの内容、申し込み方法がよくわからない	その他	特になし
全体	n=584	9.4	4.3	11.3	34.4	8.9	4.1	3.4	4.3	12.5
1年生	n=120	8.3	4.2	16.7	50.0	8.3	5.0	5.0	5.0	10.0
2年生	n=98	14.3	4.1	15.3	40.8	6.1	6.1	3.1	3.1	6.1
3年生	n=112	5.4	1.8	10.7	27.7	6.3	1.8	4.5	2.7	16.1
4年生	n=109	7.3	5.5	10.1	30.3	7.3	1.8	1.8	6.4	14.7
5年生	n=73	15.1	6.8	8.2	31.5	9.6	5.5	4.1	4.1	13.7
6年生	n=69	8.7	4.3	2.9	18.8	20.3	5.8	1.4	2.9	14.5

■ 子育てで悩んでいることや気になること：

子育てが辛いと感じていると回答した人が、子育ての上でどのような悩みや不安をもっているかをみると、「子どもの教育に関すること」・「子どもを叱りすぎているような気がする」（ともに58.6%）、「子育てに関し配偶者・パートナーの協力が少ない」（51.7%）が5割台で上位を占めます。

次いで、「子どもとの接し方に自信が持てない」・「仕事や自分のやりたいことが十分にできない」（ともに44.8%）、「病気や発育・発達に関すること」（34.5%）、「子どもとの時間を十分にとれない」・「友だちづきあい（いじめ等含む）に関すること」・「子どもが何を考えているのかわからない」（ともに31.0%）、「食事や栄養に関すること」・「話し相手や相談相手がいない」・「配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない」（ともに27.6%）、「子育てについて、まわりの見目が気になる」・「配偶者・パートナー以外、手伝う人がいない」（ともに24.1%）などの順となっています。

図表 131 子育てで悩んでいることや気になること：子育てが辛いと感じている人（複数回答／全体）



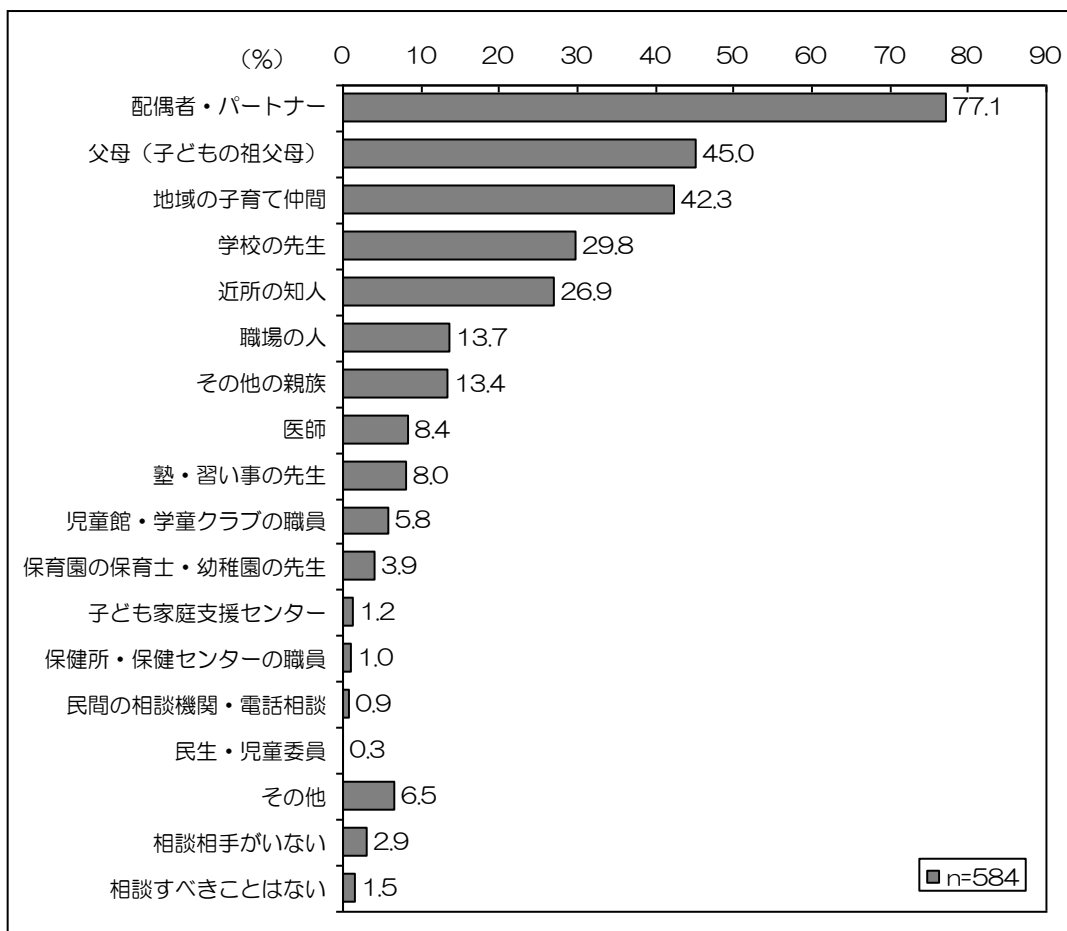
(4) 子育ての相談相手

問18 お子さんのことで何かわからないことや困ったこと、悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。【複数回答】

子育ての悩みや不安の相談相手については、「配偶者・パートナー」(77.1%)が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「父母(子どもの祖父母)」(45.0%)、「地域の子育て仲間」(42.3%)、「学校の先生」(29.8%)、「近所の知人」(26.9%)、「職場の人」(13.7%)、「その他の親族」(13.4%)などの順となっています。

一方、「相談相手がない」との回答は、全体の2.9%となっています。

図表 132 子育ての悩みや不安の相談相手 (複数回答/全体)



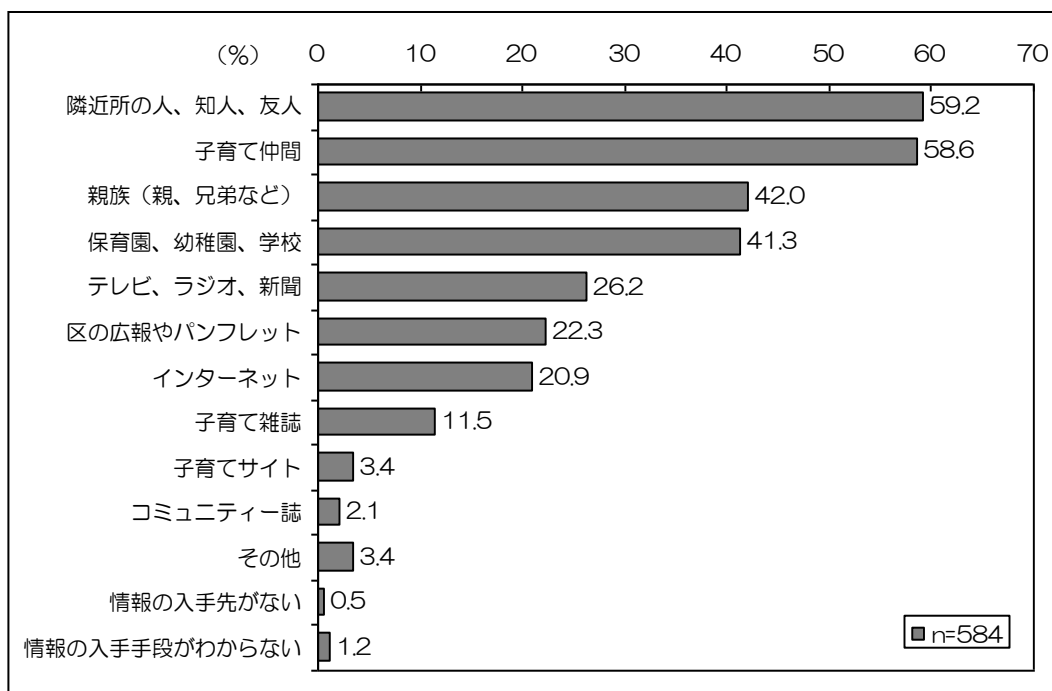
(5) 子育て情報の入手方法

問19 子育てに関する情報の入手方法は何ですか。【複数回答】

子育てに関する情報の入手方法については、「隣近所の人、知人、友人」(59.2%)及び「子育て仲間」(58.6%)が5割台で上位を占め、身近な人や子育て仲間などからの情報入手が多いことがうかがえます。以下、「親族(親、兄弟など)」(42.0%)、「保育園、幼稚園、学校」(41.3%)、「テレビ、ラジオ、新聞」(26.2%)、「区の広報やパンフレット」(22.3%)、「インターネット」(20.9%)、「子育て雑誌」(11.5%)などの順となっています。

一方、「情報の入手手段がわからない」が1.2%、「情報の入手先がない」が0.5%となっています。

図表 133 子育てに関する情報の入手方法 (複数回答/全体)



7. 地域での子育て支援について

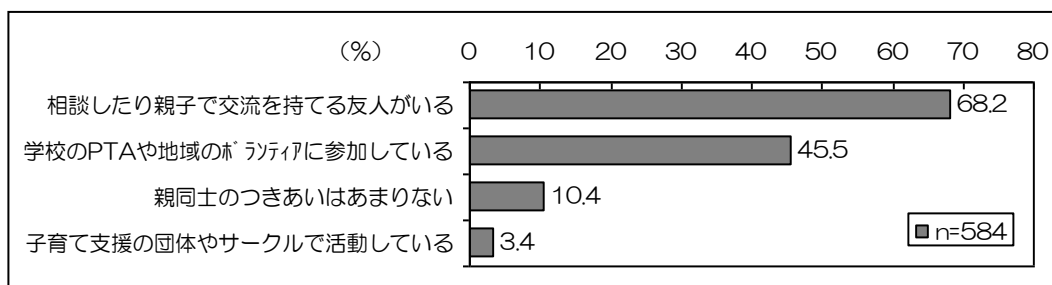
(1) 子育て仲間

問20

あなたは、同じくらいの子をもつ親同士のつきあいや、子育てのグループ等に入っていますか。【複数回答】

子育て仲間については、「相談したり親子で交流を持てる友人がいる」(68.2%)が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「学校のPTAや地域のボランティアに参加している」(45.5%)、「親同士のつきあいはあまりない」(10.4%)、「子育て支援の団体やサークルで活動している」(3.4%)の順となっています。

図表 134 子育て仲間について (複数回答/全体)



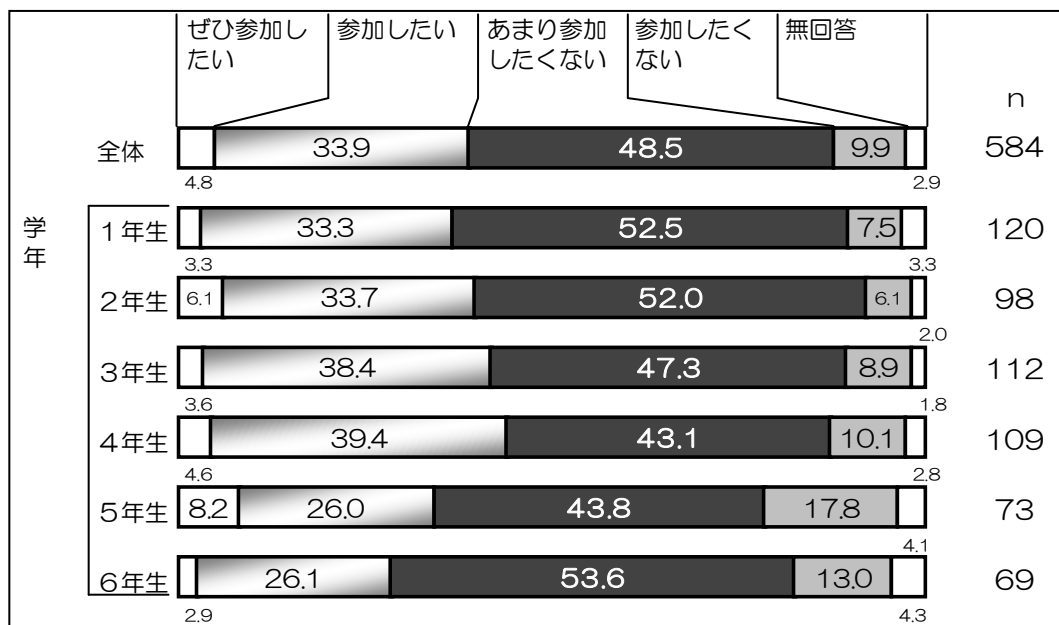
(2) 子育て仲間づくりへの参加希望

問20付問1 子育ての仲間づくりの機会があれば、参加したいと思いますか。

子育ての仲間づくりの機会に対する参加意向については、「あまり参加したくない」が48.5%で最も多く、これに「参加したくない」(9.9%)を合わせると、“参加したくない”と思っている人は58.4%に上ります。

一方、“参加したい”と思っている人は38.7%（「ぜひ参加したい」4.8%と「参加したい」33.9%の合計）という結果です。

図表 135 子育ての仲間づくりの機会に対する参加意向（全体／学年別）

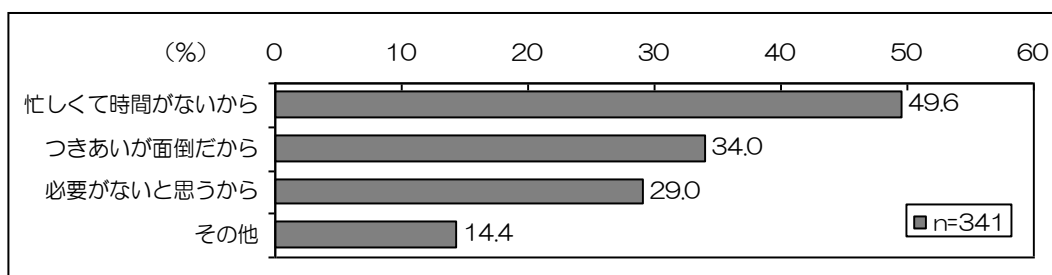


(3) 子育て仲間づくりへ参加したくない理由

問20付問2	付問1で「3. あまり参加したくない」「4. 参加したくない」と回答した方にうかがいます。参加したくない理由はなんですか。 【複数回答】
--------	---

参加したくない理由については、「忙しくて時間がないから」(49.6%) が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「つきあいが面倒だから」(34.0%)、「必要がないと思うから」(29.0%)、「その他」(14.4%) の順となっています。

図表 136 参加したくない理由 (複数回答/全体)



図表 137 参加したくない理由 (複数回答/母親の就労形態別)

		忙しくて時間がないから	つきあいが面倒だから	必要がないと思うから	その他
全体	n=341	49.6	34.0	29.0	14.4
常勤の勤め人	n= 54	72.2	35.2	16.7	13.0
パート・アルバイト	n= 91	62.6	31.9	26.4	11.0
契約社員・派遣社員	n= 13	76.9	7.7	30.8	7.7
自営業・家族従業	n= 31	58.1	29.0	38.7	16.1
在宅勤務・内職	n= 9	44.4	55.6	33.3	0.0
学生・無職	n= 133	27.8	38.3	33.1	18.0
その他	n= 8	37.5	12.5	37.5	25.0

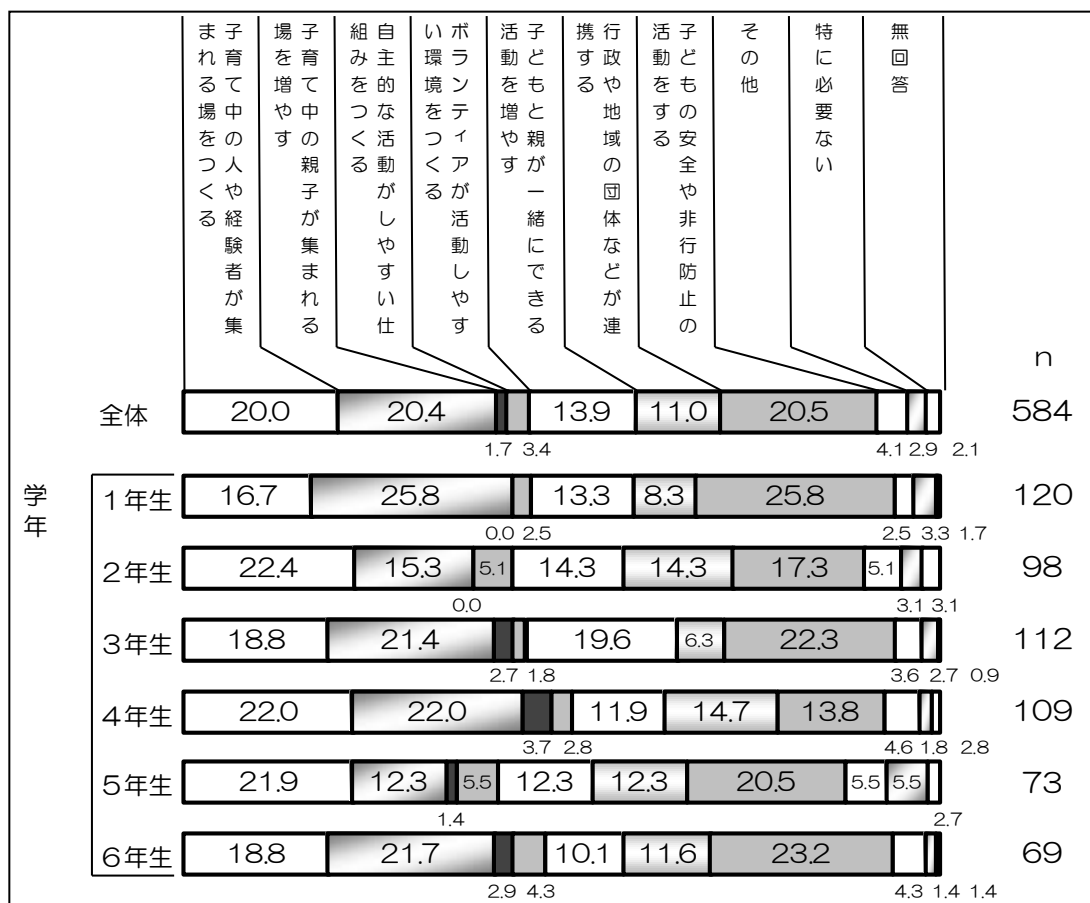
(4) 地域の取り組み

問21 安心して子育てをするためには、地域でどのような取り組みが必要だと思いますか。

地域で安心して子育てをするために必要なことについては、「子どもの安全や非行防止の活動をする」(20.5%)、「子育て中の親子が集まれる場を増やす」(20.4%)、「子育て中の人や経験者が集まれる場をつくる」(20.0%) が僅差で上位回答となっています。次いで、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」(13.9%)、「行政や地域の団体などが連携する」(11.0%)、「その他」(4.1%)、「ボランティアが活動しやすい環境をつくる」(3.4%)、「特に必要ない」(2.9%)、「自主的な活動がしやすい仕組みをつくる」(1.7%) の順となっています。

学年別にみても、全体での上位3位内の回答である「子どもの安全や非行防止の活動をする」、「子育て中の親子が集まれる場を増やす」、「子育て中の人や経験者が集まれる場をつくる」が上位回答となっています。

図表 138 地域で安心して子育てをするために必要なこと (全体/学年別)



(5) 子育てボランティア等への参加希望

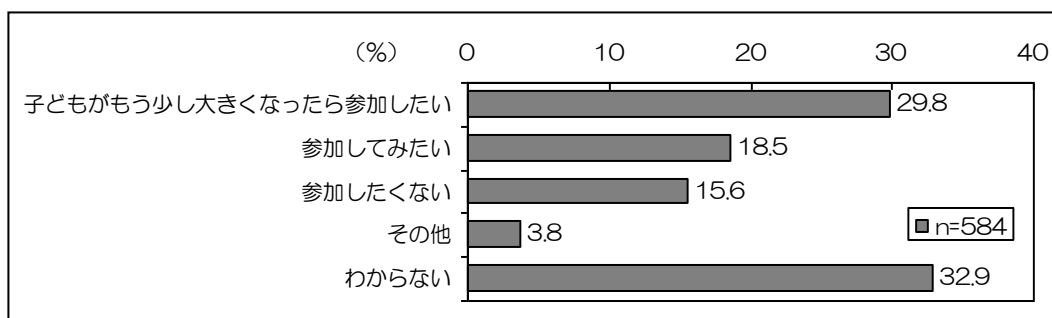
問22

今までの子育て経験を活かせる場や機会ができれば、保育や相談相手などのボランティアに参加してみたいと思いますか。【複数回答】

子育て経験を活かせるボランティアへの参加意向については、「子どもがもう少し大きくなったら参加したい」(29.8%)が第1位となっており、以下、「参加してみたい」(18.5%)、「参加したくない」(15.6%)、「その他」(3.8%)の順となっています。

これを就労形態別にみても、いずれの場合も全体結果と同様に、「子どもがもう少し大きくなったら参加したい」割合が最も多く、その他の項目についても就労形態別での大きな差異はみられない結果です。

図表 139 子育て経験を活かせるボランティアへの参加意向 (複数回答/全体)



図表 140 子育て経験を活かせるボランティアへの参加意向
(複数回答/母親の就労形態別)

	参加してみたい	参加したくない	子どもがもう少し大きくなったら参加したい	その他	わからない	無回答
全体 n=584	18.5	15.6	29.8	3.8	32.9	1.7
常勤の勤め人 n= 83	19.3	14.5	27.7	8.4	27.7	3.6
パート・アルバイト n= 147	15.6	17.0	25.2	2.7	40.1	2.0
契約社員・派遣社員 n= 18	22.2	11.1	27.8	0.0	38.9	0.0
自営業・家族従業 n= 46	19.6	19.6	21.7	10.9	32.6	0.0
在宅勤務・内職 n= 16	25.0	12.5	31.3	0.0	25.0	6.3
学生・無職 n= 244	18.0	15.2	34.8	2.0	31.6	0.4
その他 n= 19	36.8	10.5	26.3	5.3	21.1	5.3

8. 子どもの外出環境について

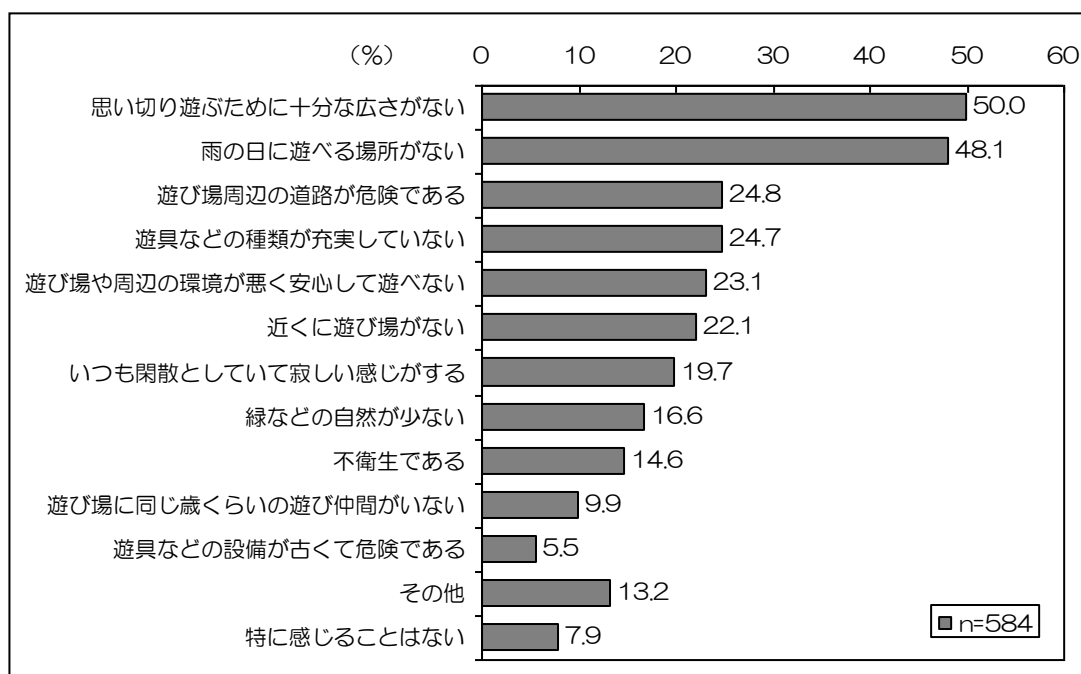
(1) 子どもの遊び場

問23 お近くにある子どもの遊び場について、日頃感じていることはありますか。【複数回答】

近くの子どもの遊び場については、「思い切り遊ぶために十分な広さがない」(50.0%) 及び「雨の日に遊べる場所がない」(48.1%) が5割前後で上位を占めます。

以下、「遊び場周辺の道路が危険である」(24.8%)、「遊具などの種類が充実していない」(24.7%)、「遊び場や周辺の環境が悪く安心して遊べない」(23.1%)、「近くに遊び場がない」(22.1%)、「いつも閑散としていて寂しい感じがする」(19.7%)、「緑などの自然が少ない」(16.6%)、「不衛生である」(14.6%) などの順となっています。

図表 141 近くの子どもの遊び場について（複数回答／全体）

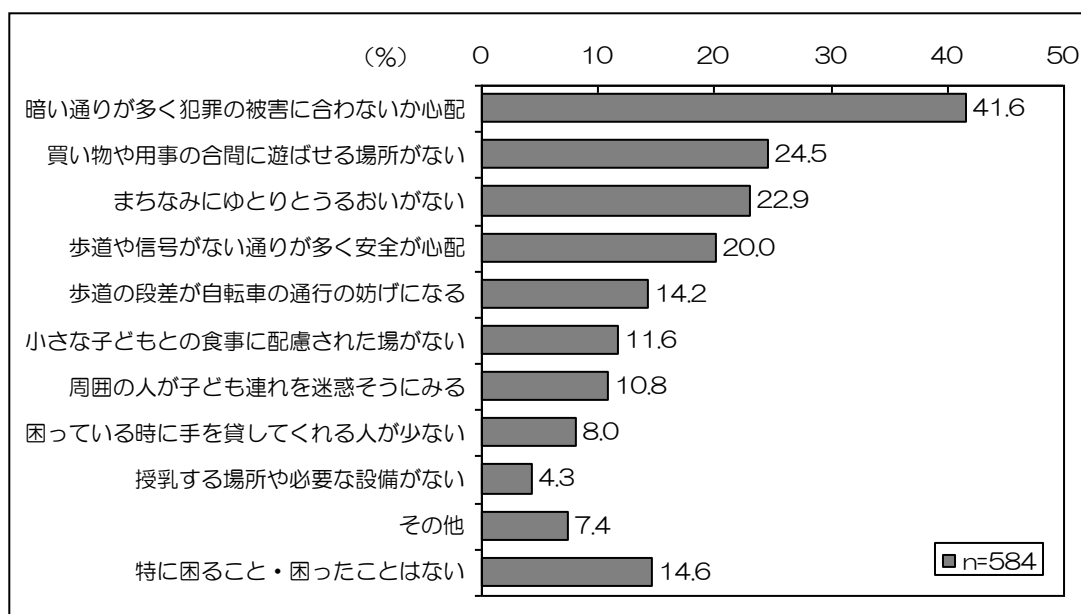


(2) 子どもとの外出の際に困ること

問24 子どもとの外出の際、困ること・困ったことはありますか。【複数回答（3つまで）】

子どもとの外出の際に困ることについては、「暗い通りが多く犯罪の被害に合わないか心配」（41.6%）が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「買い物や用事の合間に遊ばせる場所がない」（24.5%）、「まちなみにゆとりとるおいがない」（22.9%）、「歩道や信号がない通りが多く安全が心配」（20.0%）、「歩道の段差が自転車の通行の妨げになる」（14.2%）、「小さな子どもとの食事に配慮された場がない」（11.6%）、「周囲の人が子ども連れを迷惑そうにみる」（10.8%）などの順となっています。なお、「特に困ること・困ったことはない」は14.6%でした。

図表 142 子どもとの外出の際に困ること（複数回答／全体）



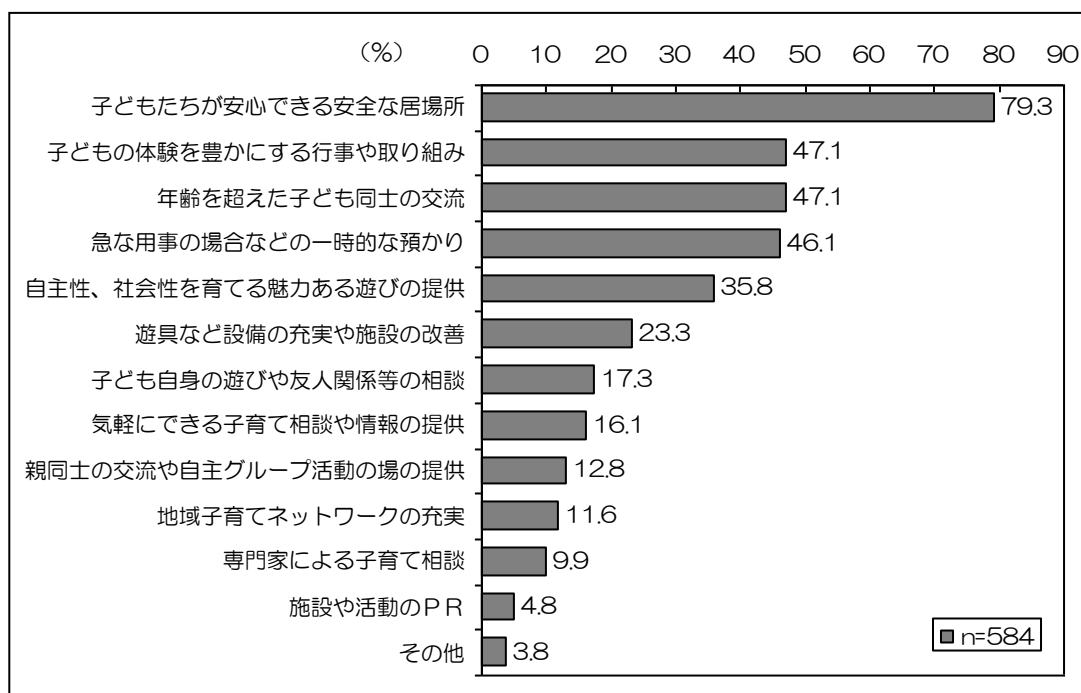
(3) 児童館へ望むこと

問25

あなたが児童館に望むことは何ですか。【複数回答】

児童館に望むことについては、「子どもたちが安心できる安全な居場所」(79.3%)が他を大きく引き離して第1位となっており、以下、「子どもの体験を豊かにする行事や取り組み」・「年齢を超えた子ども同士の交流」(ともに47.1%)、「急な用事の場合などの一時的な預かり」(46.1%)、「自主性、社会性を育てる魅力ある遊びの提供」(35.8%)、「遊具など設備の充実や施設の改善」(23.3%)、「子ども自身の遊びや友人関係等の相談」(17.3%)、「気軽にできる子育て相談や情報の提供」(16.1%)、「親同士の交流や自主グループ活動の場の提供」(12.8%)、「地域子育てネットワークの充実」(11.6%)などの順となっています。

図表 143 児童館に望むこと (複数回答/全体)



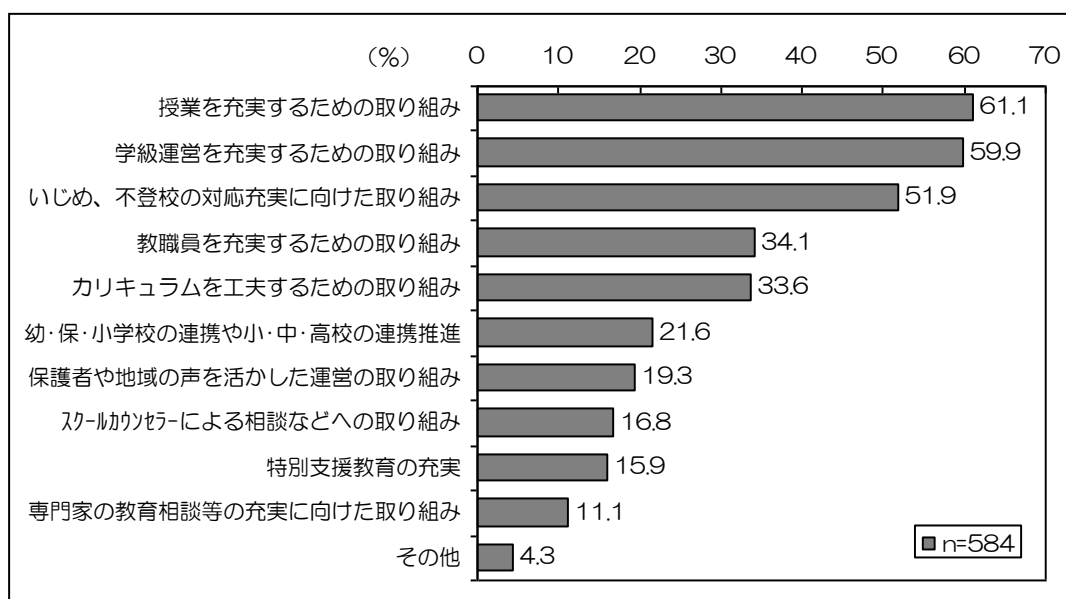
9. 学校教育や子ども関連施策に対するニーズ

(1) 学校教育へ望むこと

問26 あなたが学校教育に望むことは何ですか。【複数回答】

学校教育に望むことについては、「授業を充実するための取り組み」(61.1%)及び「学級運営を充実するための取り組み」(59.9%)が6割前後で上位を占めており、以下、「いじめ、不登校の対応充実に向けた取り組み」(51.9%)、「教職員を充実するための取り組み」(34.1%)、「カリキュラムを工夫するための取り組み」(33.6%)、「幼・保・小学校の連携や小・中・高校の連携推進」(21.6%)などの順となっています。

図表 144 学校教育に望むこと (複数回答/全体)

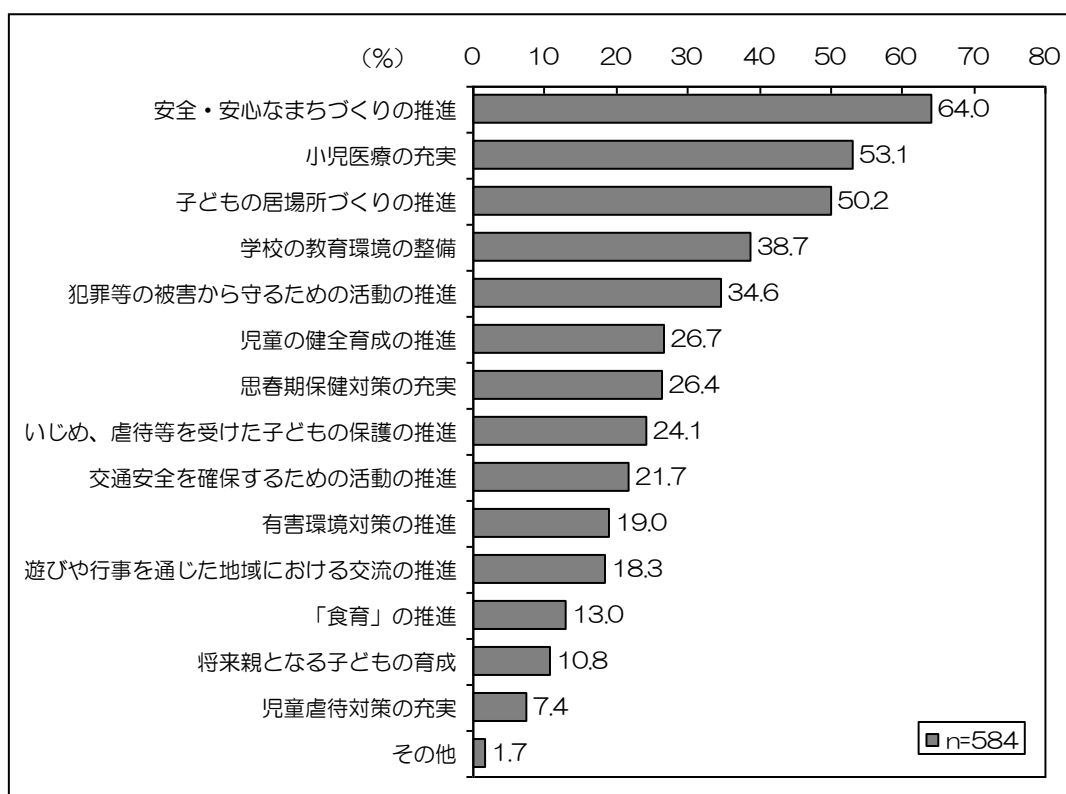


(2) 子どもに関する施策

問27 子どもに関する施策について、区が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思えますか。【複数回答（5つまで）】

子どもに関する施策で必要性の高いものについては、「安全・安心なまちづくりの推進」(64.0%) が他を引き離して第1位となっており、以下、「小児医療の充実」(53.1%)、「子どもの居場所づくりの推進」(50.2%)、「学校の教育環境の整備」(38.7%)、「犯罪等の被害から守るための活動の推進」(34.6%)、「児童の健全育成の推進」(26.7%)、「思春期保健対策の充実」(26.4%)、「いじめ、虐待等を受けた子どもの保護の推進」(24.1%)、「交通安全を確保するための活動の推進」(21.7%) などの順となっています。

図表 145 子どもに関する施策で必要性の高いもの（複数回答／全体）

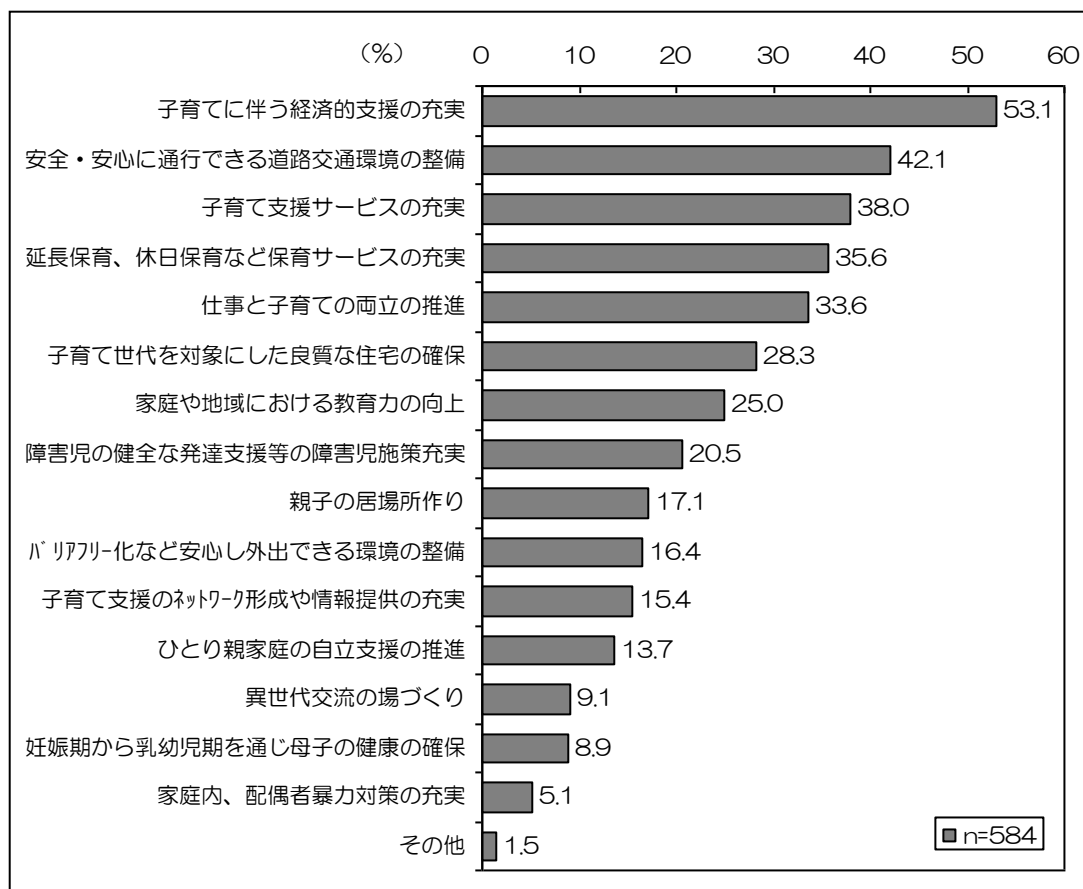


(3) 子育て支援の環境づくりに対する施策

問28	子育て支援の環境づくりに対する施策について、区が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思えますか。 【複数回答（5つまで）】
-----	---

子育て支援の環境づくりの施策で必要性の高いものについては、「子育てに伴う経済的支援の充実」(53.1%) が他を引き離して第1位となっており、以下、「安全・安心に通行できる道路交通環境の整備」(42.1%)、「子育て支援サービスの充実」(38.0%)、「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」(35.6%)、「仕事と子育ての両立の推進」(33.6%)、「子育て世代を対象にした良質な住宅の確保」(28.3%)、「家庭や地域における教育力の向上」(25.0%)、「障害児の健全な発達支援等の障害児施策充実」(20.5%)などの順となっています。

図表 146 子育て支援の環境づくりの施策で必要性の高いもの（複数回答／全体）

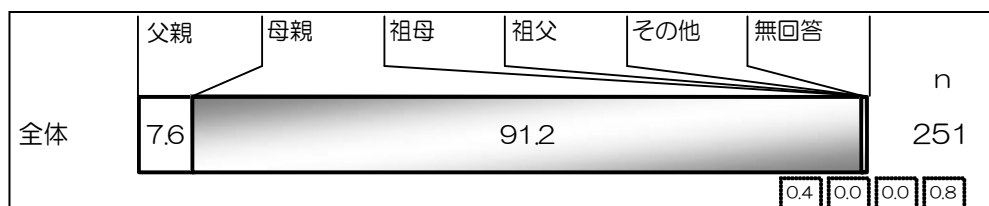


II-3 中・高校生の保護者

1. 対象者の属性

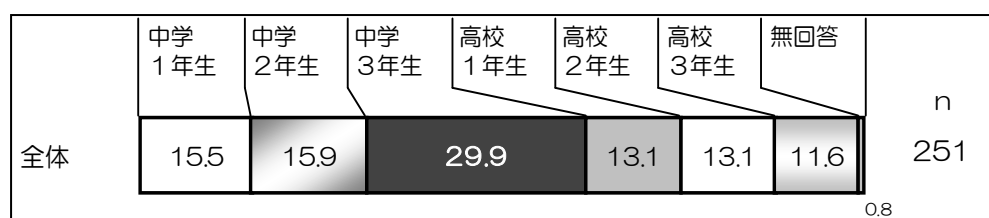
(1) 回答者（調査対象生徒からみた続柄）

この調査の回答者を調査対象の生徒との続柄で見ると、「母親」(91.2%)、
が9割を超え、このほかは「父親」(7.6%)、「祖母」(0.4%)となっ
ています。



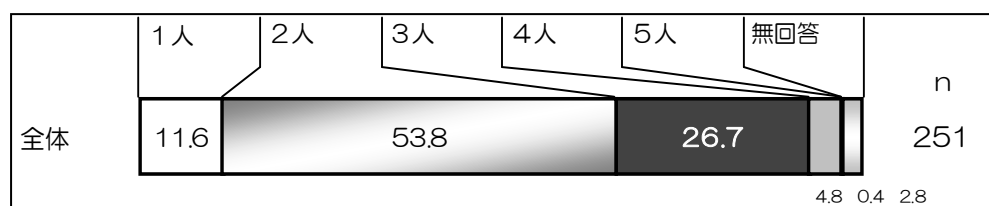
(2) 調査対象生徒の学年別構成

調査対象の生徒を学年別にみると、中学生が「中学3年生」(29.9%)、
「中学2年生」(15.9%)、「中学1年生」(15.5%)と全体の61.3%を
占めます。高校生は、「高校1年生」・「高校2年生」(ともに13.1%)、「高
校3年生」(11.6%)で全体の37.8%を占めます。

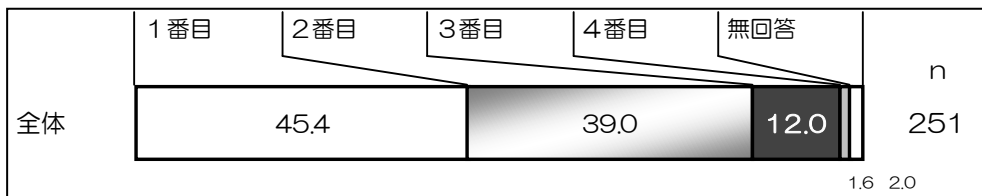


(3) 兄弟・姉妹構成（調査対象生徒）

調査対象の児童を含めた兄弟・姉妹の人数区分では、「2人」が半数を
超える53.8%、「3人」が26.7%、「1人」が11.6%という結果です。
また、「4人」が4.8%、「5人」が0.4%となっています。



調査対象の児童の兄弟・姉妹の中での順番をみると、「1 番目」が 45.4%、「2 番目」が 39.0%、「3 番目」が 12.0%、「4 番目」が 1.6%の順となっており、第一子、第二子が多くを占めます。



2. 調査対象の生徒と家族の状況

(1) 両親の状況

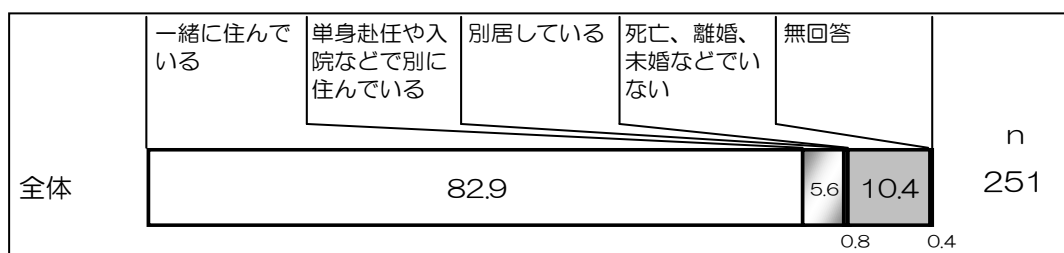
問3 調査対象のお子さんのご両親の状況についておうかがいします。

■ (1) 父親の同居状況と就労状況

■ 父親の同居状況：

父親との同居状況では、「一緒に住んでいる」が82.9%と最も多く、以下、「死亡、離婚、未婚などでいない」が10.4%、「単身赴任や入院などで別に住んでいる」が5.6%、「別居している」が0.8%となっています。

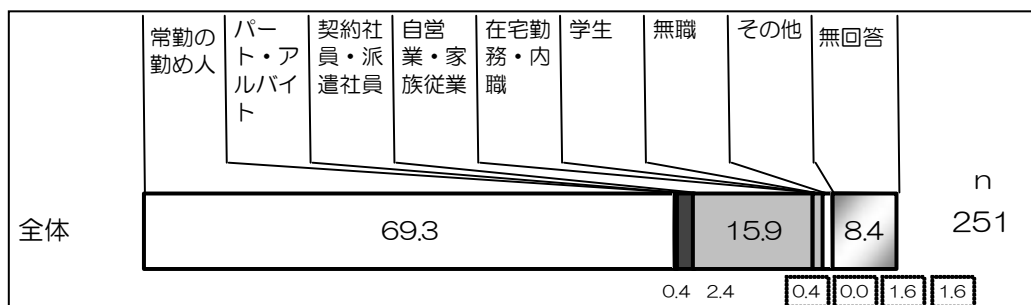
図表 147 父親の同居状況（全体）



■ 父親の就労状況：

父親の就労状況を見ると、「常勤の勤め人」が69.3%、「自営業・家族従業」が15.9%、「契約社員・派遣社員」が2.4%、「パート・アルバイト」が0.4%、「在宅勤務・内職」が0.4%という結果です。また、「無職」が1.6%、「その他」が1.6%となっています。

図表 148 父親の就労状況（全体）

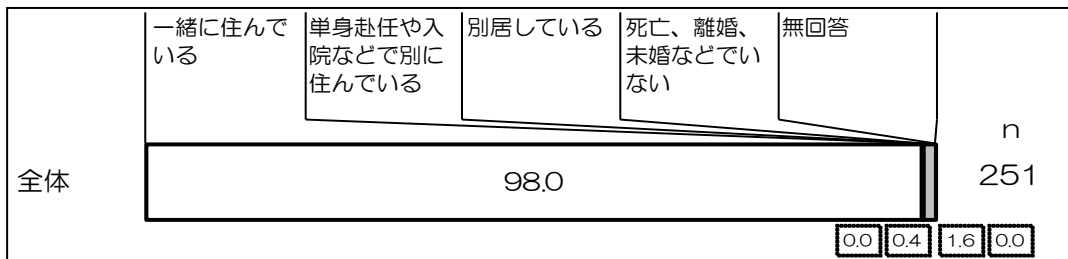


■ (2) 母親の同居状況と就労状況

■ 母親の同居状況：

「一緒に住んでいる」(98.0%)、「死亡、離婚、未婚などでいない」(1.6%)、「別居している」(0.4%)の順となっています。

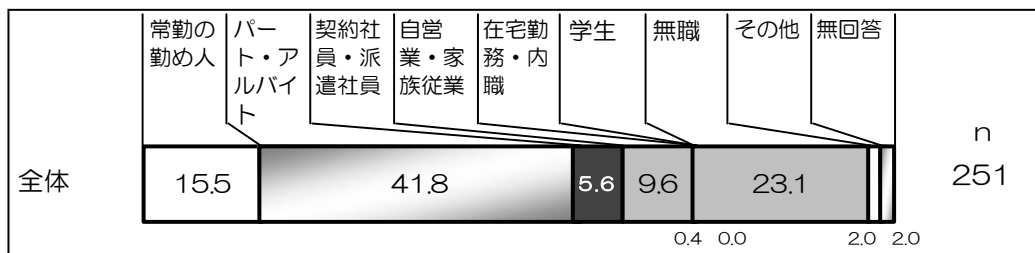
図表 149 母親の同居状況（全体）



■ 母親の就労状況：

「パート・アルバイト」(41.8%)、「無職」(23.1%)、「常勤の勤め人」(15.5%)、「自営業・家族従業」(9.6%)、「契約社員・派遣社員」(5.6%)、「その他」(2.0%)、「在宅勤務・内職」(0.4%)の順となっています。

図表 150 母親の就労状況（全体）

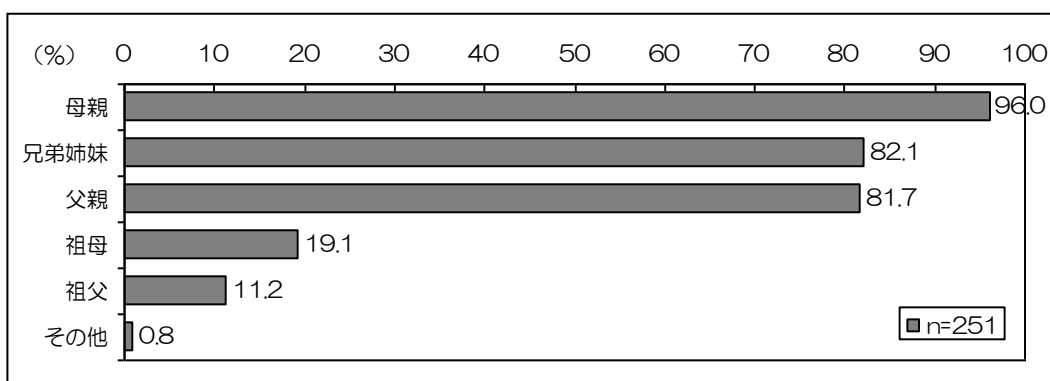


(2) 同居人の続柄 (調査対象生徒からみた関係)

問4 調査対象のお子さんと同居されている方はどなたですか。なお、続柄は調査対象のお子さんからみた関係です。【複数回答】

調査対象の生徒と同居している家族については、「母親」が96.0%、「兄弟姉妹」82.1%、「父親」81.7%、「祖母」19.1%、「祖父」11.2%、「その他」0.8%という結果です。

図表 151 同居している家族 (複数回答/全体)

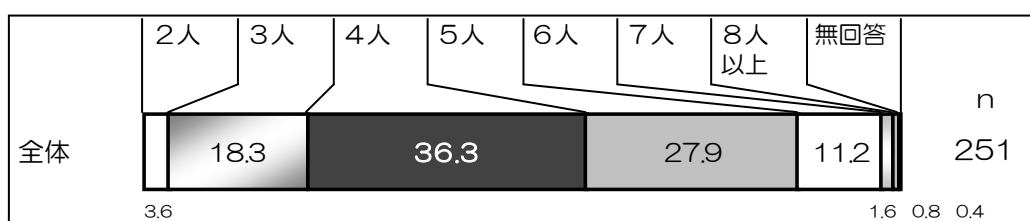


(3) 家族の人数

問5 調査対象のお子さんと同居している家族全員 (調査対象のお子さんを含む) の人数は何人ですか。

同居家族の人数では、調査対象の生徒を含め、「4人 (世帯)」が36.3%、「5人 (世帯)」が27.9%、「6人 (世帯)」が11.2%、「7人 (世帯)」が1.6%、「8人以上」が0.8%という結果であり、4人以上が同居している世帯が全体の7割を超えます。このほか、「3人 (世帯)」が18.3%、「2人 (世帯)」が3.6%となっています。

図表 152 同居人数 (全体)



3. 住居状況と住まいに関する意識

(1) 住まいの形態

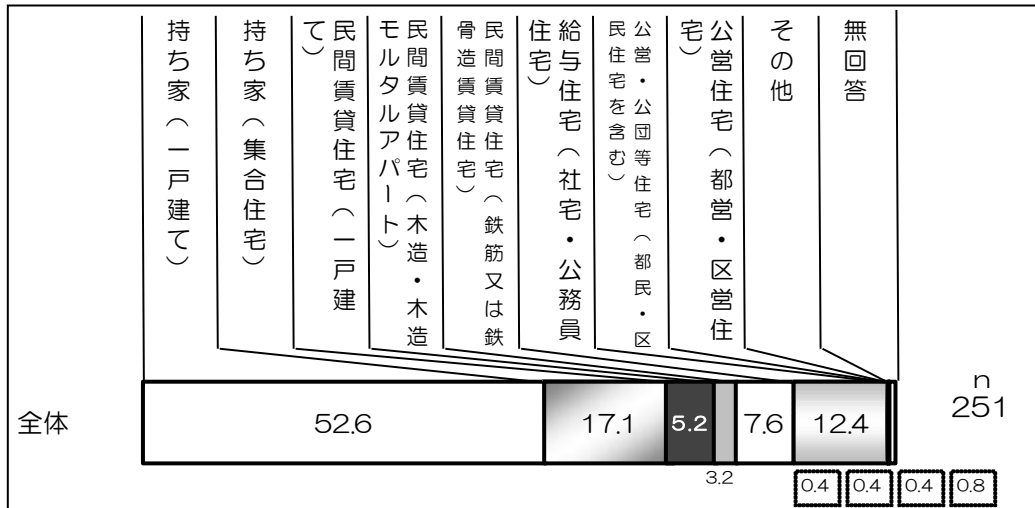
問6 お住まいの形態についておうかがいします。

住居形態については、「持ち家（一戸建て）」が52.6%、「持ち家（集合住宅）」17.1%と、“持ち家率”が7割ほどに上ります。

一方、民間の賃貸住宅に居住している割合は、1割強を占め、「民間賃貸住宅（鉄筋又は鉄骨造賃貸住宅）」が7.6%、「民間賃貸住宅（一戸建て）」が5.2%、「民間賃貸住宅（木造・木造モルタルアパート）」が3.2%となっています。

このほか、「給与住宅（社宅・公務員住宅）」が12.4%、「公営・公団等住宅（都民・区民住宅を含む）」と「公営住宅（都営・区営住宅）」がともに0.4%などという結果です。

図表 153 住居形態（全体）



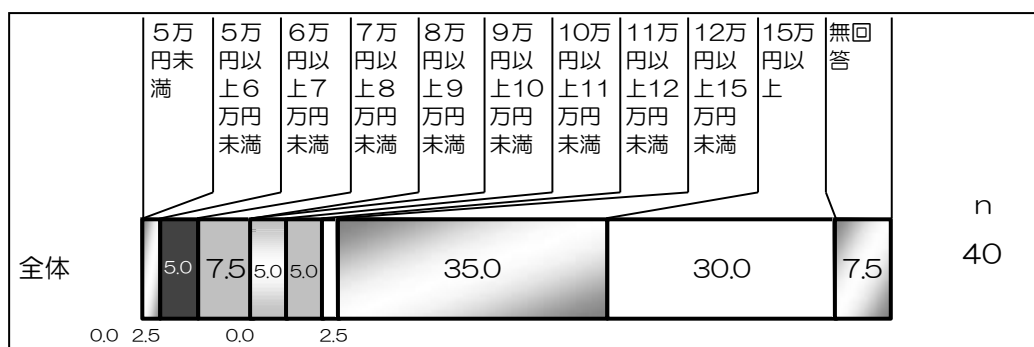
(2) 家賃

問6付問1 問6で3.～5.「民間賃貸住宅」と回答した方におうかがいします。家賃はおいくらですか。(管理費を含む)

民間賃貸住宅に居住している人(40人)に月あたりの家賃をたずねた結果では、「12万円以上15万円未満」が35.0%、「15万円以上」が30.0%となっており、月額12万円以上が7割近くに達します。

このほかでは、「7万円以上8万円未満」が7.5%、「6万円以上7万円未満」・「9万円以上10万円未満」・「10万円以上11万円未満」がともに5.0%、「5万円以上6万円未満」・「11万円以上12万円未満」がともに2.5%となっています。

図表 154 月あたりの家賃について(全体)

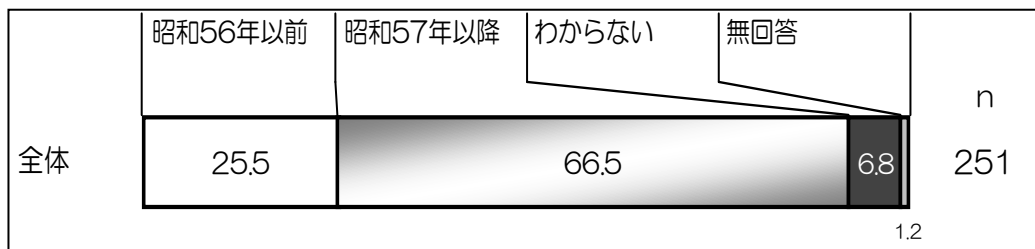


(3) 住まいの建設時期

問6付問2 現在のお住まいの建設時期はいつですか。

住居の建設時期については、「昭和57年以降」が66.5%と圧倒的に多く、「昭和56年以前」は25.5%、「わからない」が6.8%となっています。

図表 155 住居の建設時期（全体）

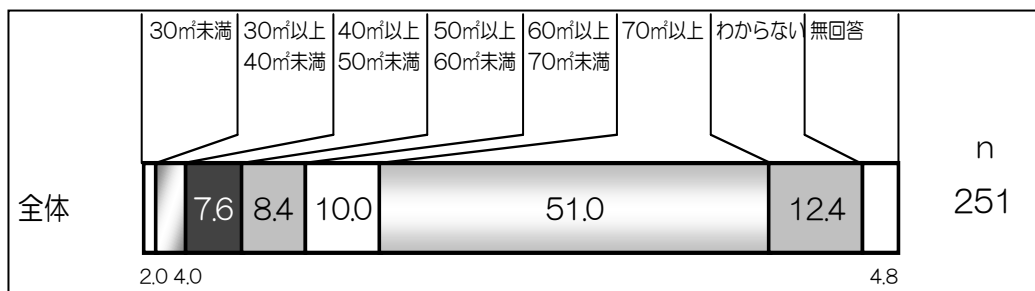


(4) 住まいの広さ

問6付問3 お住まいの広さはどのくらいですか。戸建住宅にお住まいの方は延べ床面積で、マンション等にお住まいの方は占有面積でお答えください。

住居の広さについては、「70㎡以上」が51.0%と半数を超えます。これに次いで、「60㎡以上70㎡未満」が10.0%、「50㎡以上60㎡未満」が8.4%、「40㎡以上50㎡未満」が7.6%、「30㎡以上40㎡未満」が4.0%、「30㎡未満」が2.0%となっています。

図表 156 住居の広さ（全体）

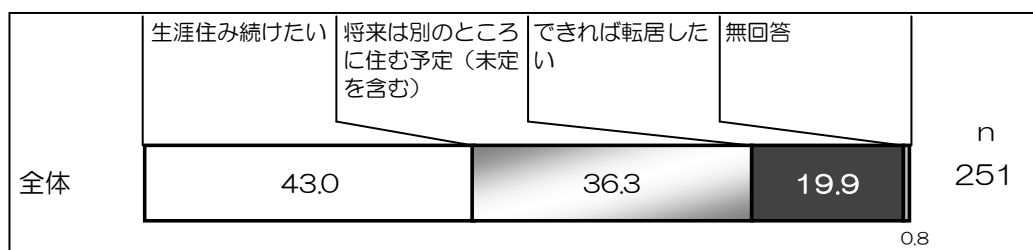


(5) 現在の住まいに対する永住意識

問7 現在のお住まいに対するお考えをお聞かせください。

現在の住居への永住意識については、「生涯住み続けたい」が43.0%を占める一方で、「将来は別のところに住む予定（未定を含む）」が36.3%、「できれば転居したい」が19.9%で、転居を希望する割合が民間賃貸住宅や公営住宅に居住する人を中心に全体の6割近くまでを占めます。

図表 157 現在の住居に対する考え（全体）



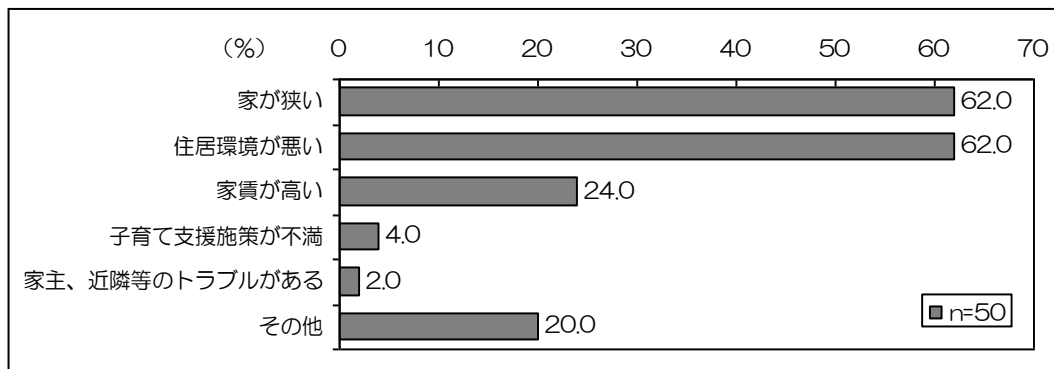
(6) 転居したい理由

問7付問1	問7で「3. できれば転居したい」と回答した方におうかがいします。その理由は何ですか。【複数回答】
-------	---

転居したい理由については、「家が狭い」や「住居環境が悪い」（ともに62.0%）を挙げる人が多数であり、居住面積や住環境への不満が転居を希望する大きな要因となっています。

このほかで、「家賃が高い」が24.0%、「子育て支援施策が不満」4.0%、「家主、近隣等のトラブルがある」2.0%という結果です。

図表 158 転居したい理由（複数回答／全体）



転居したい理由として「住居環境の悪さ」を挙げた人(31人)にその内容をたずねたところ、「日当たりが悪い」が41.9%で最も多く、次いで「間取りや設備が悪い」が29.0%、「建物が老朽化している」19.4%、「近隣の騒音がうるさい」6.5%、「防犯上で不安がある」3.2%という結果です。

図表 159 住居環境の悪さについて（全体）



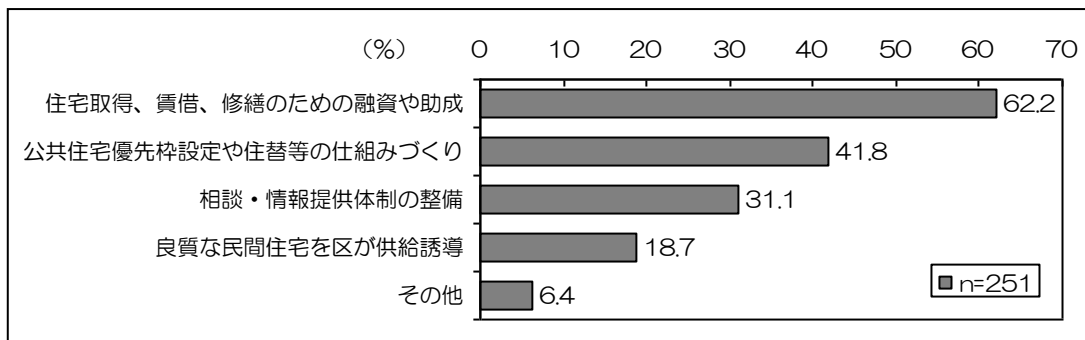
(7) 住宅施策に対するニーズ

問7付問2 子育て中の世帯等が住みやすい環境を整えるためには、どのような住宅施策を進めていくべきだと思いますか。【複数回答】

子育て世帯が住みやすい環境づくりとしての住宅施策のあり方については、「住宅取得、賃借、修繕のための融資や助成」を求める人が62.2%を占めます。

次いで、「公共住宅優先枠設定や住替等の仕組みづくり」が41.8%、「相談・情報提供体制の整備」が31.1%、「良質な民間住宅を区が供給誘導」が18.7%となっています。

図表 160 子育て世帯が住みやすい住宅施策推進について（複数回答／全体）



4. 子育てについて

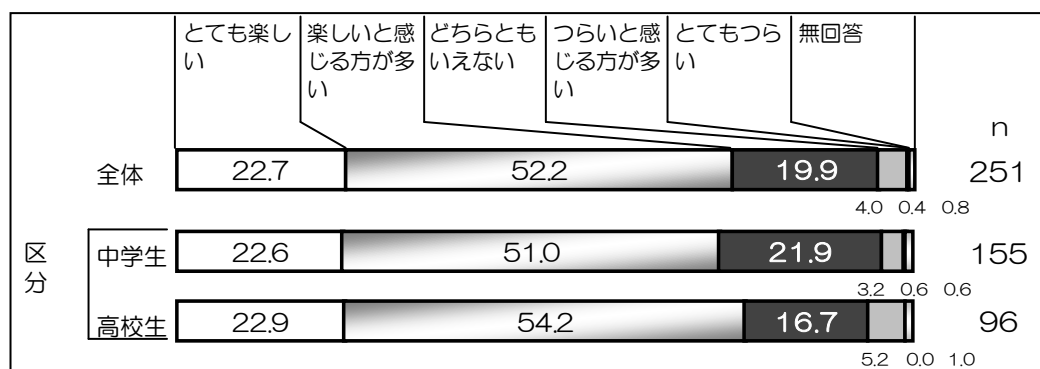
(1) 子育てに関する感想

問9 子育てについてどのように感じていますか。

子育てに対する感想としては、「楽しいと感じる方が多い」と半数を超える人(52.2%)が回答しており、「とても楽しい」(22.7%)と回答した人を合わせると、74.9%が子育てについて幸福感、満足感を感じている結果です。

一方、「つらいと感じる方が多い」(4.0%)と「とてもつらい」(0.4%)を合わせた割合は4.4%となっています。また、「どちらともいえない」が19.9%という結果です。

図表 161 子育てについて (全体/区分)



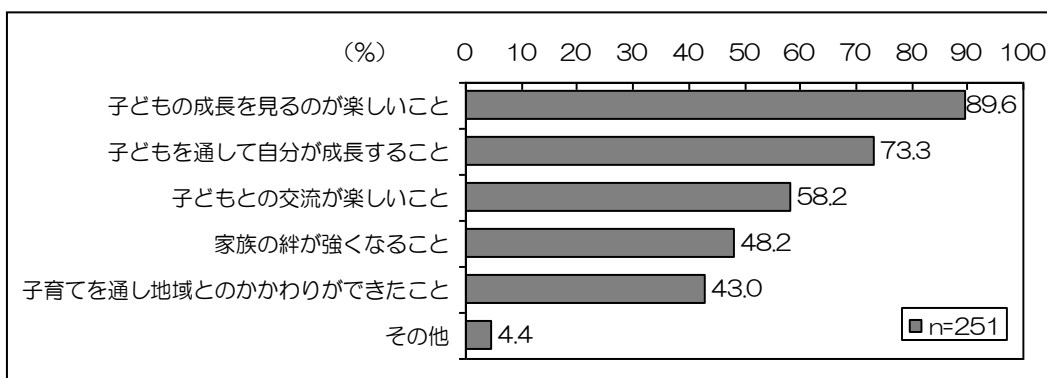
(2) 子育てでよかったと思うこと

問10	子育てを通じてよかったと思うのはどのようなことですか。 【複数回答】
-----	--

子育てを通じ、よかったと思うことについては、「子どもの成長を見るのが楽しいこと」を挙げる人が89.6%と9割ほどに上るほか、「子どもを通して自分が成長すること」と保護者自らの成長にもつながることを認識している人が73.3%を占めます。

このほか、「子どもとの交流が楽しいこと」が58.2%、「家族の絆が強くなること」48.2%、「子育てを通じ地域とのかかわりができたこと」43.0%という結果です。

図表 162 子育てを通じ、よかったと思うこと（複数回答／全体）



(3) 子育てに関する悩みの有無

問11

子育てに関して悩んでいることはありますか。【複数回答】

子育てで悩んでいることや気になることについて、「特にない」と回答した人は全体の22.7%であり、無回答分(4.4%)を除く7割以上の人が何らかの悩みを抱えている状況が示されます。

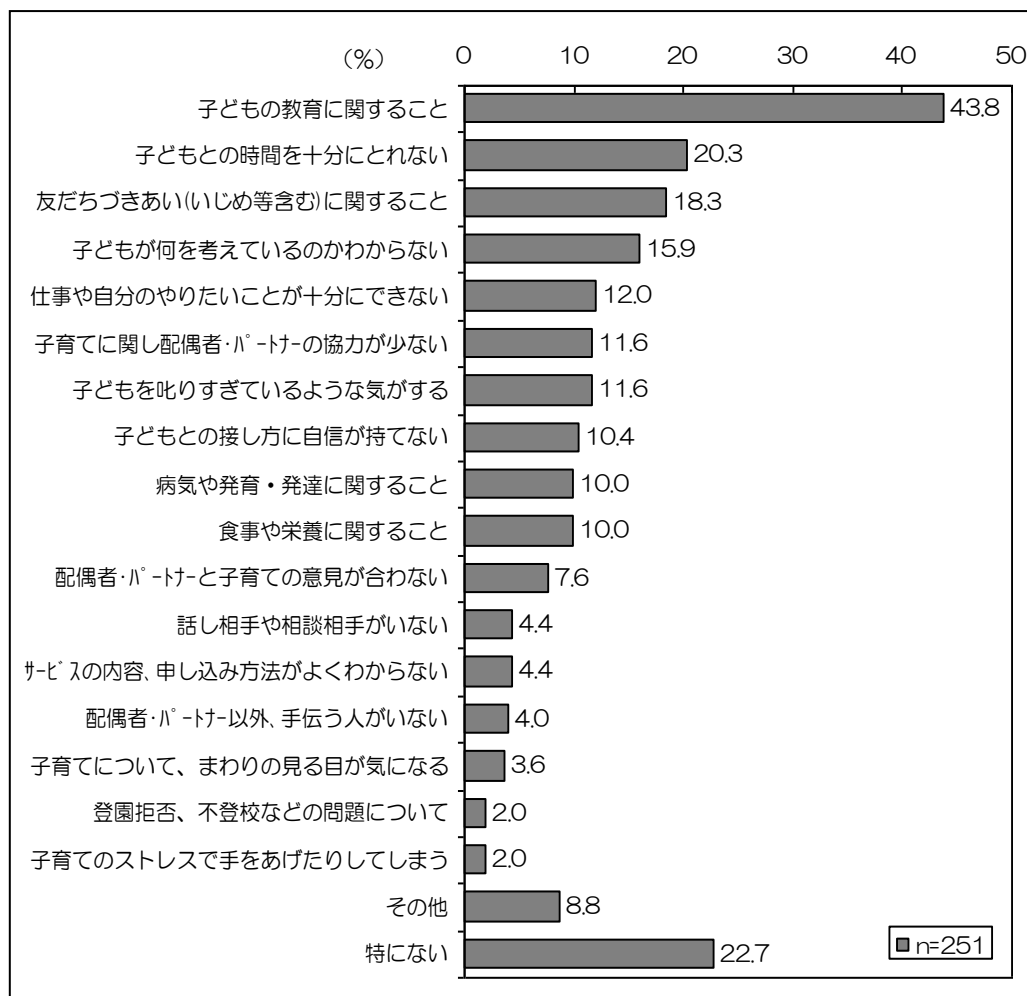
悩みの具体的な内容としては、「子どもの教育に関すること」を挙げる人が43.8%で最も多くなっています。

次いで「子どもとの時間を十分にとれない」が20.3%、「友だちつきあい(いじめ等含む)に関すること」が18.3%、「子どもが何を考えているのかわからない」が15.9%と続いており、子どもの教育をはじめ、いじめを含めた交友関係、子どもと向き合う時間的ゆとりの不足感が特に多く挙げられています。

このほか、「仕事や自分のやりたいことが十分にできない」が12.0%、「子育てに関し配偶者・パートナーの協力が少ない」・「子どもを叱りすぎているような気がする」がともに11.6%、「子どもとの接し方に自信が持てない」10.4%、「病気や発育・発達に関すること」・「食事や栄養に関すること」がともに10.0%という結果であり、保護者自身のライフスタイルと子育ての調整の問題、あるいは家庭内での子育てへの協力者の理解不足、子どもとの接し方への不安、また、子どもの健康や発育に関する不安を抱える人がそれぞれ1割ほどに上る結果です。

さらに、少数派ですが、「話し相手や相談相手がいない」(4.4%)、「サービスの内容、申し込み方法がよくわからない」(4.4%)、「子育てについて、まわりの見目が気になる」(3.6%)、「登園拒否、不登校などの問題について」(2.0%)といった悩みも挙げられています。

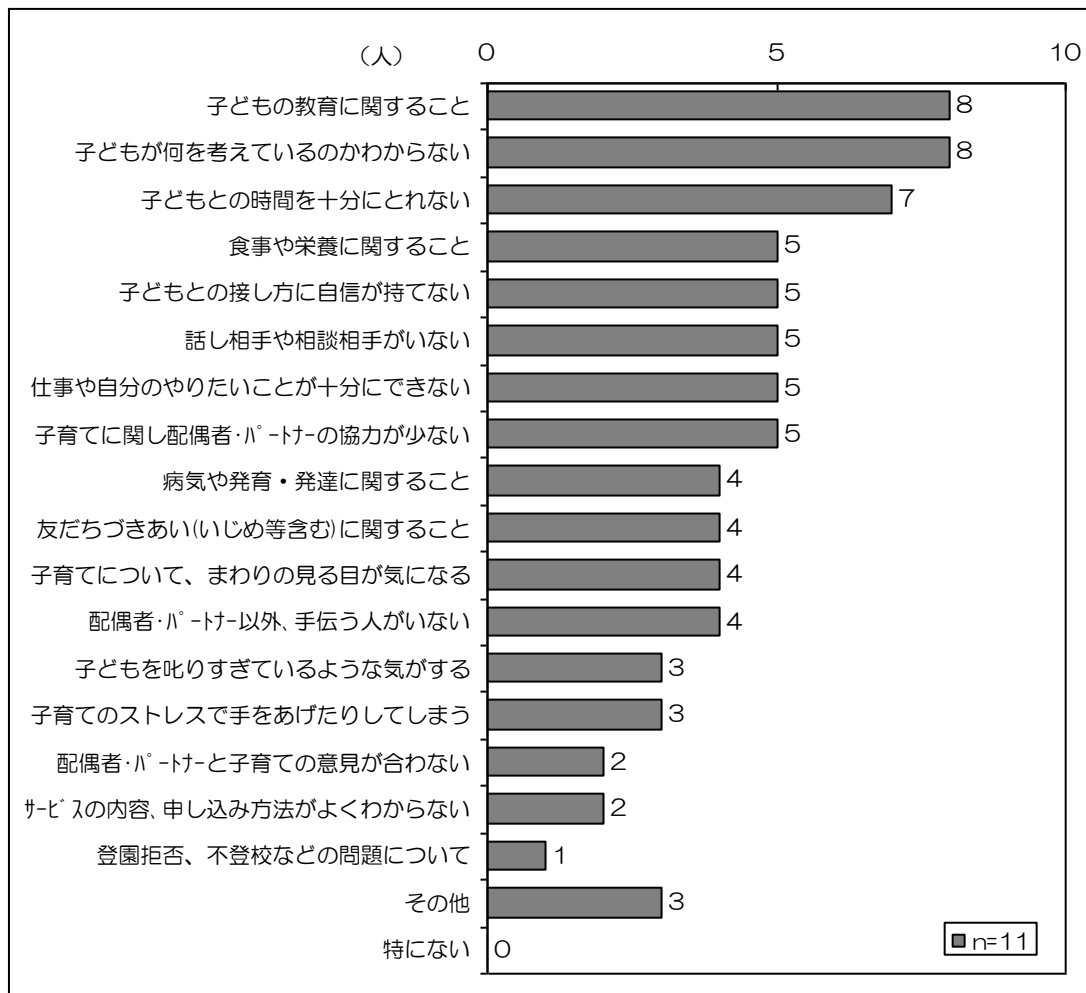
図表 163 子育てで悩んでいることや気になること（全体／複数回答）



子育てに関する悩みについて、問9で子育てを「つらいと感じている」人（11人）に限ってみていくと、何らかの悩みや問題に直面している結果が出ており、特に全体結果と同様に「子どもの教育に関すること」を挙げる人が多くなっています。また、「子どもが何を考えているのかわからない」を挙げる人が「子どもの教育に関すること」と同じ結果になり、次いで「子どもとの時間を十分にとれない」になっています。

このことから、子どもの教育も含め、子どもと向き合う必要性を感じながらも時間的制約や対処法がわからないなどの不安が大きい状況が示されます。

図表 164 子育てで悩んでいることや気になること（子育てが“つらいと感じている人のみ”）

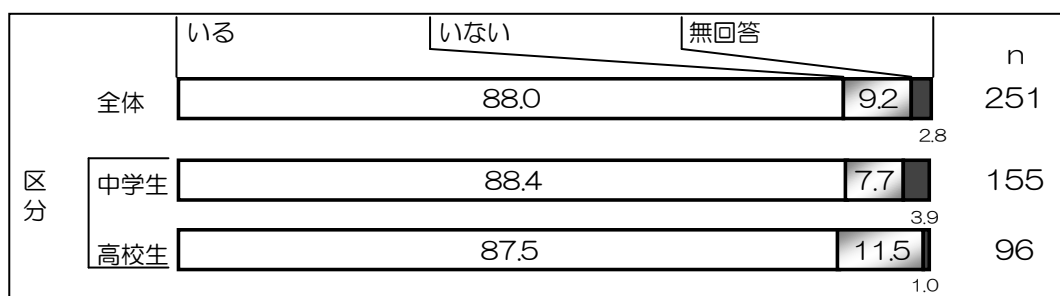


(4) 子育てに関する相談相手の有無

問12 あなたはまわりに悩みを相談できる人がいますか。

子育ての悩みの相談相手の有無について、「いる」と回答した人が全体の88.0%に上り、「いない」は9.2%となっています。

図表 165 子育ての悩みの相談相手の有無（全体／区分）



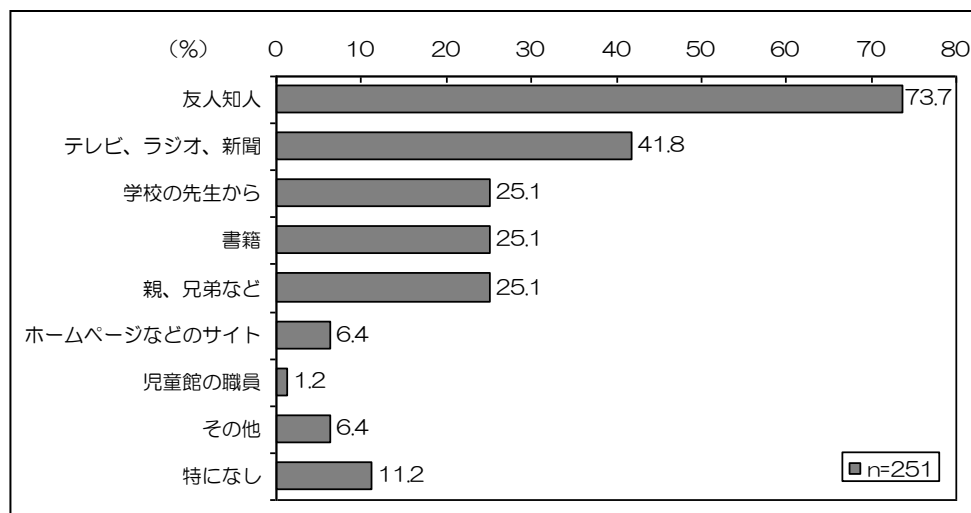
(5) 子育て情報の入手方法

問13	あなたは思春期の子育て情報を誰から（どこから）得ていますか。 【複数回答】
-----	--

思春期の子育てに関する情報の入手先については、「友人知人」が73.7%で最も多く、次いで「テレビ、ラジオ、新聞」を挙げる人が41.8%、「学校の先生から」・「書籍」・「親、兄弟など」がともに25.1%、「ホームページなどのサイト」6.4%、「児童館の職員」1.2%という結果です。

一方、「特になし」と回答した人は、11.2%となっています。

図表 166 思春期の子育てに関する情報の入手先（複数回答／全体）



5. 子どもの育成・子育てに関する施策ニーズ

(1) 子どもに関わる社会問題で気になること

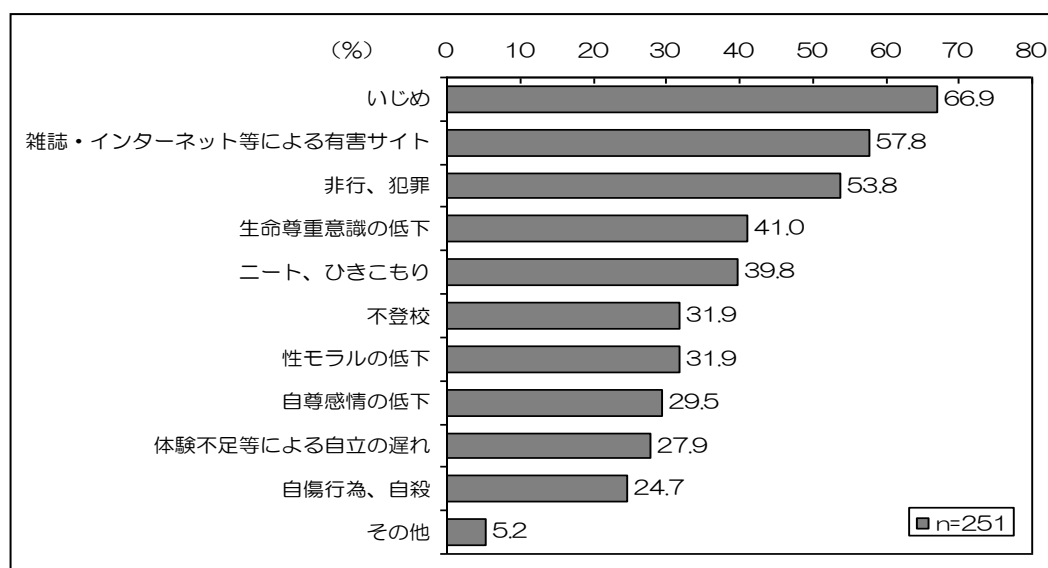
問14

あなたは思春期の子どもに関わる社会問題で気になることはどのようなことですか。【複数回答】

思春期の子どもに関わる社会問題で気になることとしては、「いじめ」が最大の関心事であり、全体の66.9%に上ります。

次いで、「雑誌・インターネット等による有害サイト」(57.8%)や「非行、犯罪」(53.8%)を挙げる人が半数を超えるほか、今日の世相を反映し「生命尊重意識の低下」(41.0%)や「ニート、ひきこもり」(39.8%)、「不登校」・「性モラルの低下」(ともに31.9%)、「自尊感情の低下」(29.5%)、「体験不足等による自立の遅れ」(27.9%)、「自傷行為、自殺」(24.7%)などが上位に挙げられています。

図表 167 思春期の子どもに関わる社会問題で気になること（複数回答／全体）



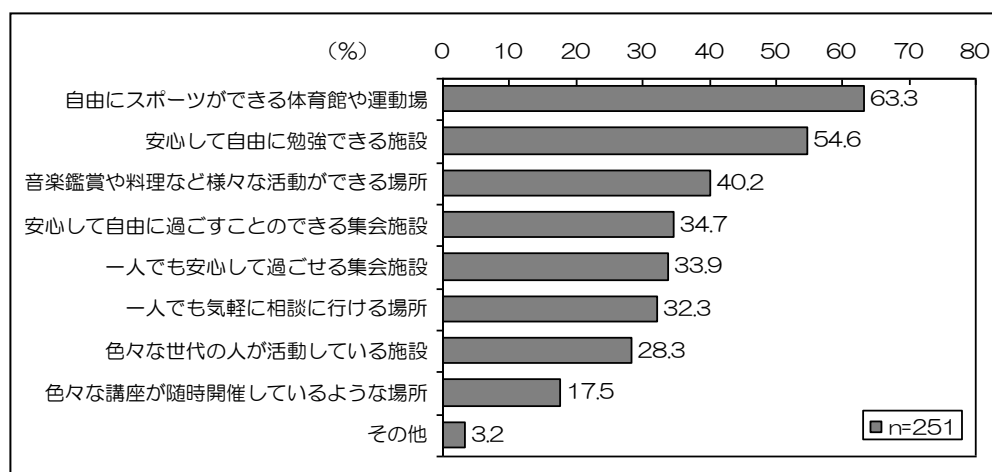
(2) 子どもが過ごす場所に対する希望

問15	学校と家以外でお子さんが過ごす場所としてどのような場所があればいいと思いますか。【複数回答】
-----	--

学校や家以外で、子どもが過ごすのに理想的な場所と保護者が考えているのは、「自由にスポーツができる体育館や運動場」や「安心して自由に勉強できる施設」であり、それぞれ全体の63.3%と54.6%に上ります。

次いで、「音楽鑑賞や料理など様々な活動ができる場所」を挙げる人が40.2%、「安心して自由に過ごすことのできる集会施設」34.7%、「一人でも安心して過ごせる集会施設」33.9%、「一人でも気軽に相談に行ける場所」32.3%、「色々な世代の人が活動している施設」28.3%などという結果です。

図表 168 学校と家以外で子どもが過ごすのに理想的な場所（複数回答／全体）



(3) 子どもに関する施策ニーズ

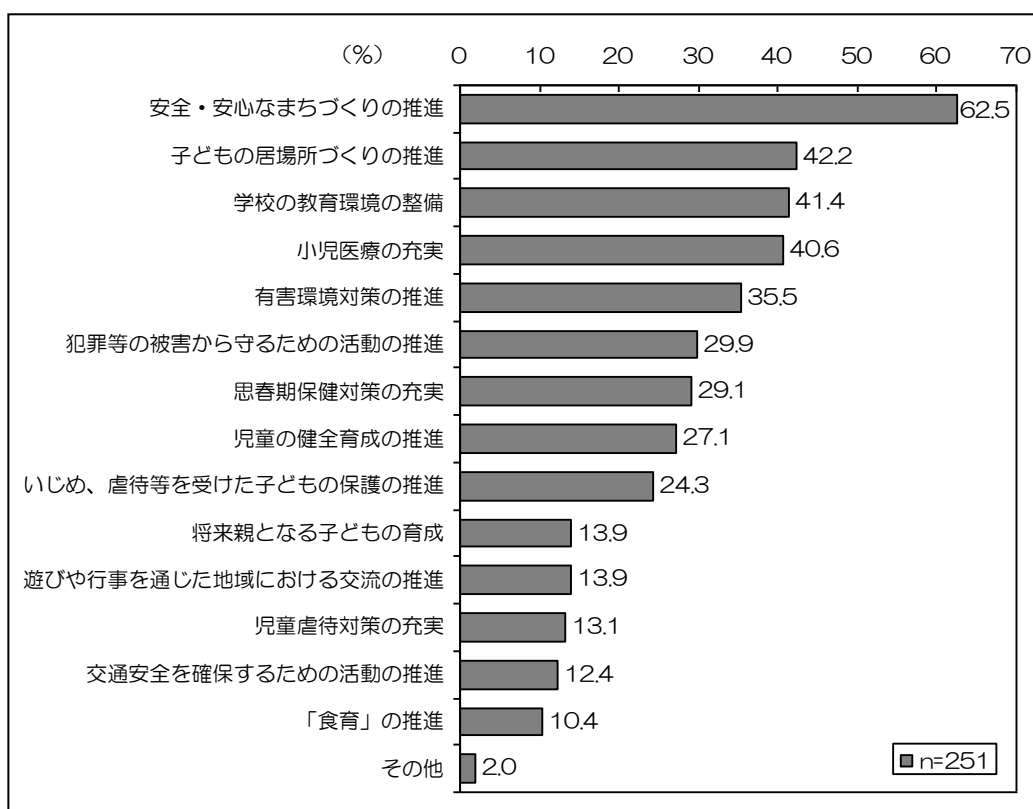
問16 子どもに関する施策について、区が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思えますか。【複数回答（5つまで）】

子どもに関する施策で重点的に取り組むべきものとしては、「安全・安心なまちづくりの推進」を挙げる人が62.5%に上り、“子どもの安全確保”が最優先課題としてとらえられている結果です。

次いで、「子どもの居場所づくりの推進」（42.2%）や「学校の教育環境の整備」（41.4%）、「小児医療の充実」（40.6%）を求める人がそれぞれ4割を超えます。

さらに、「有害環境対策の推進」（35.5%）、「犯罪等の被害から守るための活動の推進」（29.9%）、「思春期保健対策の充実」（29.1%）、「児童の健全育成の推進」（27.1%）、「いじめ、虐待等を受けた子どもの保護の推進」（24.3%）、「将来親となる子どもの育成」・「遊びや行事を通じた地域における交流の推進」（ともに13.9%）、「児童虐待対策の充実」（13.1%）、「交通安全を確保するための活動の推進」（12.4%）、「食育」の推進」（10.4%）の順位となっています。

図表 169 子どもに関する施策で必要性の高いもの（複数回答／全体）



(4) 子育て支援の環境づくりに対する施策

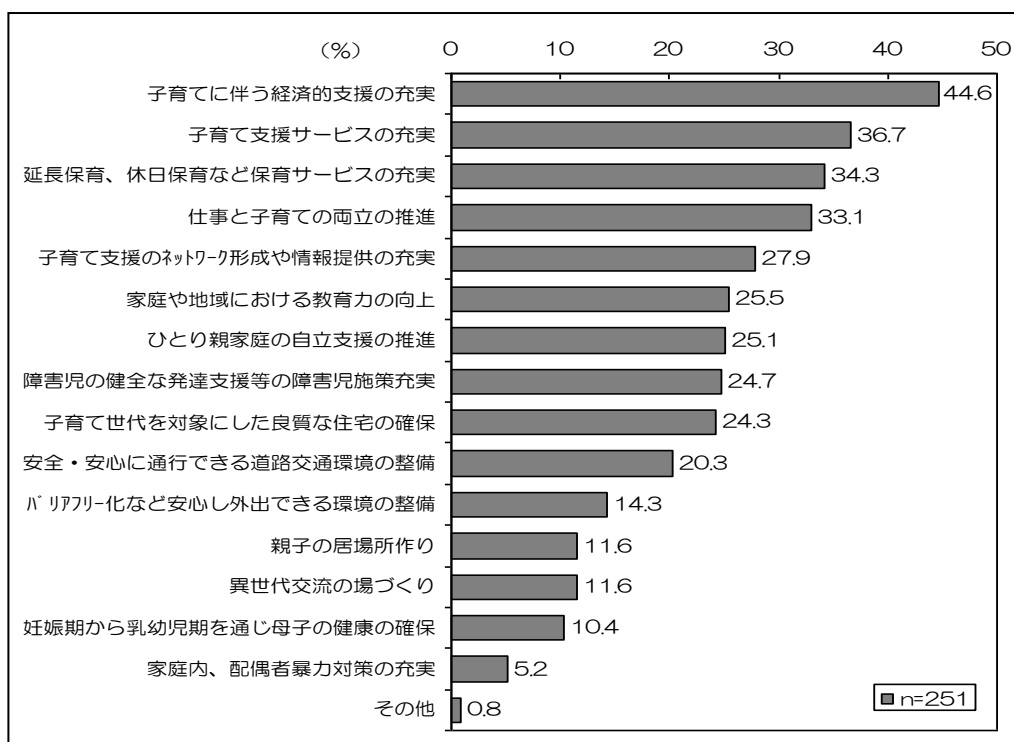
問17	子育て支援の環境づくりに対する施策について、区が重点的に取る組む必要性が高いと思われるものは何だと思えますか。 【複数回答（5つまで）】
-----	---

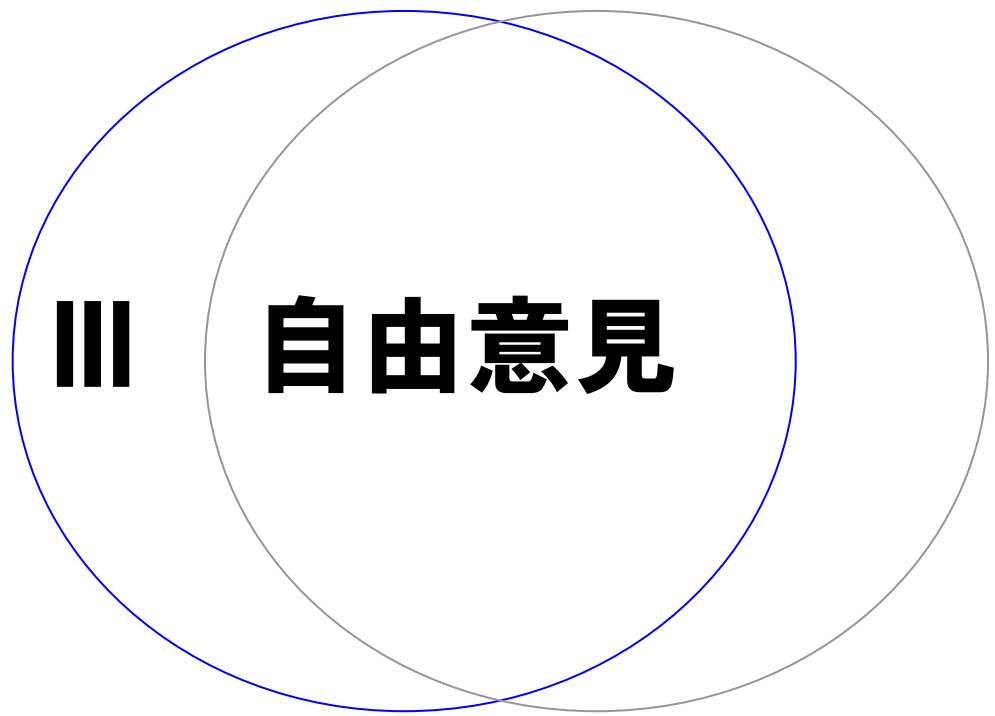
子育て支援の環境づくりのための施策の優先度としては、「子育てに伴う経済的支援の充実」が44.6%と最も多い結果です。

次いで、「子育て支援サービスの充実」（36.7%）や「延長保育、休日保育など保育サービスの充実」（34.3%）、「仕事と子育ての両立の推進」（33.1%）と続き、子育て支援のためのサービスの充実が求められています。

さらに、「子育て支援のネットワーク形成や情報提供の充実」（27.9%）、「家庭や地域における教育力の向上」（25.5%）、「ひとり親家庭の自立支援の推進」（25.1%）、「障害児の健全な発達支援等の障害児施策充実」（24.7%）、「子育て世代を対象にした良質な住宅の確保」（24.3%）、「安全・安心に通行できる道路交通環境の整備」（20.3%）、「バリアフリー化など安心し外出できる環境の整備」（14.3%）、「親子の居場所づくり」・「異世代交流の場づくり」（ともに11.6%）、「妊娠期から乳幼児期を通じ母子の健康の確保」（10.4%）、「家庭内、配偶者暴力対策の充実」（5.2%）といった順位になっています。

図表 170 子育て支援の環境づくりの施策で必要性の高いもの（複数回答／全体）





今回のアンケート調査では、子育てに関する多くの意見が寄せられ、その数は就学前児童の保護者 627 人、小学生の保護者 221 人、中学・高校生の保護者 99 人に上ります。

子育て応援券の発行など、これまで区が取り組んできた諸事業に対し一定の評価をいただきご意見がある一方で、区の取り組みに対する一層の期待や要望も多数寄せられています。

こうした多くの方々から寄せられたご意見・ご要望については、今後の子育て支援にかかわる区の施策や事業を企画・実施する段階において十分考慮することとし、貴重な資料として活用させていただきます。

なお、以下は、多くのご意見の中から今後の施策改善へのご要望やご意見に関し、類似する内容を類型化（カテゴリー化）し、整理したものです。

（１）就学前児童の保護者から寄せられた主な意見

就学前児童の保護者から寄せられた意見のうち、「子育て応援券」に関する意見・要望が 123 人に上り、最も多い結果です。

その内容としては、「子育て応援券として利用できるサービスの予約が取りにくく、なかなか利用できない」状況を指摘する意見が最も多く、必要なときに利用できるよう現行サービスの充実が求められています。

代表的なものを挙げると、「一番利用したい一時預かりの場所が少なく、なかなか利用できない。」「教室やコンサートなどはすぐに定員に達してしまい利用できない。」「物品の購入を可能にしてほしい。」「タクシーや予防接種などに使えるといい。」などです。また「お菓子づくりの親子講座に参加したが、材料費、講習料が親子2名で高額だった割に内容が平易でがっかりした。もう少し低額で実施できたのではと思った。」などサービスの質を問うものもありました。

これに次いで多くの意見が寄せられたのが「保育園の定数枠の増設」などの要望でした。具体的には、「仕事をしたくても保育園の空きがないため、フルタイムで働けない。」「区立保育園に入れず、認証保育所に通っている。保育料が高いし同年代のお友達も少ないので、来年からは幼稚園に通うことにした。」「週2～3回少額で預けられ、子育て期に仕事を失わず、子育てを楽し

めたらと思う。」「育児休業希望者が安心して取得できるように、1歳以降の入園枠を増やしてほしい。」などの意見が挙げられています。

また、「子どもが安心して遊べる場（公園）の確保」についても71人から意見が寄せられ、「地域で安全に遊ばせることのできる公園が少ない」、「0, 1, 2歳児用の遊具のある公園がほしい。」「芝生の公園をつくってほしい。」など、安全で子どもがのびのびと思いっきり遊べる空間に対する意見が挙げられています。

さらに、「地域の理解と協力」を求める意見も64人に上り、「近隣で遊ぶ子どもへの理解や見守り、子ども連れへの声かけや思いやり」などを求める内容が多く見受けられます。

また、就学前児童をもつ保護者では、なお一層の「経済的な支援」を求める意見も多く、60人に上ります。

これらに次いで、「一時保育・ひととき保育」の充実（38人）やベビーカーでの駅舎利用・公共交通機関利用時への配慮をはじめ、「施設のバリアフリー化」（35人）、地域ぐるみでの安全パトロールなどの「防犯対策の強化」（34人）を挙げる人もそれぞれ30人を超えます。

このほか、「安心して通行できる歩道・道路環境の確保」（27人）や「住宅支援の充実」（24人）、「子育て支援情報の提供」・「学校教育の充実」（ともに21人）、「小児医療の充実」（19人）、「学童クラブの充実」（18人）、「親子または親同士が交流できる場・機会の充実」（14人）などが挙げられています。

図表 171 就学前児童の保護者からの意見・要望の主な内容

(人)

1	子育て応援券の充実・利用枠の拡大	123
2	保育園の増設・保育サービスの充実	72
3	子どもの遊び場（公園整備）	71
4	地域の理解と協力	64
5	経済的支援	60
6	一時保育・ひととき保育の充実	38
7	親子で外出しやすい環境（バリアフリー化）	35
8	防犯対策の強化	34
9	安全な道路環境の確保	27
10	住宅支援の充実	24
11	子育て支援情報の充実	21
12	学校教育の充実	21
13	小児医療の充実	19
14	学童クラブの充実	18
15	親子でつどえる場や交流の充実	14
16	職場での支援・ワークライフバランスの啓発	13
17	児童館の充実	11
18	親としての教育の機会の充実	11
19	幼稚園の充実	10
20	病児保育（病後児保育）の充実	9
21	地域活動や世代間交流の充実	7
22	外出先での託児サービスの実施	5
23	母子保健事業・保健センターの充実	4
23	相談体制の充実	3
24	図書館事業の充実	2
25	先輩ママの子育て講話等への活用	2
25	その他	
	母親に対する就労支援	1
	双子家庭、ひとり親家庭に配慮した支援	各1
	発達障がい児への支援	1

(2) 小学生の保護者から寄せられた主な意見

小学校児童をもつ保護者からの要望・意見として最も多かったのは、「子どもの遊び場（公園）の充実」であり、41人に上ります。

就学前児童の保護者と同様に、「小規模な公園が多く、子どもがのびのびと思いっきり遊べる空間が不足している」状況を指摘する意見が多く見受けられるほか、「子どもにとっての安全性」を懸念する意見も見られます。具体的には、「最近の子どもはゲームばかりして外遊びをしないと言われるが、子どもが安心して楽しく遊べる場所が少ない。」「公園ではサッカーや野球などができる所が少ない。場所が空いていてもルールなので利用できない。」「子どもだけで公園に行かせたいと思うが、住宅街の中のひっそりとした公園が多く大人の目が少ないので（安全性に）不安を感じる。」などの意見が挙げられています。

次いで、「学校教育の充実」を求める意見が32人、子どもを地域で育む意識をもち、子育て世帯を見守るような「地域の理解と協力」を求める人が19人、「経済的な支援」の充実を求める人が18人、「児童館」の充実を求める人が17人となっています。

さらに、「子育て応援券の充実・利用枠の拡大」を求める人が13人、「親としての教育の機会の充実」の必要性を挙げる人が12人、「子育て世帯に対する職場での理解・ワークライフバランスの啓発」を求める人が11人となっています。

図表 172 小学生児童の保護者からの意見・要望の主な内容

(人)

1	子どもの遊び場（公園整備）	41
2	学校教育の充実	32
3	地域の理解と協力	19
4	経済的支援	18
5	児童館	17
6	子育て応援券	13
7	親としての教育の機会の充実	12
8	職場での支援・ワークライフバランス	11
9	小児医療の充実	8
10	相談体制の充実	8
11	保育園の増設・保育サービスの充実	7
12	地域活動や世代間交流の充実	7

13	一時保育・ひととき保育の充実	6
14	学童クラブ	6
15	親子でつどえる場や交流の充実	6
16	防犯対策の強化	6
17	安全な道路環境の確保	5
18	住宅支援の充実	4
19	子育て支援情報の充実	3
20	病児保育（病後児保育）の充実	1
21	外出先での託児サービスの実施	1
22	母親への就労支援	1

(3) 中・高校生の保護者から寄せられた主な意見・要望

中学生・高校生をもつ保護者の場合、最大の関心事は「学校教育の充実」であり、17人が意見を挙げています。例えば、「子どもの人数が少ないが精神的な部分も含め、いろいろ問題が多い。学校の職員数が少なく先生方の対応努力にも限界を感じる。」(中1)、「授業を充実させ、子どもたちのやる気を起こさせるような方法を考えてほしい。」(中2)、「塾や家庭教師に頼らなくても学力を伸ばすことができるよう先生の質の向上を望む。」(高3)など具体的な問題点の改善が求められています。

次いで、「経済的な支援」が12人であり、この年齢層の子どもをもつ世帯での生活課題が浮き彫りになっています。具体的には「物価高騰などで、生活が不安定になってしまうのではと、心配でたまらない。」(中3)、「医療費の中学生までの無料化は助かっている。医療費、教育費、生活費等家計にも負担が大きい。」(中3)などの意見が挙げられています。

また、「地域の理解と協力」を求める意見が8人から、「親としての教育の字機会の充実」を求める意見が7人から寄せられています。

このほか、放課後や休日などの「子どもの居場所づくり」や「子どもの遊び場の充実」、「親子または親同士で集える場や交流の充実」を求める人がそれぞれ5人となっています。

図表 173 中学・高校生の保護者からの意見・要望の主な内容

(人)

1	学校教育の充実	17
2	経済的支援	12
3	地域の理解と協力	8
4	親としての教育の機会の充実	7
5	子どもの居場所づくり	5
6	子どもの遊び場（公園整備）の充実	5
7	親同士・親子でつどえる場や交流の充実	5
8	相談体制の充実	4
9	住宅支援の充実	3
10	防犯対策の強化	3
11	保育園の増設・保育サービスの充実	2
12	安全な道路環境の確保	2
13	学童クラブ	2
14	小児医療の充実	1
15	職場での支援・ワークライフバランス	1
16	地域活動や世代間交流の充実	1
17	非行防止対策	1



IV 資料：アンケート票

